樺太紙恨会関係綴

庶務

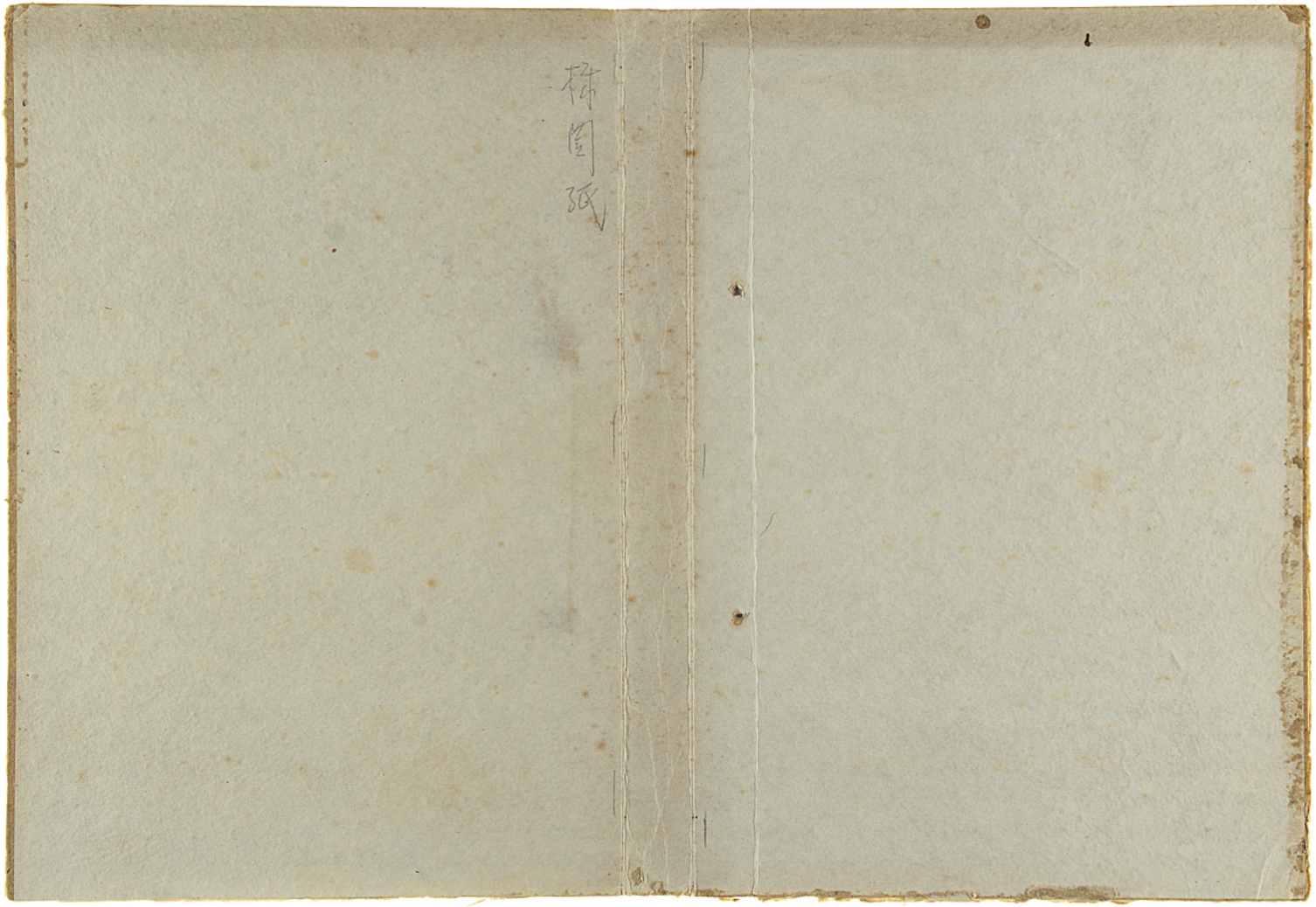
自昭和三十一年一月

樺太紙恨会（昭三一、一月）

貝島

戦後炭鑛資料（宮崎文庫）4559

大之浦 215


梅園紙

既決文書件名簿

整理番号	件名	発送元名	文書番号	年月日	受付番号	年月日
一	第四会国際会議に関する件	貴族院議長	第一〇号	三〇、一二、二〇	第五七八号	三〇、一二、二八
二	特別関税委員会官制中改正ノ件	内閣書記官長	第一八号	三一、二、一〇	第一二七号	三一、二、一〇
三	印刷所建設ノ件	〃	三一、二、五	三一、二、七		
四	放送講習会に関する件	〃	三一、二、一一	三一、二、一五		
五	著作権法改正ノ件答申ノ件	〃	三一、二、一一	三一、二、一九		
六	九条特別紙幅ニ関スル表彰式ノ件	〃	三一、三、一五	三一、三、一六		
七	宝塚歌劇団理事ノ件	〃	三一、三、一八	三一、三、一九		
八	三月場外馬券合相集会	〃	三一、三、一八	三一、三、二七		
九	共同アスタ事件	〃	三一、四、二	三一、四、三		
一〇	新者宣伝ノ件	〃		三一、四、五		

整理番号	件名	発送元名	文書年月日番号	受付年月日番号
一一	共同ダスク要望	日本社会党九州支部		三二、六、九
一二	教室学校講師の待遇願	全日本教職員組合九州支部	三二、一〇、二〇	三二、一〇、二四
一三	教育事業会員集状	全 上		三二、一二、九
一四	日本婦人団体協議会九州支部結成報告書	日本婦人団体協議会九州支部		三二、五、二〇
一五	農業事情の現状共同ダスク促進について	全	三二、七、一	三二、七、一〇
一六	教育事業会招集状	全	三二、七、一九	三二、七、二〇
一七	竹島の返還に関する共同ダスクの要望	全	三二、八、二七	三二、八、二八
一八	教育事業会招集状	全	三二、九、一〇	三二、九、一二
一九	第五回九州のうたごえ共同ダスク要望	全	三二、九、一〇	三二、九、一九
二〇	教育事業会議要望	〃	三二、一〇、一	三二、一〇、一
二一	第十回全国総会報告及び九州支部結成大会の要望	全		三二、一〇、二〇

二二	全国特用販売協会第十一回全国総会御日常状	日本特用販売協会 理事長 吉塚孝二郎	三五、一、一五	長五七八
二三	全国協会動生会 女部協力理事会の報告状	大阪市都島区 有吉宗造	三五、七、五	三五、七、六
二四	全国特用販売コンクール表彰式並に全国特用販売研究集会案内状	特用販売協会 理事長 吉塚孝二郎	三五、六、六	三五、六、一〇 長八八
二五	一九六〇年全国特用販売コンクール表彰式並に全国特用販売研究集会案内	日本特用販売協会 九州支部	三五、五、三〇	三五、六、一〇 長五二八
二六	支部幹事会開催の件	日本特用販売協会 九州支部	三五、七、七	三五、七、七 長六二八
二七	第十二回九州勧業会開催案内	〃	三五、八、二五	三五、八、二〇 長六二八
二八	第八回支部総会日常状	特用販売協会 理事長 宮崎孔二郎	三六、一、一	三六、一、一〇 長七七〇
二九	第八回支部総会日常状	日本特用販売協会 大阪支部 支部長 田中吉	三六、四、一	三六、四、五
三〇	共同デスクの開設案内	〃	三六、四、二六	三六、四、二六 長八四〇
三一	幹事会報告状	〃	三六、一〇、二五	三六、一〇、二六
三二	拡大幹事会報告状	〃	三六、一二、五	三六、一二、六 長五八八
三三	〃	〃	三七、八、八	三七、八、九 長六二九

整理番号	件名	発送元名	文書番号	年月日	受付番号	年月日
てに	第十三回全国統合運動状	日本特別政治会	/	三一、一、一	三一、一、九	第六五。
てホ	第十四回九州青年宣伝芸術の事ハ	ヒ	/	三一、五、一	三一、五、一一	/
てヘ	第九回全部統合官憲状	ヒ	/	三一、五、一	三一、五、一二	第八二二
てト	拡大特事会の事ハ	ヒ	/	三一、六、一	三一、六、一一	第一九七
てチ	第九九州統合同盟会事ハ	ヒ	/	/	三一、六、一一	第一九九
てリ	事件の移転に伴う臨時会合の事	日本特別政治会九州支部	/	三一、六、一〇	三一、六、二六	/
てヌ	南室大学の法をきき出そう	ヒ	/	三一、	三一、六、二六	第二四
てル	第四全国代表者の中いに現地共同研究のよびかけ	ヒ	/	/	三一、八、一七	/
てヲ	特事会招集状	ヒ	/	三一、	三一、一〇、一一	/
てワ	特別政治会員の怒鳴合いの事ハ	特別政治会九州総局	/	三一、一〇、六	三一、一〇、一三	第一九七
てカ	拡大特事会報告状	特別政治会九州支部	/	/	三一、八、一一	/

四五	第七回軍事委員会報告書	日本停戦協定	三八、一、一〇	三八、一、一〇	三八、一、一〇
四六	第十四回全国総合会議報告	日本停戦協定	三八、一、一九	三八、二、一〇	三八、二、一〇
四七	特事会報告	停戦協定及び対日新政策			
四八	日本ポーツマス会議及び停戦協定に対する新政策。 よりの件	〃		三八、三、一五	三八、三、一五
四九	三、二に大集会及び、対日通牒共同デモの事	〃		三八、三、一九	三八、三、一九
五〇	三、二に共同デモの事	〃			三八、三、二〇
五一					
五二					
五三					
五四					
五五					
五六					

結了

昭和三十年十二月二十日

御中

東京都千代田区丸の内三ノ一一東京都庁内
日本機関紙協会
理事長　菅川昭三

第七回全國總会開催についての御案内

――機関紙、宣伝活動についての全國懇談会――

日ごろのご健斗とご支持にたいし、こころから感謝いたします。さていよいよ先輩のように才七回全国総会をひらくことになりました。例年のように非加盟日刊紙や職場新聞、既刊紙の方がたにもひろく来っていただき、新年に小さわしく仲良く元気にやりたいと思いますので、万障くりあわせ多数ご出席下さるようおねがいします。

なおどうしても出席不能のばあいは委任状をご郵送ねがいします。

記

（と　き）　昭和三十一年一月十四日（土）午前十時開会～十六日（月）午后五時

（ところ）　東京参議員会館（千代田区麹町三丁目）電話番ケ関（58）〇一二一

（総会日程）

才一日　経過報告、決算報告、この一年のあゆみ（議案の報告）
　　会員の主な活動の経験発表

才二日　午前、前日にひきつづいて経験発表、専門家の講演
　　午后四会場で分散会
　　――夜は自由参加のかたちで四つの懇談会
　　（婦人、写真、マンガ、雑誌、出版）

才三日　午前四会場で分科会（孔版、活版、家庭版、文化活動）
　　午后　しめくくり

以上

（備　考）

宿舎のない方はあっせんします。なるべく早くお申しこみ下さい。

○全国会場（麹谷駅近く）二食付五〇〇円

○全国連（明治神宮近く）泊のみ二〇〇円食実費

578 30.12.28

159

委仕状

所在地
商標名

㊞

都合により第七回総会には出席できませんので、議事一切を

に委仕いたします。

昭和　年　月　日

日本機械紙協会
理事長　草川昭三　殿

おねがい

日夜の御苦労さまです。

さて、日本綿関業協会では、一月十四日から三日間、第七回総会（綿関業の全国総会）をむかえることになり、いまその準備に努力しております。つきましては、この総会費用が、財政上の理由で、ふめないので、会員団体、賛助団体のみなさんに特別のご協力をおねがいすることになりました。総会費用は、予算として五万円計上していますが、実際には、補助、寄付が多く収入が計画どおりにいかなかったので、総会準備委員会としてはやむをえず、みなさんのご協力をおねがいする、ときめた次第です。

前の総会のときも同じ理由で、会費一ヶ月分のご負担をおねがいしましたが、こんどは、加盟団体が増えましたので、半ヶ月分以上おねがいしたいということになりました。

まことに申訳ありませんが、事情をお察しくださいまして、ご協力くださいますようおねがいします。なお総会費用の予算は、別表のとおりです。

総会には、一人でも多くご出席願いますよう、あわせておねがいいたします。

昭和三十年十二月二日

日本綿関業協会

総務部長　早川馬三

殿

第7回總会予算

30.12.20

収入の部		支出の部	
分担金（a）	40.000.—	議案印刷費（協会設備集積刷1000×5）	5.000.—
資料代（b）	10.000.—	議事印刷費（よびかけ、招請状ほか）	10.000.—
注(a) 全加盟団体の半額とすれば、約5万円になるがきりのない数字とした。		会場費（準備会とも含む）	7.500.—
		機関紙発行費	3.000.—
		通信郵送費（350通×5P 2回＝5.600円 その他 3400.—）	9.000.—
		文房具費	2.500.—
		交通・運搬費	3.000.—
(b) 非加盟団体からの総会参加者も100と1人100円		議事録印刷費（250部×20）	7.000.—
		雑費	3.000.—
合計	50.000.—	合計	50.000.—

昭和二九年度収支明細表

収入の部（ハ）

月別	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
繰越金	[illegible]									
入会金	3[illegible]000		300000	5[illegible]000	[illegible]					[illegible]
賛助金	6,300,000	1,[illegible]000	6,235,000	6,[illegible]000	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
事業収入	2,[illegible]000	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
片面章売上収入		[illegible]	3,[illegible]000	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
雑収入	23,[illegible]000		8,[illegible]000	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
繰越収入			1,[illegible]000	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
前受入金			[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
雑収入			1,[illegible]000	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
雑益収入			[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
期首現金										
計	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

一九五四年度　決算報告書の提出について

別紙のとおり、一九五四年度決算報告書ができ上りましたので報告いたします。

会計監査の監査報告書と合わせて報告いたします。

一九五五年　月　日

日本機械紙協会

理事長　草川昭三　㊞

昭和29年度決算報告書

自 昭和29年4月1日
至 昭和30年3月31日

収入の部

項目	予算額	金額	月平均	摘要
前期繰越金		839.30		
入会金	2,200.00	4,750.00	395.83	
会費	840,000.00	797,700.00	66,475.00	
寄金	960,000.00	419,213.00	34,934.42	
上納金	56,000.00	23,100.00	1,925.00	
文書料	168,000.00	143,000.00	11,916.67	
賃料代		167,150.00	13,929.17	
事業収入	240,000.00	322,964.00	26,913.66	
雑収入		26,102.70	2,175.23	
仮受金		9,350.00	779.16	
合計	2,251,200.00	1,914,169.00	159,444.14	

支出の部

項目	予算額	金額	月平均	摘要
事務費	240,000.00	462,030.00	38,502.5	
交通費	144,000.00	162,034.00	13,512.50	
通信運搬費	156,000.00	170,095.00	14,174.58	
人件費	960,000.00	877,900.00	73,325.00	
会議費	24,000.00	31,332.00	2,611.00	
印刷費	624,000.00	435,840.00	36,320.00	
用紙費	180,000.00	49,590.00	4,132.50	
編集費	36,000.00	43,890.00	3,657.50	
文書費		1,500.00	125.00	
保険料	60,000.00	31,860.00	2,655.50	
賃金		16,480.00	1,373.34	
雑費	34,000.00	40,089.00	3,340.75	
預金		350.00		
合計	2,251,200.00	1,914,169.00	159,484.92	

貸借対照表

昭和30年3月31日現在

借方 科目	借方 金額	貸方 科目	貸方 金額
現金	53.00	未払金(イ)	88,267.00
預金	259.00	仮受金(ホ)	9352.00
仮払	28.00	当期利益金	190665.00
未収金(イ)	254992.00		
有価証券(ロ)	20,000.00		
什器備品(ハ)	13000.00		
合計	288282.00	合計	288282.00

備考

(注) イ 未収金内訳　会費 44000.00　教科代 21,500
　　 仮会費 115,240.00 (うち実収入 52,250.00)
　　 会費代 51,000.00　上記金 23190.00

　　 ロ 有価証券　日本特殊鋼印刷株券 1株100円 200株

　　 ハ 什器備品　自転車、ロッカー、机、椅子、官製印鑑ほか

　　 ニ 未払金　印刷代 82,750.00　健康保険 1,359.00
　　 大阪府、港税務金 259.00
　　 印刷代 1,275.00

　　 ホ 仮受金　市商工課出向者賃金カンパ会計より

文化の集（二）

月	収入	支出
10月	1,340,000	
11月	1,000,000	4,062,000
12月	950,000	88,500,000
1月	500,000	5,000,000
2月	1,000,000	962,000
3月	550,000	9,000,000
合計	5,340,000	107,524,000
10月		4,000
11月		1,000,000
12月		2,000,000
1月		1,500,000
2月		1,000,000
3月		1,000,000
合計		5,504,000
10月		1,000,000
11月		1,000,000
12月		2,000,000
1月		1,000,000
2月		1,000,000
3月		1,000,000
合計		7,000,000
10月		2,000,000
11月		1,000,000
12月		2,000,000
1月		1,000,000
2月		1,000,000
3月		1,000,000
合計		8,000,000
10月		1,000,000
11月		1,000,000
12月		2,000,000
1月		1,000,000
2月		1,000,000
3月		1,000,000
合計		7,000,000
10月		1,000,000
11月		1,000,000
12月		2,000,000
1月		1,000,000
2月		1,000,000
3月		1,000,000
合計		8

支出の部（1）

科目	4月	5月	6月	7月	8月	9月
事務費	1742.00	4237.00	4281.00	877.00	1485.00	3471.00
交通費	15430.00	5350.00	11.645.00	17.085.00	12.820.00	12.510.00
通信運搬費	11.674.00	10.138.00	12.914.00	9.072.00	6.348.00	16.452.00
人件費	68.900.00	60.100.00	76.000.00	68.700.00	71.500.00	72.500.00
会議費	1.522.00	300.00	2.400.00	3.190.00	2.335.00	1.300.00
印刷費		84.330.00	13.552.00	42.570.00	44.850.00	2.620.00
雑費	1650.00	4.800.00	1.860.00			4.430.00
諸費	1.770.00	4.760.00	3.685.00	2.490.00	1.965.00	2.330.00
広告費						
賃貸料	2.104.00	2.119.00	2.654.00	3.147.00		3.270.00
賦金	2.000.00	2.800.00	2.000.00	2.000.00		2.000.00
旅費	1.138.00	3.680.00	5.519.00	1.875.00	3.511.00	3.209.00
繰越金					5.002.00	17.504.00
借入金			10.000.00			
合計	108.170.00	182.034.00	146.548.00	151.215.00	149.174.00	141.583.00

支出の部（2）

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
4013.00	4094.00	5.578.00	3327.00	7226.00	3830.00	46.203.00
4.840.00	13.605.00	16.394.00	24.758.00	15.775.00	15.442.00	162.034.00
14.548.00	24.564.00	31.977.00	12.200.00	16.162.00	17.997.00	170.075.00
72.510.00	98.100.00	96.900.00	71.100.00	83.500.00	87.900.00	877.900.00
4.620.00	3.400.00	5.775.00	2.440.00	1.940.00	2.050.00	31.332.00
41.670.00	11.000.00	53.410.00	47.610.00	67.715.00	24.105.00	435.840.00
12.000.00	2.000.00	11.000.00	4.000.00	2.350.00	5.500.00	48.370.00
3.895.00	4.370.00	8.215.00	3.170.00	4.630.00	2.440.00	43.370.00
				1.500.00		1.500.00
770.00	5.750.00	90.00		2.865.00	4.075.00	31.866.00
3.120.00		2.000.00		360.00		16.480.00
4.855.00	5.470.00	3.865.00	4.290.00	1.170.00	3.112.00	40.083.00
3.200.00	4.000.00	24.000.00	6.690.00	1.000.00	2.000.00	69.390.00
2.000.00		28.000.00				32.000.00
						2.012.203.00
173.745.00	124.373.00	267.916.00	179.542.00	213.398.00	167.471.00	残金 35.400

会計監査報告

昭和二九年四月以降十二月末日迄の収支表を監査の結果、会計上のまちがいはありません。

尚今後の会計処理に当って、未収分、未拂分を明確に計上されることを参考意見として申述べます。

昭和三十年一月十四日

会計監査

伊藤 邦夫 ㊞

太田 慶太郎 ㊞

青柳 盛雄 ㊞

昭和39年度予算案

（自昭和39年4月1日
至昭和40年3月31日）

日本農民組合

収入の部

科目	摘要	1ケ年		1ケ月	
繰越金	前年度繰越金	38,400	00		
入会金	（実績）1/6～3/6 10組合650.—	2200	00	600	00
	大阪支部予算 2000.— 前年度一律150円徴収				
会費	（実績）9月4～12月の9ヶ月間に597,255—	900,000	00	75,000	00
	平均月額66,640— 1年へ別入会7組合金額4200—				
協会報	現在旬刊26,000部印刷	660,000	00	55,000	00
	頒料、1352円×36＝48,672円（月額）（年額）				
	各支部取の分 大阪 350円、九州 260〃、神奈川 200〃、東京 160〃、富山 20〃、名古屋 30〃 980円 5ヶ月間＝14,700円				
	55,260				
	（実績）月平均35,400円 定価約265部				

～ 二 ～

支部上納金	支部会費の10％ 実績 9月間 7970.— 1月～3月13,610.—	96,000	00	8,000	00
	各支部 大阪 4780、九州 1900、東京 1500、神奈川 700 8,880.—				
	(例) 会費徴収するよう努力することと沖縄一揆				
広告料	（実績）日本共同印刷所 12,000、あかつき〃 3,000、東亜〃 1,500	240,000	00	20,000	00
	その他光岡印刷、合同出版社等を見込む				
資料代	（実績）15,500	192,000	00	16,000	00
	資料交換による収入				
	大学研究所、労働団体など資料交換の増大				
事業収入	本員各種講座、等	660,000	00	55,000	00
	実績 出張 20,000.—、出版 20,000.—				
	その他講演、コンクール等				
合計		2,755,200	00	229,600	00
繰計		2,793,600	00		

2

結

拝啓

春の貨金斗爭を前に ますます御健斗のことと存じます。

さて このたび 参議院会館でひらかれました日本桟関紙協会全国總会 および 全国桟関紙懇談会には 全国から 三百余名があつまり、この一年間の宣伝活動の経験やなやみを交流し、多くを学ぶことが できました。

貴組合では まことに御多用中のところ、また遠路のところを この会の意義をみとめられ代表を参加せしめられたことを、ここにあつく御礼申しあげます。

九州からは十二団体十五名が出席しましたが、学び

ました経験を九州で生かし、こんごの斗争にそなえていきたいとおもっています。このため、早速でございますが、別項のように拡大幹事会をひらきますので、参加者を出席させていただき、報告したいと思います。どうか出席方御配慮下さるようおねがいしますとともに、御礼を申しあげます

昭和三十一年一月二十日

日本樺太紙協会九州支部
支部長　浦本由男

九州炭労教宣部長
執行委員長
組合長　殿

（十三行）

MRG

ごあんない

おめでとう おめでとうと いっている間に 一月は またたくうちに すぎようと しています。

さて、さきに おしらせしました 日本機関紙協会の全国總会と 全国機関紙懇談会は 十四日から三日間 東京でひらかれ、文字どおり 全国各地から 二百四十四団体、三百名をこえる宣伝活動家があつまりました。九州からも十二団体が出席し、経験交流や 討論に加わり、

どうしたら 生き生きとした通信は あがるか、共同斗争のための宣伝は どうするか、機関紙の大衆性と 指導性は どうか、会社の金をかけて やっている宣伝と どうたたかうか などなど 多くのことを まなんで きました。

この總会を ありのまま報告するため、つぎのとおり 拡大幹事会を ひらきますので、せひとも出席されて 全国の経験を とりいれ、同時に これからの活動について 話合いたいと おもります。

なお 当日は 本部から 富田常任理事も 出席します。

一月 二十日　福岡市 上中洲町 一、一八

日本機関紙協会九州支部

支部長　浦 本 由 男

全国總会出席団体

国野バルブ 住友金属小倉製鉄、八幡製鉄（二名）、北九州水道、日炭高松 大正鉱業

貝島大 浦 古河大峯 三池染料 谷崎硝子 三菱長崎造船 福岡県教、支部事務局

記

とき　一月二十五日（水）午前十一時から

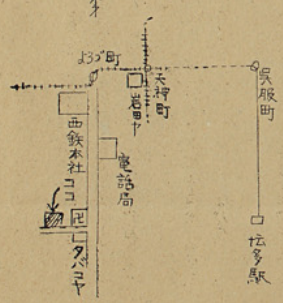
ところ　炭労九州地方本部二階

福岡市 紺屋町一〇　電話 四、七一五二

市内線 ふるつ町下車 歩いて十分 地図をみて下さい。

議題　全国總会、全国機関紙懇談会の報告

こんごの活動について



31.1.23

組合長	書記長	政務部長	労働部長	厚生部長	教宣部長
宮	宮	宮			

3

御案内

春季斗争をひかえ、いろいろ御多忙のことと存じます。
労働者をはじめとする国民の平和と生活と权利を守る斗いを進める上で、教宣活動を一段と強めねばならぬことが特に強調されています。
当協会も本年度はさらに活動を活発にし、皆様の御期待にそうよう決意致しています。
機関紙活動と切りはなすことのできない印刷所の問題についていろいろ検討し、又御相談申し上げて参りました。
この機皆様に御集り願い協会と表裏一体となって早く、きれいに、早くしてきる印刷所の建設を具体的に御検討頂き度いと考えます。
つきましては、御多用中はなはだ恐れ入りますが、左記により御参加下さるようお願い申し上げます。

31. 2. 7

記

一、日時　二月九日（水曜）午前十一時三十分より
　　午后五時まで

一、場所　八幡市中央公民館三階和室
（口実、八幡駅下車上る。四条～八幡市御前または枝町下車）
八幡製鉄労働会館前

※昼食は当方にて用意致しますので時間の厳守方お願い致します。筑豊線御利用の方は八幡駅午前十一時十分着の直通列車の御利用が便利です。
尚、当日はできれば委起人団体の送出まで致したいと考えますのでお含みおき下さるよう

一九五六年二月三日

日本機関紙協会九州支部

放送講習会についてのごあんない

春の斗争から選挙にかけて、自で見る宣伝のほかに、自によるすでに各組合では、ニュース九州や場内マイク、街頭宣伝などどんどんやられていますが、その技術については未熟の域をでません。

さいわいラジオ九州労働組合の後援をえて、次のとおり放送講習会をひらきますので、ふるって参加されるようおねがいします。

記

一、とき　二月二十六日（日曜日）午前十時から午後五時頃迄

一、ところ　西鉄労働組合（日本都会武蔵大牟田駅一二八番電話（四）二八〇一番）電停上ノ橋から海ぞいに下ノ橋下車中間から海ぞいに入る（地図参照）

一、講師　ラジオ九州篠野放送課長　ラジオ九州放送制団　藤川ナツコ女史ほか数名

一、内容　放送技術についての話し方　マイクのつかい方　話しことばの特長　録音編集の要領　そのあと録音の実習とその批判をしてもらいラジオ九州放送局を見学します

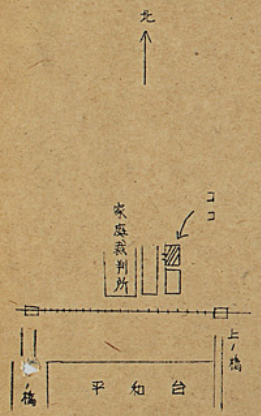
一、聴講料　一人壱百円　協会加盟団体は一人五拾円

二月十一日

日本民間放送労働組合九州支部
支部長　浦本由野

後援
ラジオ九州労働組合
福岡地方労働組合協議会

地図



31.2.15

放送講習会についてのご あんない

組合長	副組合長	書記長	財務部長	労働部長	厚生部長	教宣部長

の斗爭から送筆にかけて、自で見る宣伝のほかに、よる宣伝の果す役割をみのがすことはできませんでに各組合では、ニュースカーや場内マイク、街頭などとゆたろい宣伝がおこなわれていますが、そ術についてはまだ未熟の域をでません。わいわいラジオ九州労働組合の後援をえて、次のと放送講習会をひらきますので、ふるのって参加されうおねがいします。

記

一 とき　二月二十六日（日曜日）
　午前十時から午后五時頃迄

一 ところ　西鉄労働組合本部会議室
　大名町一二八電話(四)二八〇一
　電停上ノ橋から下車
　中間から海ヘ入る（地図参照）

一 講師　ラジオ九州篠野放送課長
　ラジオ九州放送劇団
　藤川ナツコ女史ほか数名

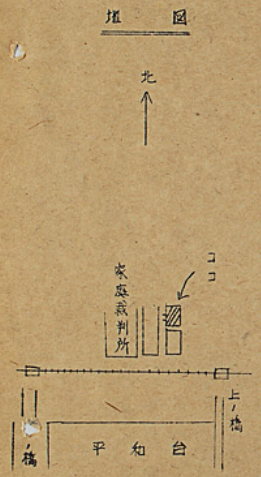
一 内容　放送術について
　声のだし方
　マイクのつかい方
　話しことばの特長
　録音、編集の要領
　そのあと録音の実習とその批判をしてもらいラジオ九州放送局を見学します

一 聽講料　一人壹百円
　協会加盟団体は一人五拾円

二月十一日

日本民間放送協会九州支部
支部長　浦本由野

後援
ラジオ九州労働組合
福岡地方労働組合協議会



31.2.15

結了

春日原基地の共同デスクにお集り下さい

毎日御苦闘のことゝ思います。

全駐労板付支部では自出にうたい自出に学びすきな映画を見、特肉紙の作り方を研究するなどの運動をやったと云う理由で首切り出勤停止を米軍が申し渡し、また、この内容は国会でもとり上げられさすがの牧野法務大臣も「近頃不愉快な出来ごと」と答えざるをえませんでした。

基地の労働者は三年前から作業合理化をやられていろいろの体験を味わいました。

毎日の作業も日本人のほこりをきずつけられることばかりです。春の斗争はこゝでもねばりよく斗われ他産業の職場職場のたゝかいに共通した闘げましと交流がはじまつてゐます。

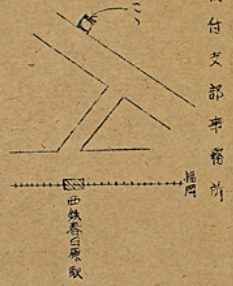
この機会に春日原基地を闘斗いの内容をよく知り、真相を調査するための共同デスクを待ちます。

敬宣治動家なこぞつて御集り下さい。

記

とき　二月二十日(月曜日)
午後一時から五時頃まで

ところ　春日原大通り
全駐労板付支部事務所



※トラックに乗つて基地の事情を見たり、基地労働者の生活を知る写真作文など準備する予定です。友を誘ひ家族からはぐるばる二ユースカーで参加します

二月十一日

日本特殊紙協会九州支部
支部長　浦本由男
(九州炭労教宣部長)

全駐労板付支部
福岡地方労働組合協議会

31.2.15

組合長	副組合長	書記長	戰旗部長	勞働部長	厚生部長	教宣部長

結了

春日原基地の共同デスクにお集り下さい

日鋼争議のことゝ思います。

労板付支部では自出に学びすきな労板付支部では自出にうたゝ自出に学びすきな
を思、作肉紙の作り方を研究するなどの運動をや
と云う理由で首切り出勤停止を米軍が申し渡し
た。この問題に国会でもとり上げられさすがの牧
稲大臣も「近頃不愉快な出来ごと」と答えざるをえ
んでした。

旭の労働者は五年前から作業合理化をやられて
いるの体験を味わいました。

毎日の作業も日本人のほこりをきずつけられるこ
とばかりです。春の斗争はこゝでもねばりよく斗われ他
産業の職場職場のたゝかいに共通した問題としたゝかげました。

満ぞくはじまつてゐます。

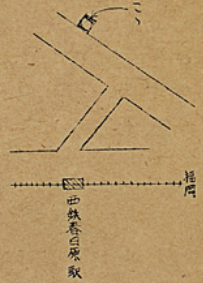
この機会に春日原基地を巡斗いの内容をよく知り
あい、真相を調査するためわ共同デスクを待ちます。

敎宣活動家はこぞつて御集り下さい。

記

とき　二月二十日（月曜日）
午後一時から五時頃まで

ところ　春日原大通り
全駐労板付支部事務所



※トラックに乗つて基地の手前を見たり、基地労働者の生活を知る寄書作文など準備する予定です。
奥を日炭高松労組からはるばる二ユースカーで参加します。

二月十一日

日本林産紙協会九州支部
支部長　浦本由男
（九州炭労教宣部長）

全駐労板付支部
福岡地方労働組合協議会

31.2.15

組合長	専務	書記	職業	労働	厚生部長	教宣部長
組合長						

結了

九州機関紙誌コンクール表彰式のご案内

一九五六年　三月十五日

日本機関紙協会九州支部

支部長　機関紙コンクール実行委員長　浦本由男

春斗のさなか皆様まことに御健斗のこととおもいます。

さて昨年末おこないました第一回全九州機関紙誌コンクールは審査の結果つぎのとおりきまり、その表彰式および経験交流会を左記によりおこないますので御多用とはおもいますが御出席をおねがいします。

記

とき　三月二十七日(火)　午後一時から

ところ　炭労九州地方本部　福岡市　鉄砲町一〇　デンワ四七二五　市内電車　よろづ町下車　南へ十分

内容　一、審査発表　二、賞品授與　三、講演　さいきんの資本攻勢とわれわれの宣伝　講師日本機関紙協会理事　富岡隆氏　四、宣伝活動の経験交流会

6.

審査成績

Aクラス（活版で組織の場合機関紙）

入選　組合情報（三池）　さしま（神鉄）　熱風（八幡製鉄）

佳作　たかまつ（日炭高松）　豊労（明治鉱業）　ぼたやま（日鉄）　たかは（三井田川）　みいけ（三池）　炭胞（九工）　弧友（三菱方城）　炭車（三菱山田）

A′クラス（活版で支部、分会青年婦人部の機関紙）

入選　青婦の友（八幡製鉄青年婦人部）　ちくほう（福岡県銀行組織労働支部）　なかま（鹿児島銀行青年婦人部）

佳作　青いリボン（八幡製鉄本事務所婦人部）　全相連（九州電力連合会）

Bクラス（孔版の機関紙）

入選　すいしん（日鉄）　広場タイムズ（日鉄）　花の輪（ウルノ）

佳作　おおづる（炭鉱）　板付通信（板付）　つくしの（全国官庁職員婦人部）　日産かがみ（日産）　婦人部だより（岩田屋婦人部）

Cクラス（謄写）

入選　わかもの（熊本郵便局）　ビル（福銀支部）　途上（枕崎市役所）

佳作　新声（国鉄志免）　スクラム（八代）　ふたば（熊本営林局）　なかま（福岡市役所青年部）

Dクラス（リーフレット）

入選　福映協ニュース（福岡映画）　うたの仲間（廣内六市連うたごえサークル）

佳作　水路（北九州水道文学サークル）　崎戸うたごえニュース（三菱崎戸）

以上

組合長	副組合長	書記	戦術	学オルグ	厚生部長	教宣部長
斉藤	三井	三池	三井	三池	三井	三池

結了

三池炭砿労組共同デスクの御案内

斉藤斗志二は三井三池のたたかいを復興として、はげしい対決の状態になっています。ぜったいに負けられないこの対決の中で三池の兄弟たちは、いよいよ団結をかためてすぐれた活動をくりひろげています。日本中のなかまたちの目も三池に注がれています。

このたたかいをたすけ、ひろげ、まもり、またこのたたかいから多くを学ぶために、みんなで共同デスクをもちたいと考えます。

ぜひ御参加下さるよう御案内申しあげます。

とき　三月二十二日(木)午前十一時から

ところ　三池炭砿労組本部事務所

大牟田市不知火町(しらぬひまち)

報告をさいたあと共同取材をやりますので カメラなど御用意下さい。

一九五六年三月一四日

日本労農紙協会九州支部

支部長　浦本由男

昭31.3.16

組合	出張
厚生部長	
教宣部長	

結了

三月 拡大幹事会招集状

三月一四日

日本栈敷紙協会九州支部
支部長 浦本 由男

春のたたかいのさなか、みなさま即健斗のこととおもいます。このたたかいをさらに発展させ、メーデー、選挙を前に第三回九州教育宣伝学校の開校、またことしも北京から栈敷紙協会あてメーデーの招待がきておりその人選もあり、つぎのとおり拡大幹事会をひらきますので、即忙しいなかでしょうが、ぜひともお集り下さい。

とき 三月二十六日、二十七日（二十六日 午前十一時まで）

ところ 炭労九州地方本部 福岡市鉄砲町一〇 西鉄市内線よろづ町下車南に入り十分

試題 一、第三回教育宣伝学校の具体的計画 日取り・講座内容・講師の決定 学校長・実行委員の決定

一、北京メーデー報導代表派遣 三月五日、中国工人日報社長から協会あて五名の招待がきました。まだ正式に本部からの通知はありませんが、昨年どおり九州から一名はおくれるとおもいます。その人選をおこないます。招待は、旅費と滞在費は中国の負担で四月二十五日迄北京到着。

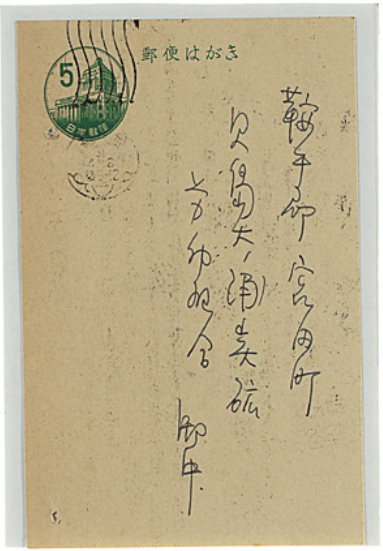
一、四月の行事計画、教宣ノートの編集計画

一、その他

なお 二十五日は版画講習会をおこないますのでなるべく出席して下さい。
二十七日は午后から栈敷紙コンクールの表彰式をおこないます。

以上

31. 3. 16



郵便はがき

5 銭

日本郵便

鞍手郡宮田町

貝島炭鑛株式会社

御中

共同デスクのごあんない

北九州水道労組で初二〇〇〇円の賃上げをはじめ八項目の要求で実力行使に入りました

労のたたかいのしめくくりとして　みんなで協力するために共同デスクをひらきますので家族総出と思いますがふるって御参加下さい

とき　四月六日　午前十一時

ところ　八幡市中央区丸山町一丁目5

北九州水道労組　に集合して下さい

西鉄花畑線　中央区車

福岡市上中浜町一，一八

日本社会党福岡支部支部長

浦本由男

31. 4. 3

共同デスクのごあんない

四月から二〇〇円の賃上げをはじ
来て実力行使に入りました
のしめくくりとして　みんなで協
共同デスクをひらきますので
ますがふるって参加下さい

月六日　午前十一時
幡市中央区丸山市役所旧ら
花井水道労組
労働会館　中央区玉
発花井線
・浜町一・一八
・会九州支部支部長
浦本由男

組合出張				
町				
一				
戦				
労働会館				
厚生部長				
教宣部長				

昭31.4.3 長崎大学図書館

10

ごあんない

拝啓　たたかいの早春もすぎて春もたけなわになつてきました。さて昨年の四月と十月に福岡でひらきました教育宣伝学校は全九州の教宣活動の経験の交流をすすめるのに大きな役割を果たし九州の労働運動になくてはならぬものの一つになつてきました

すでにあちこちから学校をひらいてほしいとゆう要望がのべられています。メーデーをひかえて教宣活動の準備も大事になりますので第三回の教宣学校をこの春の最中にひらくことに決めました

前二回の良いところ悪いところから学んでこんどは各職場の人達が三日間生活をともにし交流し話しあつて至験をたかめ理論を向上させることができる点を中心に考えました　講師はこの話しあいを援けることができるように努力する方針です

春斗のゆたかな至験をもちよつて多くの職場から交流しあい総括することは今後の運動にかならず大きな収穫をもたらすものと確信します

どうか各地から沢山の活動家が参加されるようお願いします

日本共産党

（福岡市上中洲町一一八）

実行委員団体

日本製鐵労働組合九州地方本部　三井三池炭鑛労働組合　日炭高松労働組合　福岡鉄道従業員労働組合
北九州水道労働組合　八幡製鐵労働組合　八幡教育関係者労働組合　岡野バルブ労働組合　貝島大浦労働組合
三井田川炭鑛労働組合　日鐵二瀬労働組合　全九州三菱炭鑛労働組合　全商工福岡遊座同分会
西部ガス労働組合　三井三池労働組合　柿島紙業労働組合　長崎造船労働組合

後援団体

筑紫労連九州地区協議会　自治労働組合九州地区連合会　同福岡県連合会　全司法労組九州地区連合会
安川電機労働組合　共同印刷株式会社九州支社　福岡勤労者教育協会　九州産業労働科学研究所

ところ　昭和三十一年四月十三(金)十四(土)十五(日)三日間
講座　福岡市藤崎　福岡県社会教育会館（別紙地図送ります）
費用　別送のプログラムを参照して下さい
宿泊費食費共二泊三日　一人当壱拾弐円
十三日のひるは各自弁当もち　パンの用意あります。
一人参百円（テキスト代をふくむ）一日の場合は百円
但し　協会会員団体からの出席者は三日間で百円（東京より講師を招くため）

聴講料

集合　四月十三日　午前十時まで会場に

歓迎会　四月十五日　午後一時

注意　洗面道具　筆記用具　十三日ひるの弁当　ガリ版講習に参加する人はヤスリ原紙鉄筆を用意すること
準備の都合がありますのでつぎの申込書を送つて下さい　当日でも受付けます。

申込書

第三回　教宣学校の講座申込みます

名　男　女　名

年　月　日

住所

組合名

日本共産党福岡県委員会九州支部

組合長	副	女	職	労働	厚生部長	教宣部長

10

ごあんない

拝啓　たたかいの早春もすぎて春もたけなわになってきました。さて昨年の四月と十月に福岡でひらきました教育宣伝学校は全九州の教宣活動の経験の交流すすめるのに大きな役割を果たし九州の労働運動になくてはならぬものの一つになってきました

くにあちこちから学校をひらいてほしいとゆう要かのべられています。メーデーをひかえて教宣学校の準備も大事になりますので第三回の教宣学校を春の最中にひらくことに決めました

一回の良いところ悪いところから学んでこんどは私達の人達が三日間生活をともにし交流し話しあく経験をたかめ理論を向上させることができる点中心に考えました。講師はこの話しあいを援けることができるように努力する方針です

春斗のゆたかな経験をもちよって多くの職場から交流しあい総括することは今後の運動にかならず大きな収穫をもたらすものと確信します

どうか各地から沢山の活動家が参加されるようお願いします

日本社会党九州地方本部　三井三池炭鉱労働組合　日炭高松労働組合　福岡銀行従業員労働組合
日本製鉄労働組合九州地方本部　三井三池炭鉱現業労働組合　岡野バルブ労働組合　貝島大浦労働組合
北九州水道労働組合　八幡製鉄現業労働組合　全商工福岡産別分会
八幡製鉄労働組合　日鉄二瀬労働組合　全九州三菱鉱業労働組合
三井田川炭鉱労働組合　三井三池労働組合　柏島砥業労働組合　長崎造船労働組合
西部ガス労働組合　三井三池労働組合
後援団体
鉱業労連九州地区協議会　自治労働組合九州地区連合会　同福岡県連合会　全司法労組九州地区連合会
安川電機労働組合　共同印刷社九州支社（福岡勤労者教育協会　九州産業労働科学研究所

とき　昭和三十一年四月十三(金)十四(土)十五(日)　三日間
ところ　福岡市蒙崎　福岡県社会教育会館（別紙地図送ります）
講師　別紙のプログラムを参照して下さい
費用　宿泊費食費共三泊三日　一人当壱弐百円
聴講料　十三日のひるは各自弁当もち　パンの用意あります。
一人参百円（テキスト代をふくむ）　一日の場合は百円
但し協会会員団体からの出席者は三日間で百円（東京より講師を招くため）
集合　四月十三日　午前十時まで会場に
散会　四月十五日　午後一時
注意　洗面道具　筆記用具　十三日ひるの弁当
原紙鉄筆を用意すること
準備の都合がありますのでつぎの申込書を送って下さい　当日でも受付けます。

申込書

第三回教宣学校の聴講を申込みます

名　男　女　名

年　月　日

住所

組合名

日本社会党九州地方本部教宣部

第三回九州教育宣伝學校の内容

日本株式会社紙協会九州支部

第三回九州教宣学校、春の斗争のあと、メーデーと参議院の選挙をひかえ、いかにして教宣活動が組合員および家族のものになるか、職場の無数にあるサークル（あるいはサークルでなくても、同好者の小さな集まり）にたいして、組合は何をしらいいか、株関紙になかなか職場の声が反映しないが、これをどうしたらいいかなどの教宣活動のしごとの基本点と、講師の話のなかから学び、それにもとづいて、各組合、職場の具体的な経験をだしあい、討議し、交流し、経験を一般化していこうというのが第一です。

第二には、教育宣伝の動きなくてはならない実践方法の問題で、つまり短期間ではありますが、技術の基礎を身につけようとおもいます。いかに内容がすぐれていても、表現が劣っていたり、形式が拙かったりしてはうけません。しかも、私たちのしごとは、技術があとっていることがしばしばあります。これをすこしでもたかめるためすぐれた専門家の援助をうけたいとおもいます。このため、とくにおねがいしたのは、つぎの方々です。

写真　田村　城氏

すぐれた写真家として、カメラ雑誌その他ですでに名前は知れており、昨年のメーデーのときには、報道班代表として、北京、モスクワの招待をうけ、その作品は多くの雑誌に発表されました。こんどの教宣学校では、第二日目の分科会で四時間半の講義を実習をうけ、さらに要望があれば、後、写真の懇談会をひらきます。

マンガ　北星　晃平氏　関西労働者漫画クラブ

関西地方の労組株関紙にマンガを提供し、職場のマンガサークルの指導者、こんどの学校では、四時間半にわたって、マンガの話、色彩の話、さらに株関紙の記事からマンガを創作するまでの実習をうけます。

ポスター
プラカード
カベ新聞　澁田　博氏

職場出身の商業美術家、組合の宣伝になくてはならないポスター、プラカード、カベ新聞などの役割から、その画き方の実習、筆のつかい方、紙のはり方、文字の書き方など。

話術　藤川なつ子氏　ラジオ九州放送劇団

ものをいう術、話しことばたつて、話のくみたてかた、聞く人にどうすれば印象をあたえることができるか、声のだし方など、なお同放送劇団の方々による実演も予定しています。

孔版　宮原少貳氏　折尾印刷所孔版部

出席者の要望により、初歩からまたは高級美術印刷まで

株関紙の編集　森　一作氏　株関紙協会九州支部

通信はなぜあがらないか、文章や記事はどう書いたらいいか、株関紙の編集をどうするか、教宣活動のこんごのあり方

調査と宣伝　戸木田嘉久氏　九州産業労働科学研究所

これからの教育宣伝は、調査活動とむすびつかねばならないといわれていますが長年労働組合とともに調査活動に従ってきた同氏の経験とこんごの方向。

参加者の経験をだし、意見をのべ相互に交流する

全体会議　第一日（十二日）夜　三時間　懇談会

第二日（十四日）午前三時間　全体会議

第三日（十五日）午前三時間　全体会議

懇談会

注講師の都合、参加者の意見により多少の変更がありかもしれませんが御了承下さい。より多くの成果をあげるため一人でも多く参加されるよう呼び掛て下さい。

結了御案内

組合の改進や大会で皆様御多忙だつたと思います
ただかう体制もととのつて参試逆撃を間近にひかえ
く御健斗のことと思います いよいよ教宣活動が大
事な役割を果たす時期になりました 國会での悪法
反対の斗争をみてもこれからがみんなの団結を一層
かためるための活動をすすめる時だと思います
この大事なときに各組合がすすめている教宣活動の
経験や計画を語しあい成果や打ち当つている問題を
みんなで一緒に学び解決して行きたいと考えます
このために逆撃を中心とする諸斗争について共同デ
ハクを持つことに致しました
多数の方方の御参加を御願い致します

〃

~~〃~~とき 六月十二日 午後一時から
所 福岡市鉄砲町一〇 炭労九州地方本部
（電話分ずまで下車）
試題 逆撃のための教宣活動について
―人悪法反対 夏期手当 長崎平和大会
にもふれて―

日本炭鉱紙協会九州支部

昭31.6.9 受付 大阪大学法学部図書室

結了御案内

組合長	書記長	総務部長	青年部長	教宣部長
坂口				

改進や大会で皆様御多忙だつたと思います
体制もととのつて参試進擊を間近にひかえ
のことと思います いよいよ教宣活動が大
出を果たす時期になりました 國会での悪法
闘争をみてもこれからがみんなの団結を一層
するための活動をすすめる時だと思います
そなときに各組合がすすめている教宣活動の
計画を話しあい成果や打ち当つている問題を
一緒に学び解決して行きたいと考えます、
このために進擊を中心とする諸斗争について共同デ
スクを持つことに致しました
多数の方方の御参加を御願い致します

〃

~~時~~とき 六月十二日 午後一時から

所 福岡市鉄砲町一〇 炭労九州地方本部
（西鉄ぶろすまさ下車徒歩分）

試題 進擊のための教宣活動について
―人悪法反対 夏期手当 長崎平和大会
にもふれて―

日本紙関紙協会九州支部

郵便受付 昭31.6.9 福岡大工浦郵便局 120

活潑な教宣活動をすすめるとき存じます。春の教宣学校の経験などを整理し、あたらしいたたかいにとりくんでいきたいとかんがえます。そのために進学を中心とする共同デスクと、それについて幹事会をひらきますので御多忙中とは存じますが御出席をお願いします。なお各労組とも改選も終り新幹事が出揃い初会合の意味で簡単な懇親会をひらきます。

記

一、共同デスク　別項の案内状のとおり

一、幹事会　六月十三日（水）午前十時から

炭労九州地方本部（福岡市鉄砲町一〇）

議題　一、教宣学校の總括とその後の発展

二、青年婦人の活動について

三、八月九日長崎での原水爆禁止世界大会について

会費　貳百円

浦本支部長は、急病のため、一週間前に入院していたための関係はもう少しおくれて時間がかかるそうです。激励をお願いします。住所は　福岡市　渡辺通二丁目　佐田外科病院内　三十五号　浦本　由男氏

日本林産紙協会九州支部
支部長　浦本由男

31. 6. 9

教宣学校講師の御依頼

組合員	副委員長	書記	政策部長	給宣部長	生産部長	宣伝部長

貴の益々御健斗のこと、思います。

私ども協会も例年のように教宣学校をひらき、新しい級の宣伝活動の本体をより深く研究し、職場の活動家を養成し教宣活動をすゝめたいと思います。主な目的は初歩的な活動家を沢山育てることにおきますが、専門的活動家の打ち当っている問題にもこたえる特別研究を行いたいと思います。このために教宣活動の主職を持たれる貴組合からも研究会の講師をぜひ送って頂きたく御願い申し上げます。

講試の内容。

"教宣部の役割について"　合科会で

講師に依頼したい方。

佐藤教宣部長殿

右についてようしく御願い申し上げます。

吳島大河
山安部分伊勢会中

一九五六年　十月二十日

日本機関紙協会九州支部
支部長　浦本由男

12

昭31.10.24 和

結了

幹事会召請状

前略

御健斗のことと思います。

去る十一月二十五日東京でひらかれました全国理事会には、九州からは御製鉄労組、三井三池労組、住友小倉労組の三組合が出席し、来年一月にひらかれる抵抗紙協会の全国総会の日程がきめられました。

全国総会まえに決めておかなければならない事項が山積されております。左記の事項で支部幹事会をひらきますので萬障くりあわせ御出席をお願いします

日本製紙組合九州支部
支部長　浦本由男

記

とき　十二月十二日（水よる）　午前十一時より（時間厳守）

ところ　福岡市祇園町　炭労九州地方本部（会議室）

議題

一、全国理事会報告

一、支部総会対策

一、その他

非常に重要な事項を審議しますので、担当者が出席できないときは代理者を欠すよう努力されたし、なお、どうしても出席出来ないときは、委任状をお送り下さるようおねがいします

委任状

十二月十二日の幹事会に出来ませんので一切の権限を　　に委任いたします。

昭和三十一年十二月　日

労組名　　㊞

支部長殿

31.12.5

結了

幹事会召請状

組合長	副組合長	書記長	教宣部長	調査部長	生産部長	厚生部長	教宣部長

ことと思います。

月二十五日東京でひらかれました全国理事会には、九州から八幡製鐵労組、三井三池、坂小倉労組の三組合が出席し、来年一月にひらかれる抵抗紙協会の全国総会の日程がきまりました。

ついては、まえに決めておかなければならない事項が山積されております。左記の事項で支部幹事会をきますので萬障くりあわせ御出席をおねがいします

日本抵抗紙協会九州支部
支部長　浦本由男

記

一、

とき　十二月十二日（水）より　午前十一時より（時間厳守）
ところ　福岡市祇園町　炭労九州地方本部（会議室）

議題
一、全国理事会報告
一、支部総会対策
一、その他

非常に重要な事項を審議しますので、担当者が出席できないとき其代理者を出すよう協力されたし、なお、どうしても出席出来ないとき其、委任状を送り下さるようお願いします

委任状

十二月十二日の幹事会に出席しませんので一切の権限を　　に委任いたします。

昭和三十一年十二月　日

労組名　　印

支部長殿

結了

日本機関紙協会九州支部
臨時総会招請状

受付 昭32.5.20 日本機関紙協会九州支部

毎日御健対のことと存じます。去る十七日福岡市でひらかれました役会九州支部幹事会では、第五回九州教育宣伝学校を社会に臨時総会を開催することに決定いたしました。
上記の要領で臨時総会を開催いたしますので、御多忙とは存じますが万障くり合せ御出席下さい

記

一、とき　五月二十六日（午后一時より）
一、ところ　福岡市厳島県社会教育会館
（場所は教宣学校プログラムを参照下さい）

議題
一、経過報告（十二月総会以降）
一、こんごの支部運営について
一、支部長選出の件
一、その他

福岡市春吉九番町日ましビル六号
日本機関紙協会九州支部

14

なお、出欠は地区の常任幹事団体に連絡下さるとともに、欠席の場合は、上記の委任状を事務局までお送り下さい。

委任状

五月二十六日の支部臨時総会は　　の理由により欠席いたしますので一切の権限を　　に一任いたします。

昭和三十二年五月　日

団体名　　印

支部総会御中

昭和三十

結 菅生事件の現地共同デスク派遣について

了

「九十一のナゾがある」と弁護団側が指摘している菅生事件は、現職警官のオトリ捜査が問題になったままいまだに真実が明らかにされていません。

学者もまた「フランスのドレフュース事件、ドイツ国会放火事件につぐオ三番目の事件だ」といっているとおり、国際的にも注目をあつめています。

この真相を追求するため、現地共同デスクをもち、われわれの目で、耳で、共同取材し、宣伝したいと思います。ふるって御出席下さるようお願いいたします。

当日は、福岡県総評からも共同調査団をおくります。

なお、七日は、取材した記事、写真の交流、宣伝の打合せのあと、協会全国理事会の報告

左おこなう。七月の行事について幹事会をひらきます。

記

一、と き　七月五日（金）六日（土）七日（土）

一、場 所　大分県竹田市菅生

一、集合地　五日、午後四時二十分竹田駅前集合。

一、列車連絡　大分県廻り、日豊線至田

豊肥線竹田駅午後三時着

熊本県廻り、鹿児線熊本駅

豊肥線竹田駅午後四時十分着

午後五時竹田駅前左バスにて菅生へ出発、到着後夕食、直ちに調査

宿泊は竹田市にて

一、調査要領　夜間八時頃より供述書による事件を検討し調査を行う

一、持参品　腰中電灯、寝袋のこと　腕章

※　近くの会員団体と連絡をとり、できるだけ同じ列車に乗車し、定刻時間までに所定の場所にお集りを願います。

一九五七年七月一日

福岡市春吉九番町日建ビル六号室

日本機関紙協会九州支部

32.7.2

結了

菅生事件の現地共同デスク派遣について

組合長	副組合長	書記長

「成立する」と弁護団側が組織している菅生事件は、現職警官のオトリ捜査がさまいまだに真実が明らかにされていません。

「フランスのドレフュース事件、ドイツ国会放火事件につぐ第三番目の事件だ」とおり、国際的にも注目をあつめています。

追求するためお現地共同デスクをもうけ、われわれの目で、耳で、共同取材じ思います。ふるって御出席下さるようお願いいたします。

国際経験からも共同調査団をおくります。

は、取材した記事、写真の交流、意見の打合せのあと協会全国理事会の報告と月の行事について幹事会をひらきます。

記

七月五日（金）六日（土）七日（日）

大分県竹田市菅生

五日、午後四時二十分竹田駅前集合。

大分県廻り、日豊線至由

豊肥線竹田駅午後三時着

熊本県廻り、鹿児線熊本駅

豊肥線竹田駅午後四時十分着

午後五時竹田駅前をバスにて菅生へ出発、到着後夕食、直ちに調査

宿泊は竹田市にて

一、調査要領　夜間八時頃より供述書による事件を検討し調査を行う

一、持参品　機中電灯を持参のこと　既章

※　近くの会員団体と連絡をとり、できるだけ同じ列車に乗車し、定刻時間までに所定の場所にお集りを願います。

一九五七年七月一日

福岡市春吉九番町日建ビル六号室

日本機関紙協会九州支部

32.7.2

郵便はがき

5

32.7.19

鞍手郡宮田町
貝島太郎吉殿
教宣部
御中

三事務所移転のおじらせ三

五月末の組合総会の決定で事務局を移転しましたのでおじらせいたします。こんごの連絡、機関紙などのあて先は下記にお願いします。

旧事務所　福岡市春吉九番町日建ビル内
新事務所
八幡市折尾町長崎光明 TEL 折尾局 (69)0564
九州機関紙印刷所内
日本機関紙協会九州支部

幹事会招集状

あつくなりました。

七月の幹事会をつぎのとおりひらきますので、ぜひ御出席願ひたいより、お願がいします。

記

とき　七月二十三日（火）午前十一時から

ところ　福岡県労働会館　二階松の間（福岡市早良区[illegible]）

試題　一、全国理事会報告

一、工人日報社長陳用文氏歓迎準備について

一、その他

㊟　出欠を地域常任幹事までお連絡下さい。

日本共産党福岡県委員会

昭和三十一

32.7.20

組合長	副組合長	書記長	戦後部長	給與部長	生産部長	厚生部長	教育部長
						16	

幹事会招集状

しか、
をつぎのとおりひらきますので、ぜひ御出席願ひます。

結了

記

月二十三日（火）午前十一時から
福岡県労働会館　二階松の間（福岡市早鞆町）

全国理事会報告
工人日報社長陳用文氏歓迎準備について
その他

城常任幹事までぜひ連絡下さい。

日本代用紙協会九州支部

32.7.20
日本代用紙協会九州支部

組合長	組合長	書記長	青年部長	厚生部長	教宣部長

結了

杵島炭鑛斗争共同デスクのごあんない

残暑きびしい折からみなさま御健斗のことと存じます。

さてこの暑さのなかに杵島炭鑛四千五百名の組合員は、孟賈与もらわず労働条件の切り下げに反対して八月二日いらい無期限ストに入って斗いをつづけています。

支部拡大常任幹事会ではこの斗いの眞相をつかみ、その斗いかたを学びあわせて杵島のなかまを激励するためつぎの通り共同デスクをひらくことになりました。

秋の斗争のためにもきっと役立つと思いますしぜひ御出席下さい。

記

〜とき　八月三十一日（土）　九月一日（日）

三十一日午后一時集合

〜ところ　佐賀県杵島郡大町町杵島鉱業労組

佐世保線大町駅下車駅前に集合

〜やり方　組合から経過報告をきき、そのあと分散して社宅などを取材、または座談会をひらき最後に総括をおこなう。

『注』　腕章、組合旗を御持参下さい。

なお、第六回九州教育宣伝学校を九月十三日から三日間ひらくことになり、その実行委員会を現地であわせてひらきます。

八月二十七日

日本機関紙協会九州支部

226 昭32.8.29

故宣

貝島大之浦
組合長

結了

拡大常任幹事会招集状

同封案内状の通り、第六回教育学校を福岡市の県社会教育会館でひらきます旨、その対策と準備について、また支部役員、支部長その他、左記題に拡大常任幹事会を左記の通りひらきますので、ぜひ御出席下さるようおねがいします

記

とき　九月二十一日午後一時より

ところ　福岡県労働会館日本間　二階
市庁舎庁前下車　県庁裏

注　終ってからひきつゞき第五回九州のうたごえ祭夜祭、二十二日は午前十時からの共同発表に参加します。

昭和三十二年九月十三日

八幡市折尾町長崎七明

日本炭鉱紙労会九州支部
（電　六九・〇五六四）

18

故

八幡大之浦常任幹事会
昭32.9.14
発送付
268

結了

組合長	副組合長	書記長	政策部長	総務部長	生産部長	厚生部長	教宣部長

大常任幹事会招集状

拝啓 秋冷の候、貴六回教宣学校を福岡市の県社会館でひらきますが、その対策と準備について、まず役員、支部長その他、左議題に拡大常任幹事会を開いてひらきますので、ぜひ御出席下さるようお願いします。

記

九月二十一日午後一時より
福岡県労働会館日本間 二階
市電県庁前下車 県庁表

注 終ってからひきつづき第五回九州のうたごえ祭夜祭、二十二日は午前十時からの共同実践に参加します。

昭和三十二年九月十三日

八幡市折尾町長崎光明
日本繊維紙産業九州支部
（電 大九・〇五六）

故 至ところ

18

昭32.9.14 受付 第268号

貝島大之浦
組合長

第五回九州のうたごえ
共同デスク御案内

秋の分科を前に、全九州の職場、農村、地域の人たちが集まる第五回九州のうたごえが、九月二十一日（土）二十二日（日）の二日間福岡市スポーツセンターでひらかれます。

これに共同デスクをもち、うたごえ運動の成果・こんごの方向などを明らかにしたいとおもいます。

共同紙関係の方々、サークル活担当者の御出席をおねがいします

なお、共同取材した記事、写真、スケッチ、作品などは後日、共同編集共同紙として発行する予定です。

貝島大之浦炭鑛株式會社
昭32.9.14
第269号

記

宣教

とき　九月二十一日（土）午後五時半集合

ところ　九州大学　医学講堂前

市電　医学部前下車　医学部構内

取材の打合せの後、分散します

二十二日は、朝九時、会場前（スポーツセンター）で打合せます。リボン資料を渡します。

各労組、団体の記章を御持参下さい。

19

昭和三十二年九月十三日

八幡市前尾町長崎光明

日本機関紙協会九州支部

電話（八幡）六九一〇五六四〇

組合長	副組合長	書記長	戦務部長	給機設長	生産部長	厚生部長	教育部長

第五回 九州のうたごえ 共同テスワ御案内

事前に、全九州の職場、農村、地域の人たちが集まれ歌うたごえが、九月二十一日 土 二十二日 日 の二日間ホーツセンターでひらかれます。共同テスワをもち、うたごえ運動の成果・こんごの方向をあきらかにしたいとおもいます。

関係の方々、サークル活担当者の御出席をおねがいします共同取材した記事、写真、スケッチ、作品をせ後日、共同紙として発行する予定です。

記

宣き 九月二十一日 土 午後五時半集合

ところ 九州大学 医学部前電車 医学部構内

教 帰宅 医学部前下車 医学部構内

取材の打合せの後、分散します

二十二日は、朝九時、会場前（スポーツセンター）で打合せます。リボン資料を渡します。

各労組、団体の記章を御持参下さい。

昭和三十二年九月十三日

八幡市折尾町長崎光明

日本機関紙協会九州支部

電話（二）番 六九・〇五六四

昭32.9.14 第269号

郵便はがき
5
鞍手郡宮田町
貝島太郎方
殿宣部御中
32.10.10
32.10.11

拡大常任幹事会の御案内

去る十月四日より三日間、福岡市保社会教育会館でひらかれた第六回九州教育学校に於約百名の[illegible]御家族[illegible]に参加し無事終了しました。

知了

なお、鉄鋼労連は八日全面二十四時間のストライキに突入し、秋の闘いは[illegible]いよ〳〵はげしくなりました。いろ〳〵忙しいと思いますが、左記の要領で拡大常任幹事会をひらきますので、万障くり合せ御出席下さい。

記

とき　十月十五日（火曜）午前十時より

ところ　造船部水巻部品末、日炭高松労働組合、会議室

（行橋駅下車、若松市営バスに乗車、水巻西五会前にて下車）

議題　一、教育学校の総括、一、秋の斗争の教宣活動について、

ニュース発行について　一、その他

日本機関紙協会九州支部　支部長　有吉[illegible]

教宣

日本機関紙協会九州支部之印

組合長	副組合長	書記長	戦争部長	給與部長	生産部長	厚生部長	宣伝部長

大常任幹事会の御案内

去り三日間福岡市保社会教育会館でひらかれた第六回九州各の農民組合組合員会議に参加し無事終了しました。

以八日全国二十四時間のストライキに突入し、秋の刈いれはなり来ました。いろ〳〵忙しいと思いますが、左記の要領でいらせますので、万障くりあわせ御出席下さい。

記

五日（火）午前十時より
八時町岡末、日炭高松労働組合、会議室
午下事、甚谷市営バスに実事、水巻商工会前にて下事）
以の総括、一、秋の斗争の教宣活動について、
、実行について　一、その他

日本農民組合九州支部　支部長　稲吉善雄

教宣

結了

組合長	副組合長	書記長	財務部長	青婦部長	文化部長	厚生部長	労宣部長

宣教

21

第十回全国総会報告のための支部拡大幹事会の御案内

日本機関紙協会九州支部
支部長　有吉[illegible]
（八幡市折尾町長崎光昭・電69五六四番）

あけましておめでとうございます。

新しい年をお互の一段の前進のために努力したいと思います。

さて日本機関紙協会第十回全国総会および全国機関紙編集者会は、各地から約三百名の参加をもって有益な三日間を終りました。

九州からの出席は二十名という初めて大勢の参加で、それぞれ分担して分科会に入り、各地の経験をもちかえることができました。

つきましては、この内容を会員団体に、あますところなくおつたえし、春斗の宣伝活動にむかって勢ぎろいをしたいと思い、報告を中心とした支部拡大幹事会をひらきますので、できるだけ参加下さるよう御案内申しあげます。

記

とき　一月三十日（金）　午後一時から

ところ　福岡市県庁東、福岡県労働会館（二階松、竹の間）
（西鉄市内線、県庁前下車、県庁を通り抜けて東、歩いて五分）

議題

一、第十回全国総会、全国機関紙編集者会の報告、討議

一、教宣学校、婦人学校の内容検討

一、事務局報告

一、その他

日本共産党福岡地方委員会 昭34.1.21 受付 第5102

結了

組合長	副組合長	書記長			総務部長	厚生部長	教宣部長

22

教宣

全国機肉紙宣伝活動懇談会
第十一回全国総会御召請状

東京都港区芝愛宕町二の一〇〇
日本機肉紙労組
委員長　高垣礼二郎
（労働教宣部長）

様

明けましておめでとうございます。いつも労組の活動にたいし、心強いお力添えをいただき、心からお礼申上げます。本年も相変らずよろしくお願いいたします。

さて、このたび任期のとおり、労組の第十一回全国総会をひらくことになりました。全国の機肉紙宣伝活動の懇談会として行うことになっております。今年の総会をはこの一年間斗われた、平和改定阻止と「合理化」反対の斗いと宣伝を中心に全国の経験が集中され、そのなかから今年の輝ける見通しと宣伝の方向があきらかにされるでありましょう。

どうぞ、ふるってご出席下さいますようご召請申上げます。

なお、祝辞、メッセージなどお寄せ下されば幸いです。ではみな様のご奮斗をいのります。

記

一、日　時　一九六〇年一月二三日（土）二四日（日）二五日（月）の三日間

一、会　場　東京・代々木区民会館（国電新宿駅より小田急代々木八幡下車三分、東京駅より四十分新宿駅より十分）ただし二日目は衆議院第一、第二、第三議員会館

一、日　程　毎日十時～五時

（第一日）全体会議

一九六〇年の機関紙宣伝活動（大会）報告（「労組報」一月号に掲載）

講演　一九六〇年の国際情勢　関西学院大学教授　横田喜三郎氏（世界経済研究所所長兼主任、拓大学術部）

活動報告　イ、「合理化」反対斗争と宣伝（九州労）

ロ、医療斗争と医療の宣伝活動（国鉄東鷹）

ハ、平和反対の共同宣伝と集団看護体制強化の経験（神奈川支部）

（第二日）分科会（討議内容は裏面に）

第一　宣伝体制と宣伝活動家の育成（衆議院第一議員会館第五会議室）

第二　宣伝手段の総合的運用（同第二議員会館第五会議室）

第三　職場のたたかいと宣伝活動（同第二議員会館第一会議室）

第四　教材と通信活動（同第三議員会館第一会議室）

第五　各機関紙誌の総合的な運用（同第三議員会館第二会議室）

各分科会の討議内容は別記のとおりですが、分科会のテーマだけにとらわれず、全般的な討論のなかでそれぞれの分科会テーマの方向づけをやります。分科会参加の要領は裏面

（第三日）全体会議

分科会報告

会計報告　会計監査報告、役員改選その他「まとめ」発表

一、参加費　たいへんおそれいりますが、総会費用をまかなうため参加費として四〇〇円いただきます。

東京都港区芝愛宕町二の一〇〇
日本機肉紙労組
35.1.15
第573号

分科会討議内容

（共通の問題点）

1．二の一年間のたたかいと民商紙活動

○　安保改定阻止として合理化と反対のたたかいと宣伝活動がどのようにおこなわれたか。

○　職場や地域でそれがどう受けとられ、どう改ためたか、その影響、効果はどうか。

2．今後の方向

○　当面の情勢をどう判断し、対処するか

○　職場はどう変っているか、たたかいの高まりはどう盛り上っているか、なにが障害になっているか、分裂の攻撃がどう加えられているか　〃　町内、をどう組み統一していくか

○　再建攻勢（マスコミ、PR、HR）がどのように加えられているか、その影響はどうか、どう斗っているか

3．機関紙宣伝活動について

○　今年の民商紙宣伝活動の統一宣伝目標はなにか。

○　活動を強化改善するための根本問題はなにか

○　職場、地域の具体的な要求や問題をどうとらえ、統一要求、統一目標にどう高めていくか、職場、地域の具体的な「事実」を通じて、どう階級的な自覚に高めていくか

○　とくに昼間のなかで宣伝をどうすすめるか

（各分科会ごとの問題点）

第一＝宣伝体制と活動家の育成

○　どこの職場も合理化のシワヨセで、民商紙をとるのもすぐとまる、親衛があつまらない、継続発行ができない、どうして解決するか、

○　みんなで作る集団編集か、これからの仕事のスタイルは、

○　共同発スク（共同取材、共同編集、共同宣伝）

○　編集委員会の構成をいかにするか

○　新しい活動家を育てるのにはどうすればよいか

○　組紙、行動、宣伝の結合問題

第二＝宣伝手段の総合的な運用

○　民商紙いがいにどんな方法で宣伝活動が行われているか

○　それぞれの影響、効果はどうか

○　とくに家族、町工の農村、市民に対する宣伝をどう行うか

○　斗争時の宣伝活動はどう行うか

第三＝職場のたたかいと宣伝活動

○　職場斗争、職場活動のあり方はどうか、どう発展してきたか

○　職場の要求をどうつかみ　どう組織するか、経験、経験工、社外工、パートタイムの中間層をどう統一するか

○　職場新聞をどう改善強化するか

○　職場新聞いがいにどのような宣伝活動を行うか

○　職場斗争、職場活動と統一斗争との関係はどうか

第四＝取材と通信活動

○　「事実」を中心とする民商紙といわれるが「事実」とはなにか

○　「事実」をどうとらえ、どう書くか、これからの記事　文章のあり方はどうか

○　民商紙活動の全面性と取材の役割はなにか

○　通信活動をどう強化するか、どう通信員を育成するか、班員とどう斗うか

○　通信と投書の役割はどちがうか

○　民商紙編集の指導性と取材、通信活動の関係はどうか

第五＝各民商紙委員の運用について

○　各民商紙委員はどう編集するか、どういう角度でとりくむか、

○　各民商紙委員をどう総合的に運用するか

○　中央民商紙をどう改善強化するか

○　共同発スク、共同編集をどう進めるか

○　統一労働者新聞の意義とその改善性、どう実践にむかって努力するか

結了

組合長	副組合長	書記長	財務部長	給與部長	生産部長	厚生部長	教宣部長

教宣

23

全国総会報告会
支部拡大幹事会の招請状

日本機関紙協会九州支部
支部長　有吉富豊

日本機関紙協会の第十一回全国総会は、予定どおり一月二十三日から三日間、前段を全国事務局をはさんで、ひらかれました。

全国から百五十二団体二百名が代々木区民会館にあつまり、一年間の宣伝活動の反省と、こんごの展望について討議しました。

総会をひらいていた三日の間に沖縄返還、ナイキ反対国民集会がひらかれ、岸首相は新安保条約に調印してかえり、民主社会党の結成大会があり、三池炭鉱はロックアウトを出してきました。

まさに、この一年の多事多難さを予想させるに十分でした。こういう情勢を反映して、総会の討議も活発におこなわれました。

九州から氏三池炭鉱斗争の報告を基調に二十三名が発言し、手分けして分科会の討議に加わりましたが、それぞれの収穫をも一度もちより、こんごの九州における宣伝活動の方向を、いくらかでも具体化してつかみたいと思い、つぎの通り全国総会報告会をひらきます。

なお、ちょうど沖縄行進が福岡市につきますので、出迎えたあと、夜は沖縄代表をかこんで実情をきく共同集会をあわせてひらきますので、お忙しいこととは思いますが、どうか御出席下さるようお願いします。

記

とき　二月十一日（木曜日）午前十一時まで会場に到着して下さい
　　二月十二日（金曜日）

ところ　福岡市警固本町九番地　里田荘（福岡県総労評宿泊所）電話四局二三五二
　　（西鉄市内線、末坂行下車、西部ガス本社裏）

議題
一、全国総会の報告
二、九州における こんごの宣伝活動（討議）
三、支部総会、教宣学校の計画について
沖縄代表をかこむ、実情をきく共同集会（夜七時から弁天会館で）

注　全国総会に出席された方は、じ次の分科会のあらましについて、整理しておいて下さい。

一九六〇年二月五日

以上

昭35.2.6 第一会計係

結了

一九六〇年六月六日

全国機関紙コンクール表彰式並に
全国機関紙研究集会　御案内状

組合長	
副組合長	
書記長	
政策部長	
給宣部	
生産部長	
厚生部長	
教宣部長	

東京都港区芝愛宕町二の一〇〇
一九六〇年全国機関紙コンクール実行委員長
日本機関紙協会　理事長
高垣礼二郎

山梨大学図書館
35.6.10
受付
15号

各団体・労働組合
協会加盟団体　御中

教宣

安保斗争の勝利の日を目前にひかえて、日夜ご多忙のことと存じます。さて、一九六〇年全国機関紙コンクールも、入賞が決定しましたので、左記の通り、表彰式、賞品授与式、講評を中心とした討論会をおこないます。あわせて、全国機関紙研究集会をひらいて、こんにちの機関紙宣伝活動の問題点をあきらかにし、こんご改善すべき内容と技術について研究いたしたいと思います。いろいろ予定のあることとは思いますが、万障くりあわせてご出席下さいますようご案内申上ます。

記

一、日　時　一九六〇年六月二十一日（火）二十二日（水）
二十一日午前十時開会。二十二日午後三時閉会予定。

一、会　場　静岡県伊東市　山平旅館（やまへい）（東海道線熱海のりかえ、伊東線の終点伊東下車。なぎさ橋ぎわ海岸。駅から徒歩十分）

一、経　費　宿泊費　一泊二食八〇〇円
参加費・資料代（討論資料とレポートその他）一人三〇〇円。

一、日　程
全国機関紙コンクール表彰式並講評と経験発表
1、コンクール表彰式、賞品授与
2、講評（審査員中野重治、吉村英氏）
3、レポートを中心とした経験発表
全国機関紙研究集会
1、機関紙宣伝活動の問題点
2、思想攻撃、分裂攻撃に対処する宣伝活動とは何か（三井三池、王子製紙のレポートを中心に討論）
3、その他

▽討論資料・並レポート△
目下印刷中につき、当日お渡しいたします。
専門家の意見や各団体の経験を総括した資料をご期待下さい。

注　意
1、六月二十日（月）は協会の全国理事会を同所でひらきます。傍聴ご希望の方は参加して下さい。なお二十日夜から宿泊しても結構です。
2、出席の有無をハガキで、本部事務局あて六月十五日までにお知らせ下さい。宿泊の準備があるので、必ず実行して下さい。

結了

組合長	副組合長	書記長	厚生部長	給與部長	生産部長	文化部長	教宣部長

一九六〇年五月三十日

一九六〇年全国機関紙コンクール実行委員長
日本機関紙協会
理事長　高垣礼三郎

各労組・団体教宣部長　殿

一九六〇年全国機関紙コンクール表彰式並びに
全国機関紙・教宣研究集会ご案内

安保斗争のもりあがりの中で、日夜のご健斗ご苦労さまです。全国機関紙コンクールは三カ月の長期にわたつて、慎重審査をおこなつた結果、別紙（宣伝資料二五号）のように入賞が決定いたしました。協会ではこのコンクールの表彰式・賞品授与式、あわせて全国研究集会をひらくことになりました。研究集会は、このコンクールにあらわれている機関紙活動の総括と、成果、欠陥をあきらかにし、これからの機関紙・宣伝活動に役立せたいと思います。大へんお忙しいとは存じますが、ふるつてご参加くださいますようご案内申上げます。

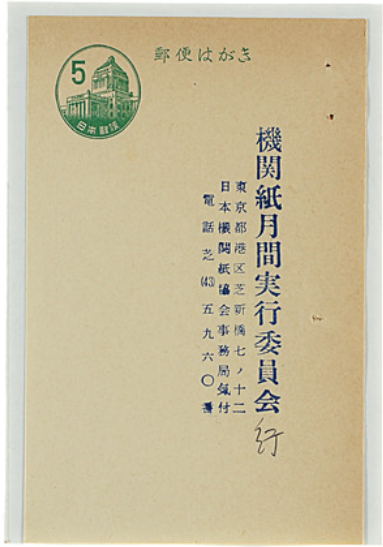
なお、議案・報告書・批評集（討議資料）は、当日までにお手許にとどくよう手配いたします。

記

一、日　時　六月二十一、二十二日午前十時開会
一、場　所　静岡県伊東市　山平旅館（なぎさ橋ぎわ海岸）
一、経　費　宿泊費（一泊二食　八〇〇円）
　　参加費＝一人三〇〇円（資料代共）
一、講　師　吉村英氏（協会顧問）　中野重治氏（作家、予定）

(注)　① 準備の都合がありますから同封ハガキで参加人員・宿泊の有無をご一報ください。
② 前日は、協会の全国理事会をひらきますのでご諒解ください。
③ 二十日夜お出下さつても同料金で宿泊できます。

山口大学図書館 35.6.13 寄贈 受入


郵便はがき
5
日本郵政
機関紙月間実行委員会
東京都港区芝新橋七ノ十二
日本機関紙協会事務局気付
電話芝(43)五九六〇番

宣伝資料

25

1960.5.25
月二回刊(毎月15.25日発行)

1部10円(送4円)
年間240円(送料)

発行所　日本機関紙協会
東京都港区芝琴平町2の100番地
電話芝(43)5960番　振替口座東京177118番
編集兼発行人　福谷保夫

本号は「全国機関紙コンクール審査発表」と「国会解散。岸打倒のため」の共同デスクの特集号です。

「国会解散。岸打倒」のために

―総評・国民会議・社会党・共産党主催 共同デスク―

総評では五月二十一日、安保闘争が重大な局面となつたので機関紙協会、労働者教育センターの協力をえて、緊急に「安保闘争共同デスク」をひらいた。報告者は日本社会党衆議院議員成田知巳氏、日本共産党中央委員候補蔵原惟二氏、安保批判の会・評論家松岡洋子氏の三人。出席は主要な中央単産の機関紙編集者約四十人であつた。

なお、おわつてから「三池のたたかい」の録音構成（三十分）を聞いたが、これは三池共闘本部（総評内）に申しこめば無料で複製できる。

国会の審議は無効 解散させれば阻止できる

成田　社会党としては新安保条約の国会審議について、だいたい五月二十日ごろから政府・自民党が強硬態度をとるだろうと考えていました。

ところが、十九日にあのようなやり方で会期延長と安保の批准をおし通そうとしたのは六月十九日にアイクが日本にくること、もう一つは、吉田茂元首相がアメリカに行つているのですが、五月二十六日にワシントンに行くので、それまでに衆議院を通しておけ、と池田に申入れていたそうです。

しかし、まだ論議しつくされていない問題はたくさん残っています。

例えば政府は国連憲章にしたがうといっており、新安保の第六条で「極東の平和と安全」とうたっているのは「日本の平和と安全」はうらはらだ。しかも事前協議でチェックするからいいだろう。それで個別的・集団的自衛権を発動できるといっています。

いまの安保にあてはめると日本に現実の武力攻撃があった場合はじめて軍隊を出動することができるのです。それが「極東地域への武力攻撃」ということになると、集団的自衛権を発動できないはずです。

ところがこの六条をぬかすと新安保の内容がなくなってしまいます。

さて、十九日から二十日にかけての問題ですが、会期延長と安保の問題は分けて考える必要があります。

まず、衆議院安保特別委員会の状態をお話しましょう。社会党議員が小沢委員長の席につめよったときは自民党議員はわずか五、六人しかおりませんでした。委員長は何かしゃべりましたが、混乱で聞こえないし、席からもつきおとされ、自民党議員が「賛成、賛成」といっているだけで速記録もとれていません。したがって、これはぜんぜん無効であります。

また百歩ゆずって会期延長を認めるとしても、国会を延期するときは各党に通知するか、公報に出すのが慣例になっています。ところがそういう手続きを何もやっていません。したがって、法律的にいっても無効です。

このような暴挙に対し、社会党は一切審議に応じない。二十六日以降も不当な会期延長であるし、応ずるわけにはいかない、という態度をとっています。

実は昨日あるところで藤原弘達氏が司会して、「新安保成立後の政治経済」というテーマで座談会がありまして出席しました。藤原氏は「いろいろ問題はあるが一応安保は成立したことになるだろう。それで今後の政治路線はどうあるべきか」というのです。それで私は「すでに安保が成立し、発効したというのは間違いだ。たとえ批准しても、批准書を交換しなければこの条約の効力は未確定だ。したがって、その前に解散、総選挙をやれば阻止できる」といいました。

いま私たちは全力を挙げ国会打倒、国会解散にむけなければなりません。今朝の新聞論調をみても挙国退陣要求が強くなっています。

それから議員の総辞職論ですが、党内にそういう強い意見があることは事実です。これは結論からいいますと、一つの手ではあるが、すべての手ではない。社会党議員の総辞職によって解散が必至なら、ぜひとにかく、四、五日の情勢をみることになりました。

ですから「安保はもうきまったんじゃないか」という考えは全くまちがいであります。社会党としては、これだけの大きなたたかいにもり上げたのは大勝利であると思います。

質問 民社党の動向について。

成田 ほかの党のことですから正確にはいえませんが、二つの意見の対立があるようです。いまは審議拒否の態度をとっていますがどこまで続くかわかりません。四、五日まえ社会党は共闘を申入れましたが「最近は悪口ばかりいうから共闘したくない」といっております。

質問 今朝（二十一日）の朝日新聞は大きな社説で、岸内閣の

総辞職と解散を要求していますが、あの論旨はガン首をかえるだけだと思いますが……。

成田 二十日の早版の論説を見たところ全く社会党攻撃でした。ところが警官隊が入りこみ、斗一様の記者諸君が憤激して書いたからあれが出たのだと思います。しかし、内容は民社党ペースですね。江田書記長の発言などはほとんど圧殺されています。自民党内の総辞職論は社会党とちがい、岸の総裁三選阻止と次期首班の問題がねらいなのです。ですから、総辞職論にかわり自民党の動きは警戒して判断しなければなりません。

質問 ある職場の労働者から「社会党議員が総辞職したとき、直ちに解散になるのか、むこうの手にのって補充選挙になるのか」と聞かれました。

成田 私たちがいま情勢を見守っているのもそこにあるのです。民社党がなければとにかく、社会党議員がやめても民社が取引きをやれば窮地に追いこまれてしまいます。議員の辞職は院議にかけなければならないので、もっとも都合のいいとき、つまり安保が自然成立して、批准書が交換されて、それから辞職がみとめられるという具合にやられるおそれがあるのです。

ストライキと請願署名でたたかおう

高原 いま基本的なことは社会党の成田さんからお話がありましたが、共産党としても全く同じ考えであります。ですから、党として考えている問題点をいくつかのべたいと思います。

まず安保の宣伝ですが「アカハタ」をよくめて戦術問題が多くて、内容がどうもよく知らされていないようです。とにかく反対、というたちが多かったと思います。

いまいちばん重要なことは労働者に確信を持ってもらうことです。ある教員組合の人ですが「昨日出かつだのでデモは中止ですか」という質問をしてきました。これは地方ではもっとひどいと思います。商業新聞を見ても、昨日より今日の方が解散の論調がつよくなっています。社会党の田中稔男さんも「負けるが勝ちとはこのことだ」といっていました。

党はたたかいの目標を国会解散、岸打倒、アイク訪日反対におく必要があると考えます。アイク訪日反対については直接、羽田へ行け、ということは問題があるので「なぜくるか」という内容を知らせて、できるだけ広範に結集していく。また岸打倒については、国民会議でも討論されたが、岸内閣というより、岸一派としぼつた方がいいと考えています。

池田でさえ「相談しなかつた」といっています。岸個人というのは問題もありましょうが、岸一派にむかって攻撃をかけていきましょう。

それから総評が決定したストライキの戦術その他は全面的に賛成であり、正しい方針を出したと考えます。

いまいちばん大切なのは労働者のストライキです。二十六日のストライキの意義は非常に重大です。短時間のストでも全部がやるとジェリアの民族自決権を守る三十分間のストライキをやりました。それでも、全部がストップするので異常な混乱は無かつたのです。そこまでやってほしい。アイクの訪日のときにもそういうストライ

キが必要だと思います。

さらに、署名運動ですが、今までよりも一層広範に国会解散の請願署名をやる必要があります。

それからこれは教訓ですが、請願というような国民のどんな小さな権利でも、それを出発点にしていけば大衆行動を拡げていくことができるということです。国会への圧力もチャペル・センター（正門前）の前でとめられていたのが、国会の垣根の周辺にまで迫る実質的なデモにまで発展させました。

十九日の夜はデモがとりまいていたので、社会党への攻撃はぜんぜんできませんでした。あのとき参議院の入口はワザと手うすにしてありました。こちらが少しでもなだれこめばそのために警官隊を導入したと書くつもりだったのでしょう。あのデモのとき「ものたりない」という声もあつたようですが、これは重要な教訓であります。

さいごに、これはわりに知られていないたたかいは、全建労の地理調査所のたたかいです。社会党がとり上げ、U2（黒いジェット機）の問題と結合してひろがつたのですが、国会で問題になつた翌日防衛庁がジープでやつてきて資料をおさえています。地理調の組合では「こりゃ、ここに攻撃がくるゾ」というので、こつちから攻撃をかけ、人事問題などでついていつて無暴な発言をしだ弾劾を追放しました。

行政協定による仕事を実際にやつている労働者は多いのですが、これと結合してたたかいを進めていくこと、また六月には有利なことに夏期手当のたたかいも行われますし、これとも結びつけてただかつていきましょう。

民衆の勝利を確信
労働者はスト権の行使を

松岡 いまお話をうかがいますと、教員組合のかたまで「負けたんじゃないか」という考え方をもつているとのことです。私はいまの情勢判断がいちばん大切だと思います。岸が敗北の状態で、あいうやり方をとらざるをえなかつたこと、これはこつち側からみれば勝つたのじゃないか。では何が勝たせたかというと社・共・労組の役割はとにかく、十九日の夜から二十日の朝にかけてのデモに私自身が参加してみて感じたことは民衆が勝つたのだということです。

二十日のドシャ降りの中でも、あれだけ出てきてくれました。そういう人びとの力が勝たせたのだと思います。

もう「民主々義は滅びた」となげいている人もいますが、私は日本の民主々義は実に健全に育つていると思いたいのです。このことをシカリつかんで、職場にぶしだしていく必要があります。

労働組合のみなさんはちがうと思います。

では今後何をやるかということですが、これは私たちと労働者、市民の場合は行使できる権利はほんの小さいのです。石川達三さんもいつているのですが、いつスト権を行使するだろうかと実は待つていたのです。二十六日にストライキをやるそうですが、嬉しいと同時に当然であると考えます。

労働者と労働組合は市民とちがう権利をもつています。どうすればこれをつかつて圧力にするかを考えてほしいのです。

川島幹事長は「三百円の日当で、よく続くな」といつていたそうですが、私もはじめフンガイしました。さきほど司会者が「自分から出かけていくクフイ気が必要」といわれましたが、これが大切です。

みんながそういう決心をしたとき、力が二倍にも三倍にもなつていくと思います。また「上からの命令でなく：：」といわれましたが、むしろ町のおかみさんたちの方がごく素朴に安保を勉強していると思います。四月に総評の婦人集会がありましたが、一年まえの母親大会の方が活潑でした。もうこれだけたつているのに、これだけしか勉強していないのかと思いました。職場のエネルギーがすいとつてこないと本当のたたかいになりません。

みなさんのご健闘をお願いします。

岩垂 安保改定阻止国民会議としてのお願いを申上げます。当面のたたかいは、

① 三十日の自然成立をさせないうちに国会解散をかちとること。
② 岸内閣の退陣を要求すること。
③ 二十六日は地域共闘を中心に国会解散、岸退陣要求、安保批准阻止を要求し、国会の直相報告を行う集会を広範にひらく。あわせて生産点の実力行使を行う。
④ 機関紙に請願用紙を刷りこむなど、あらゆる方法で請願署名をひろげる。

推選「全医労新聞」など六紙・誌
参加三一九紙・誌 審査結果を発表 全国機関紙コンクール

一九六〇年全国機関紙コンクール実行委員会（委員長高垣礼二郎・民労）では五月二十一日実行委員会をひらき、全国の労組・団体から集まつた参加紙・誌三一九について審査結果を別項のとおり発表した。審査作業を二月から五月にかけてすすめた各実行委員をはじめ、中野重治（作家）氏、吉村英（機関紙協会顧問）氏、東大新聞研究所の感想・批評をもとに相互審査をおこない、各種別をとおして「推選」（全医労新聞）など六）「特賞」（一二）「入賞」（六二）の順序で優秀紙・誌を決定。これらの三賞にたいしては新海覚雄（機関紙協会顧問）氏製作の石膏の「壁掛」を授与。参加紙・誌全部に「感想・批評集」を贈る。なお「アカハタ」機関紙・あかつき・光陽三印刷所、機関紙通信社・労漫クラブからも「賞」が贈られた。

審査をおわつて

一九六〇年全国機関紙コンクール実行委員長
高垣礼二郎（炭労）

数カ月にわたる長い審査がおわつて、五月二十一日別紙のような結果が発表されました。参加された各団体と、骨身をけずつて審査に当つた方がたに心からお礼申上げます。私ども、何よりもうれ

しいのは、参加紙・誌が三一九をかぞえ統評、全労、中立をとわず、あらゆる機関紙が集つたことです。これは統一行動、統一宣伝に力をいれている私たちの行動が具体的に示されたといえましよう。審査の基準は内容五〇、技術五〇としましたが、さらに慎重を期するために綜合審査会をひらき相互の意見をだしあつて最終決定をみました。批評は、各審査員が各紙について書いたものを統括して一紙二百字以内にまとめ「我評集」をつくります。

この一年度、新安保に反対し、合理化とたたかう労働者の闘争はすばらしい前進を示しました。ところがその闘争の組織者、教育者、宣伝扇動者としての機関紙活動は必ずしもそれと併行してすすまなかつだようです。また、技術の面でもカベにぶつかつているところが多く、労働者のたたかいと要求を解決の方向へむけて統一するために、紙面を創造的に改善しているものがすくないようです。私たちは、こんどの審査のなかでだされた、そのほかたくさんの問題点を分析・整理・綜合して前進の方向を示したいと考えています。以下に審査の結果を発表します。（参加紙は順序不同）

なお、綜合審査会に出席した団体は、日教組、民労、動力車、鉄鋼労連、全鉱、全造船、新聞労連、全農林、機関紙印刷所、婦人民主新聞の十団体、ほかに吉村英顕問、協会本部、東京、神奈川事務局など十九名でした。欠席したが文書で審査結果を提出していただいたのは、電機労連、全国金属、東武交通、東大新聞研究所、協会大阪、九州支部などでした。

第一種（活版　全国紙）参加二十二紙

推　選＝全医労新聞

特　賞＝全造船、ぜんこう（全鉱）

入　賞＝全国金属、地銀連、全損保

参加紙＝日本とソビエト（日ソ協会）、全国税、全国セメント、民労新聞（全司法新聞、全国ガス、全石油、全駐労、全倉運、全電機、農民新聞（日本農民組合）、全生保、じかたび（全自労）、全農林新聞（全農林）、民放連（民間放送労連）、全信労（全国信用金庫）

第二種（単組・企業連）参加七十七紙

推　選＝東武組合新聞

特　賞＝たかまつ（日民高松）、みいけ（三池民鉱）

入　賞＝西鉄組合新聞、組合人（神戸民鉱）、地呼（太平洋民鉱）、本州新聞（本州製紙）、林野九州（全林野九州地本）、やたはら（八幡原鉱業所）、地熱（夕張民鉱）、精油塔（昭和石油）、熱風（八幡製鉄）、さんせん（三池染料）、興民労（宇部興産民鉱）、るつぼ（日本光学）、さきがけ（日本水素）、同志（安川電機）、大洋労報（大洋漁業）、全道労協（全北海道労組協議会）、神交（神戸交通）、七十七（七十七銀行）、新馬労働新聞（同盟業者）、自動車運輸労働（東京貨物自動車運送）。

参加紙＝斗魂（国策パルプ）、さけび（茂尻民鉱）、あしろう新聞（芦別民鉱）、労組だより（三菱美唄民鉱）、山びこ（美流渡民鉱）、やまがい（全林野函館地本）、かみきた（日本鉱業上北鉱山）、ふるさか（小坂鉱山）、ほそくら（細倉鉱山）、福島金属戦（福島金属）、自治労福島県職）、たたかい（日立製作所日立工場）、組合情報（富士重工宇都宮）、埼玉教育新聞（埼玉県教組）、朝陽（日立製作所茂原工

場）、日産労組（日産化学）、全油鉱（全国石油鉱業）、ガス労働（東京瓦斯）、古河労連（古河電工）、日立総連（日立総連合）、日石労（日本石油）ほんぽん（ラジオ東京）、つどい（日本信託銀行）、地下鉄（帝都高速度交通営団）、乗客タイムス（同上）、あゆみ（主婦の友社）、小野田労報（小野田セメント）、吾等の灯（東芝府中）、旭労（旭硝子）、鋼鉄労組情報（鋼域鉄道自動車）、きさみ（芝浦機械製作所）、名水労（名古屋市水道）、トヨタ労働時報（トヨタ自動車）、神興マイン（神興鉱山）、さけび（石原産業紀州鉱業所）、ユニオン（松下電器）、高揚（全金中島製作所）、労泉（広畑製鉄）、ありのべ（朝鮮鉱山）、和教時報（和歌山県教組）、大之浦民報（大之浦民鉱）、日尾（古河日尾）、小城（小城民鉱）、しんにゆう（三菱新入民鉱）、前進の旗（三菱鶴島民鉱）、クルメ市労連（同上）、かまど（黒崎窯業）、白煙（豊国セメント）、ぜんしん（福岡製紙）。

第三種（支部・分会　活版）参加七十一紙

推　選＝全電通神奈川

特　賞＝ふなあし（全電通鶴見分会）、ぜんしん（自労大牟田）

入　賞＝在原労働（全金在原製作支部）、すいしんき（倉敷石川島分会）、国鉄横浜（同上）、自労福岡（同上）、いぶき（毎日新聞西部）、ただくま（住友忠隆）、炬火（静岡銀行徒組）、うるの（日鉄二瀬潤野支部）、自労ひろしま（同上）、セイコー労報（第二精工舎諏訪支部）、共同デスク（日民高松第二支部）、全農林宮崎（同上）、リベット（全造船鋼管鶴瀬分会）、全電通さいたま（同上）、みどろう（全電通之浜）、緑の団結（全農林福賀本部）、あすなろ（全金富士宇都宮支部）、すくらむ（富士重工伊勢崎）

参加紙＝くろしお（東電千葉支部）、みづたま（全損保東海支部）、東労参厚（東電多摩支部）、全農林あおもり（同上）、にいがだ（東電新潟支部）、あゆみ（国策パルプ旭川支部）、あがつま教育新聞（群馬県教組吾妻支部）、大阪市教組（同上）、府高教版（大阪府高教組）、ひろば（大阪市教協評反対市民共斗会議）、雄教（秋田教組）、京都大学職員組合新聞（同上）、大阪市教連（同上）、浜教（横浜市教組）、私鉄新聞弘南バス版（弘南バス）、すくらむ（電電甲府分会）、あしおと（全損保住友支部）、陽光（富士電機豊田支部）、くさむら（全損保日新東京分会）、東労神奈川（東電神奈川支部）、鋼友（富士広畑鋼片支部）、熔鉱炉（富士広畑製鉄）、疾走（富士精密東京支部）、きぼつこ（川崎造船）、ファイト（松下電器三国支部）、全農林（全農林北海道本部）、靖（東邦ガス）、先頭旗（日光精銅所）、東労松本（東電松本）、ぴら（全金岡野バルブ）、スクラム（全金神津支部）、組合新聞（化越製紙）、ひびき（七十七銀行青梅古川支部）、につしん（全損保日新支部）、埼玉電労（東電埼玉支部）、前進（東電山梨支部）、こだま（松下電器通信機支部）、加熱炉（日石横浜支部）、自労かながわ（同上）、青婦人（七十七銀行青梅人部）、あかしや（東電鶴木支部）、明旨（富士広畑陸運支部）、いなわしろ（東電狭面代支部）、自労福岡（同上）、鉄面代（全農林千葉本部）、東電労報（東電和歌山支部）、ぺやぱせ（全油鉱八橋支部）、スクラム（全金足尾製作

足尾支部）、山武支部ニュース（全金山武計器支部）、広巾（富士広畑広巾厚板支部）、油労（日本石油本社支部）、熱交（東亜燃料清水支部）

第四種（支部・分会　ガリ版）　参加一〇五紙

推　選ヨ保険庭（京都府職保険支部）

特　賞ヨ断層（夕張炭鉱二鑛三区職場委員会）、おれたちの毎日

しんぶん（日労神奈川支部金沢分会）

入　賞ヨ足教組ニュース（都教組足立支部）、こだま（本州泥川支部青年婦人部）、ステップ（東武伊勢崎分会婦人部）、ぺる（岩崎通信機労組）、とおいつ（全金浦賀神明支部）、東労ぎんざ（東電銀座支部）、つちおと（全造船長崎一鉄職場分会）、さいたん（日炭高松労二採炭協議会）、分会タイムス（東武館林電車区分会）、大地（七十七銀行青婦人部塩釜支部）、羅針盤（全金復辺製鋼所支部）、あかと（日産化学王子支部硫酸課）、職場新聞（全鉱妙法労組）、全農林愛知（全農林愛知本部）、なかま（千葉市教組）、スクラム（全駐労風貿支部追浜分会）

参加紙ヨすぎけん・しんぶん（東武杉戸検車区分会）、方向板（東武川越車掌区分会）、ポイント（東武東上支部駅労四分会）、きてき（東武館林機関区分会）、手缶（東武館林車掌区分会）、先駆（東武鐘ケ淵分会）、友の声（東武杉工分会）、ふえ（東武熊谷分会）、ちから（東武野田車掌区分会）、あゆみ（東武新栃木車掌区分会）、めばえ（全農林食糧東京分会青婦）、全農林香川（同上）、くりやがわ（全農林岩手県本部厨川分会）、西ケ原ニュース（全農林東京都本部西ケ原分会）、農林福岡（同上）、農林宮城（同上）、全農林大阪（同上）、全農林京都（同上）、あしおと（全農林都本部）、耕土（全農林都本部食糧）、検労報（全農林兵庫県本部運検分会）、全農林福島（同上）、組合新聞（全農林三重県本部改良一身田分会）、平塚農研労（全農林農研）、農経（全農林都本部農経分会）、浜園ニュース（全農林農林省食糧研究所）、ひびき（全農林食糧本庁分会）、分会ニュース（全農林都本部蚕糸試験場分会）、全農林いわて（同上）、上桶支部便り（埼玉教組）、八教組ニュース（八教組婦人部）、奔流（千葉教組興隆支部）、しまくぼ（岐阜教組美濃市立下牧中分会）、八教組通報（都教組八王子支部）、共斗ニュース（蕨知不当処分粉砕高蕨地区斗争本部）、こだま（都・八王子教組）、なかま（全金富士宝工都宮学習会）、いずみ（富士重工伊勢崎青婦人部）、合同デスク（全造船舞鶴造船労一、労二青婦人部）、青鳥人（全金富士精密東京青婦人部）、よくぼ（全金三共電器婦人部ニュース（岩崎通信機労組婦人部）、いぶき（全金沼尻鉱山労組）、太陽（三菱労組高砂支青婦部）、こうじん（全鉱沼尻鉱山労組）、太陽（三菱労組高砂支部）、わかもの（神岡鉱山労組栃洞地区青年部）、せたに（明延鉱山労組吉谷職場）、泡友（神岡鉱山労組栃洞選鉱）、軌道（夕張労二鑛労二運搬）、夕炭労共同デスク（夕張炭職労組機関転協議会）、みしま（東電沼津支部三島分会）、つどい（東電松本支部青婦人部）、金杉（東電金杉支部）、せたがや（東電世田谷支部）、青婦（東電鶴見火力分会青婦人部）、たかすず（東電灰城支部栃化分会青年グループ）、わくら（東電新東京火力支部青婦人部）、飛躍（労一セメント労組）、若人（七十七銀行青婦人部）、ベルト（全専売京都

労一巻揚）、動力車高二新聞（国鉄動力車高崎労二支部）、組合情報通報（全金富士冨宇都宮労組）、チクデンチ（松下電器蓄電池支部）、東京労一（全電通東京労一支部）、おおもり（全国税東京南支部大森分会共同デスク）、なかま（昭和石油労組平沢支部青婦人部）、青竹（日本冶金川崎労組青年部）、はがね（全造船長崎分会二鋳職場）、わかくさ（木村屋総本店）、群鉄（全鉱群馬鉄山）、労鑑（低パ京信興低）、南蕉（全損保住友支部福岡分会）、湘南時報（片倉機業労組）、とろつこ（全林野熱代営林署分会）、地球釜（日清製粉）、原町市職（自治労福島原町市職）、若人の声（全造船舞鶴分会青婦人部）、牛乳支部（東貿労運送牛乳支部）、みちのく（日石労組仙台支部）、友和（佐竹職員組合）、ひろば（全駐労地図局支部青婦人部）、いわぬま（全建労岩沼支部青婦人部）、岳麓（広島損保山岳愛好会）。

雑誌の部

第一種（活版）　参加二十誌

推　選ヨ全電通みやぎ

特　賞ヨ運部（東武交通）、月刊炭労（日本炭鉱）

入　賞ヨ動く力（国鉄動力車）

参加誌ヨこだま（正金利互銀行従組）、道（本州製紙）、みづたま（全損保東京海上支部）、生協運動（日本生活協同組合連合会）、銀泥（静岡銀行）、神岡マイン（神岡鉱山）、ビル（福岡銀行従組労二支部）、労働日立（日立製作所日立工場）、輪風（帝都高速度交通労組）、わだち（西日本鉄道）、しんすい（全造船三菱長崎造船分会）、やなはら（福原鉱業所）、蓼土（太平洋炭鉱）、不二起労連（同上）、全専売きょうと（同上）、組合通信（福岡銀行）。

雑誌の部

第二種（ガリ版）　参加二十四誌

推　選ヨ部鶏（炭労夕張炭鉱文学サークル）

特　賞ヨわかもの（全逓熊本郵便局支部）、あゆみ（岩崎通信機）

入　賞ヨみつわ（炭労住友忠隈）、みつば（岩手県教組盛市支会六分会）

参加誌ヨ一番地（東京瓦斯四谷支部）、歯車（東京瓦斯中野支部）、蛍雪（全建労湯沢支部青婦部）、刈田（日教組教科研刈田のつどい）、教育開拓（日教組みやこ教科部）、あゆみ（日本ペイント東京）、砕氷船（全金山武計器支部）、調風（北海道教祖田支部）、ぷるーべと（日本石油大阪支部）、すえひろ（東京ガス本広支部）、労焔（東京ガス本郷支部）、ちば（東京ガス千葉支部）、根っこ（千葉県市原郡教研会学校調部）、品川文化（東京電力文化会中央支部品川班）。

◇　◇　◇

◇　◇　◇

機関紙からひろろ

〝最後の岸〟と――一昨日、勤めを同じくするY君から「銀座に、最いう名のバー」後の岸〟というバーが出現したヨ」と聞いた。「なるほど、時節がらうまいことをつけたものだ」と合点、さっそく探究心も手伝い、岸政府打倒を頭に浮べつつ、銀ブラとシャレタ。「あつた、あつた」サンドイッチマンの手振りもよろしく〝最後の岸〟があつた。何でそんな名をつけたのか分らないが、大いにハヤることを祈る。ドウデス、カ、みなさんも百聞一見にしかず行つて見てください。（見太郎）（全商工安保阻止の会「安保阻止通信」才四号）

「安保」知らぬ相手とは――春らんまんの花に先がけて、彼女の両親はまたもやてのん気にかまえていますが、あせる親心からすつかりお見合いのお膳立て……。覚悟をきめた彼女、定められた場所に行つて、お茶をのみながら一矢（し）をむくいました。

彼女「このごろ新聞でなんだか安保アンポつて書いてありますけど、どうお思いになりましてッ？」

彼「いやー、そんな話はぜんぜん……」

彼女「それでもあのように毎日書いてありますと見過がしてもいられませんわ。このままほつておきますと、また戦争が起りそうに思えてならないのですが……」

彼「ぼく、そういうことには全然ふれないことにしています」

せがまれてのぞんだ十一回目のお見合いも、彼女には不似合いな相手でありました。（福井・だるま屋従組青婦人部「それから」才二十七号）

廃業前のアマを粉砕する真実の記事、正確な情勢分析、まみやすい編集部が、なされても印刷所の選定をまちがつたら、目的とかなつた所用にならぬがありません。

創立十周年を迎えた当社は、簡単な輪転機を平台機四台から始動しました。当のご注文はの開始当、以来、当社はつねに信頼のこと多数、喜ばれつつ心と切り出すべく、

○よい人と作る人の身になつて奉仕する印刷所

○原稿から発送までの一貫体制

が、「知らぬ者の作つた日本機関紙印刷所」のモットーです。

日本機関紙印刷所

東京都港区芝浦宿町2ノ1-00　電話芝(43)5-1-31（代表）―8番

浦炭労働
長　横田
通知

結了

ご　あ　ん　ない

「安保の宣伝は、なかなか入らない」といわれたのに、統一行動は、史上かつてないほどのもり上りを示せました。
これは、たしかに一年半にわたる教宣活動の成果だと思います。しかしながら、国会解散、総選挙をひかえ、新しい段階での教宣活動は、いままでのままでは、もうおくれると思います。
この時期での宣伝の方向をどうするか、――さる六月二十日からひらかれた、全国運事会、全国教宣集会の報告も兼、つぎの内容で支部幹事会をひらきますのでお忙しいでしょうが、万障くり合せの上、御出席下さい。
なお、こんどの全国運事会のあと、さきにおこなわれた全国代表新聞コンクールの表彰式および批評会、座談会大会もありましたので、その討議も報告し、こんごの代表新聞活動に役したいと思います。

記

一、と　き　七月七日（木）午前十一時より
一、ところ　福岡市警固本町九番地　県田荘　電話㊀二三五二
　　西鉄ガス本社裏（福岡県庁東横浜町）市電、東坂町下車、東坂町

一、議　題
　報　告　1、全国運事会、全国教宣集会の成果
　　2、全国代表新聞コンクール講評
　　3、支部活動報告
　討　議　1、支部幹会、教宣学校対策
　　2、安保斗争における宣伝活動の総括とこんごの方針
　　3、こんごの支部活動について

一、参加費　一人＝壱百円（会場代を含む）

一九六〇年七月七日

日本炭鉱新聞社九州支部

日本炭鉱労働組合浦炭労支部 新聞 35.7.2 受付 第

組合長	副組合長	書記長	職務部長	給與部長	生産部長	厚生部長	教宣部長
		竹					

結了

ごあんない

宣伝は、なかなか入らない」といわれたのに、統一行動は、夫上かつてのもり上りを升せました。

たしかに一年半にわたる教宣活動の成果だと思います。しかしながら、、総進撃をひかえ、新しい段階での教宣活動は、いままでのままでは、れると思います。

での宣伝の方向をどうするか。――さる六月二十日からひらかれた、全、全国教宣集会の報告も以、つぎの内容で支部幹事会をひらきますのでしようか、万障くり合せの上、御出席下さい。

なお、こんどの全国理事会のあと、さきにおこなわれた全国代用紙コンクールの表彰式および批評会、至験発表会もありましたので、その討議も報告し、こんごの代用紙活動に資したいと思います。

記

一、とき　七月七日（木）午前十一時より

一、ところ　福岡市警固本町九番地　県田荘　電話㊀二三五二

西鉄ガス本社裏（福岡駅前電車停留所）下車、本坂町

一、議題

報告　1、全国理事会、全国教宣集会の成容

2、全国代用紙コンクール講評

3、支部活動報告

討議　1、支部総会、教宣強化対策

2、安保斗争における宣伝活動の総括とこんごの方向

3、こんごの支部活動について

一、参加費　一人一百円（会費代を含む）

一九六〇年七月七日

日本専用紙民会九州支部

35.7.2 受付

結了

第11回 九州教育宣伝学校のごあんない

新安保の批准を強行したあと池田内閣は、三池斗争をペテンにかけ低姿勢の煙幕をはりながら、北炭、杵島などの首切りをはじめ国鉄公務員への首切予告等、さらには国民年金制度の改悪、諸物価の値上りは、目に見えてわれわれの生活を圧迫してきました。この新しい問題の[illegible]かで秋から冬にかけての斗い、とくに選挙を前に労働運動と宣伝活動をつよめるため、第十一回の教宣学校をひらきます。

組合から、職場からふるって参加して下さい。

一九六〇年九月二十五日

日本機関紙協会九州支部

日炭高松労働組合　杵島炭鉱労働組合
八幡製鉄労働組合　三菱化成黒崎工場労働組合
福岡県庁職員組合　宇部興産炭鉱労働組合

常任幹事

組合長
副組合長
書記長
[illegible]
[illegible]
生活部長
厚生部長
教宣部長

日本社会党浦賀分部 昭35.9.29 受付

一、とき―十月十三日（木）
午後一時三十分より
（受付は十二時より開始いたします）

十月十六日（日曜）正午迄

一、ところ―福岡県二日市町紫泉荘（福岡県教職員共済組合保養所）

一、受講料―（四日間通し）一人七百円
但し会員団体は一人五百円

一、テキスト代　一人弐百円

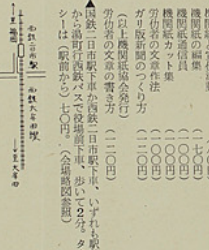
一、宿泊料　一泊二食五百弐拾円　昼食
九拾円　三泊四日九食一人
につき　壱千八百参拾円

第一日　10月13日（木よう）
13・30　開校式
14・30　コーラス　指導　九州青年合唱団
14・30　講義　「きいきんの国際国内情勢」　九大助教授　島崎　譲
16・00　質疑応答
17・30　夕食　入浴
18・30　交流会

第2日　10月14日（金よう）
9・00　講義　「労働運動の新しい局面と宣伝活動」　太田事務局長　富岡　隆
11・00　昼食応答
12・00　分科会
13・00　イ、機関紙　カベ新聞の作り方
ロ、話し方と口による教宣活動　事務局
ハ、視聴覚教育宣伝について　共同映画社
17・00　夕食　入浴
18・30　映画会

第3日　10月15日（土よう）
9・00　コーラス
9・30　講義　九州支部事務局長　森　一作
11・00　質疑応答
12・00　昼食
13・00　報告「二池斗争のその後」　三池炭鉱労組
14・00　分科討論
17・30　夕食　入浴
18・30　各部屋交流

第4日　10月16日（日よう）
9・00　コーラス
9・30　全体討議　総括
11・30　閉校式　助言者　富岡講師　実行委員会



△こんどの特長▽
日本における労働運動と国際情勢の結びつきを明かにし、教宣活動の方向を見定め、目、耳、口による宣伝の

△注意▽
1、第一日十月十三日（木）は、正午から受付をはじめますが、中食は各自で御用意下さい。
2、申込みが多いと会場の都合で お断りすることがありますので、次の申込書で早目に申込んで下さい。

△会場で販売する書籍▽
機関紙と宣伝活動　（八〇円）
機関紙の編集　（一七〇円）
機関紙通信員　（一〇〇円）
機関紙カット集　（一〇〇円）
労働者の文章作法　（一二〇円）
ガリ版新聞のつくり方　（一二〇円）
（以上機関紙協会発行）
労働者の文章の書き方　（一二〇円）
▲国鉄二日市駅下車か西鉄二日市駅下車、いずれも駅前から渦町行西鉄バスで役場前下車、歩いて2分。タクシーは（駅前から）七〇円。（会場略図裏面）

△テキスト▽
各講義テキスト　パンフレット「新安保と合理化が背負わすもの」　レポート集　九州でうすぐれた宣伝活動をつづけている十一組合から、最近の情勢をレポートとしてまとめ、それを討議の基礎資料として配布します）

△その他▽
報告――全国労働者の攻撃のなかで二百余日を斗った三池炭鉱労組から、斗争後の状況をききます。

森　一作氏　元西日本新聞社記者、現在日本機関紙協会全国理事、九州支部事務局長として、九州における労働組合の教宣活動の発展のため、一貫して活動をつづけておられます。

北村政祐氏　九州共同映画社社長、九州視聴覚事業連合公事務局長、勤労者視聴覚教育事業連合公特別会員として、労働組合の視聴覚教育宣伝活動の啓蒙のために尽くしておられます。

富岡　隆氏　戦前から東京の金属労働者として働き、敗後は長野県労働組合会議議長、事務局長をへて、全日本金属労働組合書記長を三年つとめ、現在、日本機関紙協会事務局長、勤労者学園講師。著書「これからの読書」「メーデーの話」「労働者の文章の書き方」。

教宣学校実行委員会殿

申込書

第十一回九州教育宣伝学校に参加します。

人員　名
（男　名
女　名）

月　日

組合名　㊞

結了

組合長	
副組合長	
書記長	
厚生部長	
生産部長	
給與部長	
教育部長	
教宣部長	

一九六一年一月一日

第十二回全国総会召請状

様

東京都港区三田綱町一の一〇〇
日本機関紙協会
理事長　高垣　礼二郎

36.1.19 第490号

明けましておめでとうございます。安保斗争と三池斗争をたたかつて、世界の兄弟との連帯をふかめたわたしたちは、新たな希望をもつて、一九六一年をむかえました。ことしも、安保条約をやぶり、統一行動と統一宣伝をつよめるために、ガンバリましよう。

さて、協会規約十条により、左記のとおり第十二回全国総会をひらきますので、召請いたします。こんど総会は、安保斗争で力量を高めた労働者階級が中心になつて、国民的規模の統一宣伝をすすめるにはどうしたらよいのか、方向をきめる重要な意義をもつています。いつものように、協会加盟、非加盟をとわず、全国の仲間が集つて「全国機関紙・教宣活動家こん談会」としてひらきます。ふるつてご参加下さるようお願い申上げます。

なお、総会は規約により、委任状をふくめ過半数の出席によつて成立しますので、万一欠席のばあいは、同封委任状を、本部事務局まで郵送下さい。

記

一、日時　一九六一年一月二七日（金）午後一時開会、二八日(土)　二九日(日)　三日間
一、会場　文化服装学院熱海荘
（静岡県熱海市桃山四六、電話熱海五六三二、五七八九番）

28

一、日程
＜第一日＞　全体会議、一月二七日（午後一時ー八時）
①一九六一年の機関紙宣伝活動（案）報告、基調報告　②講演（予定）　③協会の活動報告　④会計報告
⑤事業方針と予算審議　⑥役員改選。その他
＜第二日＞　分散会。一月二八日（午前九時ー午後五時）
一五、六人が一グループになつて、議案について話しあつたり、各自のナヤミをだして、経験交流のなかから問題解決をする。
夜は交流会。
＜第三日＞　分科会。一月二九日（午前九時ー午後五時）
第一＝今までの教宣活動とこれからの方向
第二＝通信記事と投稿活動
第三＝職場活動と職場新聞
第四＝多種多様な宣伝手段とその活動（かべ新聞、幻灯、8ミリ映画、その他など）
まとめの全体会議

一、参加費　資料代をふくめて一人三〇〇円。非加盟団体は四〇〇円いただきますので、ご協力下さい。
一、宿泊費　一泊三食付八〇〇円

▽お願い△
1、全国理事会が二十七日午前九時ー十二時にひらかれるので、全国理事は、なるべく二十六日夜、会場に お出下さい。そのばあい準備の都合上、本部事務局へ連絡して下さい。
2、各参加団体の活動報告をプリントして交流しましよう。三〇〇部用意して下さい。
3、会場は熱海市ですが、伊豆山という静かな山上で、いわゆる「熱海」ではありません。学校の寮でもあるので、安心して参加下さるよう、宣伝して下さい。

委　任　状

都合のため第十二回全国総会に出席できませんので、議事いつさいを議長に一任します。

一九六一年一月　　日

団体名　　㊞

日本機関紙協会
第十二回全国総会議長　殿

一九六一年の機関紙宣伝活動

日本機関紙協会第十二回全国総会議案
全国機関紙・教宣活動家懇談会の手引き

もくじ

一、はしがき
二、わたしたちをめぐる情勢とその展望
三、機関紙・宣伝活動の現状と改善したいこと
四、日本機関紙協会のこれからの活動

一、はしがき

いままで機関紙・宣伝活動にたずさわるものは、わたしたちをとりまく当面の情勢と、展望をつかまなければいけないといわれてきた。安保闘争はこのことが何にもましてたいせつなことを、あらためて教えてくれた。この議案が、安保と三池に学ぶことからはじまり、情勢をしっかりつかんで、わたしたちが「誰のために」「何のために」仕事をするかの構えを作ろうとしたのは、そのためである。

議案は、全国総会だけではなく、機関紙と教宣活動のあるところ、地域や職場で討論して、みんなの力で、いっそうりっぱなものにしていくよう、おねがいしたい。

第十一回総会で申し合せたこと

第十一回全国総会（一九六〇年一月、東京）で申合せた機関紙宣伝活動の基本方向は、安保改訂阻止のための統一行動をひろげることと、三池炭鉱の闘争など合理化に反対するたたかいと真剣に取りくむことであった。それまでの宣伝は、安保は安保、合理化は合理化だったが、実際のたたかいのなかでは一つにむすびついているので、これらを綜合的にとらえた活動をしよう。また、安保と合理化は、これからさき何年かかってもかちとらなければならない闘争課題だから、腰をすえてじっくりとりくもう。具体的な活動としては、共同宣伝をつよめ、取材と通信員活動に力をいれ、職場新聞活動を活発にしようの三つがきまった。

労働者の闘争力がつよまり、思想的自覚が高まると、資本家たちの思想攻撃と分裂攻撃がいっそうつよまってくる。これらの攻撃は直接職場をめがけ、一人ひとりの労働者をねらってくる。とくに安保改訂のために手段をえらばない岸政府と独占資本は、革新政党と労働組合のなかに分裂のクサビをうちこみ、マスコミを動員して、反ソ反共とアカ攻撃の宣伝にキャッキャになってきた。これにたいしては、機関紙・宣伝活動と組織活動を一体のものとして考え、分裂主義者の本質を事実でバクロしながら、横にもタテにも統一をかたく守ってたたかっていかなければならない。そのための集団編集体制の強化と、宣伝活動の統一が必要である。また、わたしたちの内部に民主主義を確立し、一人ひとりが積極的自覚をたかめるよう努力しなければならないと反省しあった。

二、わたしたちをめぐる情勢とその展望

（一）安保反対闘争から学ぶべきこと

(1) 成果は何であるか

安保闘争は、日本の労働者階級と国民が、はじめて経験した大統一行動だった。また、闘争の規模が大きく、国民をハバひろく動員し、持続してたたかわれたことでも、はじめてであった。このたたかいは、労働者と国民の心のなかに、国と民族の運命は、みずからの手で切りひらかなければならないという、考え方の変化をうみだされた。この意識の変化は、安保改訂阻止国民会議の指導が、基本的に正しかったことと、アジア・アフリカを

はじめ世界諸国民との連帯のもとに、社会発展の法則にかなった闘争をしたことに、うらぎりがあれている。また日本の機関紙・宣伝活動が、一年半以上にわたって、新安保が日米軍事同盟で、合理化攻撃とむすびあってきたことが、労働者と国民をふるいたたせた原動力であった。安保闘争は、労働者階級と社会党、共産党が中心になって指導したが、このなかで大統一行動が発展し、統一戦線の芽がうまれた。しかし、国民会議は、さまざまな思想と行動のちがいを前提として作られた、共闘機関だった。それにもかかわらず、安保共闘会議は全国に二千の組織をもち、地域で多様な宣伝活動をおこなった。国民会議の決定と指令は、闘争に参加した労働者と国民に権威あるものとしてうけとられ、ただちに行動が組織された。

安保闘争は、次のような成果をあげて、世界の平和と民主主義運動に大きく寄与した。わたしたちはこれを、積極的に評価しなければならない。

1、この闘争の発展のなかで、労働者と国民のなかに、二つの敵（岸信介をかしらとする日本の独占資本と、アメリカ帝国主義）がみえてきた。そして、新安保条約は、日米軍事同盟であって、日本民族への抑圧であるとともに、ソ連、中国など社会主義諸国をはじめ、アジア諸国にたいして、侵略と戦争の体制をつよめるものだとの本質がわかってきた。

2、岸政府は、アメリカ政府との間に「此花」の形をつくったが、このような新条約は無効であり、安保をただかった労働者と国民はこれを絶対承認しないと宣言した。

3、これらの新条約にたいして、労働者と国民はいつまでも反対の行動をつづけるとともに、新安保は破棄されるべきであると叫った。

4、アイクの訪日計画が中止された。これは日本国民の大統一行動が、全世界の人民の敵であるアメリカ帝国主義の侵略と戦争計画を、具体的にうちくだいた大事件であった。

5、労働者階級の全国的ストライキと、岸退陣、国会解散、安保破棄を要求する請願運動は、六月二十二日ついに岸に辞職を高明させた。これは、日本の国民の統一行動によって、はじめてかちえた大成果であった。

6、黒いジェット機U2型機を、国外に追放した。

7、第六回原水爆禁止世界大会は「帝国主義両盟、植民地主義的政策をとる勢力や、侵略的な軍事同盟、軍事基地政策をとる勢力は、すべて平和の敵である」とのアピールを採択して、アメリカ帝国主義と世界諸国民の「共通の敵」であることをあらきかにした。そして、新安保の破棄をめざしてたたかうことを宣言したが、これは安保闘争のあらたれである。

8、安保闘争の継続、発展としてたたかわれた総選挙では、安保反対の先頭にたった社会党、共産党が躍進した。自民党は前回の得票率を下回り、社、共、民社をふくめた得票率はふえて、三党の一六五議席は、憲法改悪を阻止する力をもつことができた。（「計議資料」京都における選挙と宣伝活動」参照）

（2）欠陥は何であるか

安保闘争は偉大な成果をあげたにもかかわらず、新安保そのものをうばうことができなかった。岸田第一次、第二次内閣の出現をゆるした。これは労働者階級と革新政党を中心とする民主勢力の弱さ、とくに統一行動と統一戦線の問題である。日本の労働組合が、戦前戦後をうらぎって分裂し、労働者階級のいろいろな部隊が、統一戦線を作って行動できなかったために、独占資本と反動派を利する結果をまねいたのである。

具体的には、総評と全労が統一してたたかえなかったこと、安保反対のゼネストの波が高揚したときに、民間の基幹産業労働者が決然とストに起てなかったこと、あるいは、全学連と学生、思想と行動のちがう階層の仲間たちを、労働者階級が正しく指導して、統一行動をいっそう発展させることができなかったことである。労働者階級のどくがある。ところがこの統一は、ほって おいてうまれるものではない。常に正しい指導による教宣活動おこなわれ、活動家たちの骨身をおしまない努力がなければダメである。それは、労働者と国民の隊列を分裂させるために、マスコミやPRによる思想攻撃をかけ、警察、自衛隊などと暴力機関を動員して、民主主義と組織の破壊をねらっているからである。また日本の社会に根強くのこっている封建的な習慣や、伝統の力もかれらに味方をしている。

安保のようなはげしい行動をやったからとって、労働者の考えや思想は、すぐにかわるものではない。労働者階級の自覚した部隊が、特別の努力をはらわなければだめである。そのための、組合としての系統的な教育、宣伝活動と、自然的に作られた学習会の指導が必要であった。また、労働者がやった安保の直接経験を、分析、整理、綜合して、理論化する必要があった。これがおこなわれていたら、統一行動が労働者一人ひとりの思想になったし、一定の政治目的をかかげた統一戦線が必要なことを、もっと多くの労働者が自覚したにちがいない。

また、このたたかいのなかで、労働者は二つの敵をみることができたのである。とはいえ、闘争が敵認した瞬間に、敵を明確にして、組織的にたたかいを発展させることができなかった。たとえば、六月十日にハザチ事件が起ったときや、ゼネストの責任追究を名をかりた不当弾圧がだされたときなどである。

（3）安保闘争と宣伝活動

一年半にわたる安保のたたかいは、三つの時期に区分される。第一期は、一九五九年三月に国民会議が結成されてから、六〇年五月十九日まで。第二期は、五月二十日から、六月十八日に安保が自然成立するまでの、政治的高揚期。第三期は新安保不承認、破棄を宣言してからの、安保打破のたたかい。

第一期では、新安保が国の運命に危険なことと、労働者と国民の生活にあたえる影響を機関紙で報道、解説した記事が多かった。このなかには、新安保の軍事的な危険性だけを強調して、世界の労働者階級と平和勢力が、暴力勢力を圧倒する強大な力をもつにたった事を軽くみるものもあった。また、この期間には機関紙とパンフを併用して効果をあげたり、共同デスクで共編機関紙を発行した団体が多かった。とくに、全国各地から三池へいった活動家たちが、安保と三池を結合して宣伝したことは、そのこのたたかいを組織するいせつなテコになった。この期間のねばりづよい活動が、五・一九以後のたたかいを吹きあげ、連日の大統一行動を組織したのである。

第二期は、教宣活動家たちが、はじめて経験したテンポの早い政治的高揚期だったので、五年かかることを一ヵ月で学んだ。労働者が、内に秘めた創意性と創造性を、爆発的に発揮したときであった。情勢が日々とにかわるので、機関紙は特外を発行したり、ビラ、速報、ニュース、写真、かべ新聞を併用した。さらに口による教宣活動と、多様な宣伝手段を綜合的に運用した。問題は内容である。わたしたちは、職場の低辺にある労働者の要求と事実を微道しながら、その頂点にある政治に、読者の眼をなげける努力をしてきた。だからこそ労働者階級は企業のワクをこえて政治闘争に参加したのである。しかしわたしたちは、情勢の変化に適応する、政治的敏感さに欠けていたし、それをささえる通信、投稿活動を組織的に確立していなかった。また、このような激動期に役目をはたせる、長期の展望をもった宣伝活動に習熟していなかった。問題のあとを追っていく現象面だけの報道ではなく、敵を明確にした、指導性のある宣伝扇動こそ、これからの内容でなければならない。

第三期では、安保闘争の総括をやって、各団体の位置づけをしなければならなかったのに、ほとんどの団体がやらなかった。そして、そのまま総選挙闘争へはいった。そのため、安保闘争のなかで作った共闘組織を組織した、たたかいと宣伝がおろそかにされた。また、第二期の行動のなかで、新しい教宣活動家がたくさんうまれ、集団主義的な仕事のスタイルを身につけるようになった。この動きを手だてを、職場通信員や、職場新聞の活動家に育てる作業がこの期間におこなわれるようになった。

（二）三池闘争から学ぶもの

（1）三池を自分のものとして学ぼう

三池のたたかいは、一九六〇年十一月二十五日、中央での労資交渉で妥結、終止符をうった。しかし、たたかいは終わったのではない。一、二〇〇名の完全就職、百七十三名の法廷闘争、そして生産現場での、第二、第三の首切りにつながる合理化とのたたかいなど、多くの問題が横たわっている。「思えば一年半に長いきづいたたかいであった。一年後の今日、われわれは多くのものを失ったが、またそれにもまして多くのものを得た。そしてそれは、こんどのわれわれの前進に、大きな自信と確信を与えてくれたものである」（「みいけ」十一月二十七日号）

作島炭鉱の兄弟が、合理化反対のたたかいに勝利したときカール・マルクスのことばを引用して申分なだ。「労働者はときどき勝つことがある。それは一時の勝利にすぎない。労働者階級の真の勝利は、ますますひろがっていく統一と団結である。三池の大闘争を総括するとき、わたしたちは、ここに相対したこつのコトバをかみしめながら、「私はあのとき、三池の問題を、自分のこととして、どこで、どうだったかと」、自分自身とむすびつけて、討議しようではないか」これが、労働者がやる総括というものだ。

（2）三池闘争の意義

三池闘争は、日本の労働運動史上はじめての、規模の大きい、期間のながい、階級対階級のはげしいたたかいだった。それは、安保改定阻止、日米経済協力体制打破、合理化反対の大統一行動のなかで、それと結合しながらすすんだ。とくに、千二百名の首切りと、職場闘争の圧殺にあらわれているように、独占資本の合理化政策——休質改善は、労働者の基本的権利をうばい、ロコツな弾圧と分裂政策しかいがいにないことを示した。

会社がわは、政府、自経連と一体になって思想攻撃に力をいれたが、闘争の発展に応じて内容がかわった。マスコミ、PRをはじめ、会社の別動隊「大牟田再建市民運動本部」などを利用しての宣伝は、次のように変化をみせた。

1、石炭の斜陽産業論
2、三井鉱山は赤字で借金だらけ
3、労働者は低能力、高賃金
4、アカの口車にのって会社をつぶすな
5、組合は組合員の基本的人権を無視している
6、三井の再建は大牟田の再建
7、階級闘争主義の第一組合より、健全な第二組合へ

闘争は、会社の分裂策動と、三月の第二組合の結成、

久保さんの純をのりとえてたたかいすむところから、全国的、全労働者的な闘争のかまえを示しはじめた。

「三池の労働者は、三池よりもっとひどい職場にあるのが真実です。このたたかいが、日本の民主主義を守るのに、それだけ大切なものか、支持する人びとのひろがりと厚さをみればわかる。それゆえ、三月二十八日のたたかいで職をえてられた人も、停年で退職した人も、停年に近い人も、みなどケに参加して、闘いを守りつづけているのです」（炭労大会、三池炭鉱書記長発言）

このように、はじめは三池の労働者の内部に多くの弱さをもっていたが、国の内外からの労働者階級の連帯にはげまされながら、敵の分裂、弾圧、懐柔、虚報、万余によおぶ警察権力の動員、さいごに中労委のあっせんの正体をみたとき、労働者と家族は、一致団結をかためて十億円あつまった。カンパは、炭労の仲間の月六百円をふくんで十億円あつまった。中国、ソ連など社会主義国をはじめ、世界の仲間から尊いカンパと、激励がよせられた。三池を守る会は、全国で二千をとえた。そのうち東京には一八六の守る会ができたが、そこでは十一月二十三日に連絡協議会をひらいて、こんこは「三池を守ろう。三池のように強くなろう。一七二名の拒否者を守ろう。一の三つの方針をきめた。三池に学ばっへ発展している労働者の、自発的な連帯行動は、日本の土壌に育った新しい統一行動の基盤である。

それにもまして、独占資本が炭鉱労働者十一万人首切りの手はじめにえらんだ、千二百名の兄妹たちが、このたたかいで階級的試練をうけてすばらしい労働者になった。だから会社は、中労委と結託して、首切りには一歩も譲歩しなかったのである。

(3) あっせん案をめぐる論議

池田内閣出現直後、事態を収拾するという名目で、政府がのりだしてきた。それまで、三井鉱山のうしろにかくれていた政府と自民党の側にひきずりだしたことは成果であった。中労委藤林会長、中山委員のあっせんは、次のようであった。

①千二百名を生産担当者とき、つけ、一・〇月後に自然退職させる。②昭和二十八年の百十三日の闘争いこ、今日までの職場闘争を、正常な労働組合の又行為と認したものとして否定する。③こんこの闘争のビ行為を、話の進行を不可能ならしめる暴力行為と断定する。④そして、生産再開のため、会社本社、三池鉱業所、炭労、三池労組だけでなく、三鉱連、三社連、三池農組、三池協二組合を加えた委員会を作ること。

この案は、内容が示すように、あっせんに名をかりて独占資本と政府、分裂主義者のいい分を全面的にとりいれたものであって、明らかに不当労働行為をかため、組合の団結権の基礎である職場闘争も否定し、新安保と合理化に賛成する労働組合を育成しようとするものである。

この案をめぐって、炭労は九月に第二十七回臨時大会をひらいたが、大会宣言は討論の結果を、つぎのように集約した。

「自分のヤマや、企業合理化にたいして、それぞれの支部、企業連が自ら立ちあがらないで、ばらばらにされていたから、体制は確立されない。その根本にある組織内部の弱点の克服なしに、十一万人クビ切り体制に対決することは、到底不可能であり、三池闘争を今後闘いぬいてゆけない。炭労の主体的な欠陥もここにあることが指摘された。そして、こんこ全組織をあげて、この欠陥の克服に努力するという姿勢のなかで、事態収拾をはかることになった。

しかし大会では、あっせん案を拒否してたたかえとの発言が、ひしょうに多かったことも事実である。太平洋炭鉱の代議員は、大要次のようにのべた。

「あっせん案を拒否して闘うさいの最大の弱点を、産業別統一闘争を組まあげる闘争がないことをあげている。それは最大のものではない、決定的な弱点はほかにある。安保闘争は、岸が退陣を声明したからから、しだいに圧縮線をたどっていった。そして三池をふる統一の力も安保の退潮とともに後退したといえる。中労委のあっせん申入れは、こうした革命の退潮期にだされた。岸が退陣せざるを得なかったあのころ、われわれが不当処分反対闘争を中心に、全民主勢力をかけていたならば、そのこの三池の挫折は、ちがったものになっていたろう。それをせずに、こんこの結果をもたらしたのは運動の全国的指導の弱さである。こんこ拒否して闘争をすすめるに当って、ハッキリさせておくことは、闘争解決の相手が誰かということだ。明らかに中間搾取を、見逃しは暗いと結論して、中労委と政府、分裂主義者のいい分を全面的にとりいれたものである。

この案は、内容が示すように、あっせんに名をかりて独占資本と政府、分裂主義者のいい分を全面的にとりいれたものであって、明らかに不当労働行為をかため、組合の団結権の基礎である職場闘争も否定し、新安保と合理化に賛成する労働組合を育成しようとするものである。

この案をめぐって、炭労は九月に第二十七回臨時大会をひらいたが、大会宣言は討論の結果を、つぎのように集約した。

「自分のヤマや、企業合理化にたいして、それぞれの支部、企業連が自ら立ちあがらないで、ばらばらにされていたから、体制は確立されない。その根本にある組織内部の弱点の克服なしに、十一万人クビ切り体制に対決することは、到底不可能であり、三池闘争を今後闘いぬいてゆけない。炭労の主体的な欠陥もここにあることが指摘された。そして、こんこ全組織をあげて、この欠陥の克服に努力するという姿勢のなかで、事態収拾をはかることになった。

しかし大会では、あっせん案を拒否してたたかえとの発言が、ひしょうに多かったことも事実である。太平洋炭鉱の代議員は、大要次のようにのべた。

ので、石炭もトン当り約三、三〇〇円引下げなければならない。そのため十一万人のワクをもっとひろげなければならなくなった」といいだした。同時に、能率は現在の三倍ちかく引上げ、賃金は平均五千円引下げることを計画している。そして北炭の三山（万字、美唄複、赤間）のように、相鉱出万式をひろげようとしている。相鉱山というのは、ヤマごと下請にするやり方で、これが拡大すると炭労加盟三分一のヤマがこれになってしまう。炭鉱労働者への、新たな搾取と収奪は、里に労働者への首切りという攻撃だけでなく、労働組合の組織と、民主主義そのものの破壊をねらっているところに、大きな政治的意義がある。

(5) 三池闘争と宣伝活動

三池闘争の労働者の要求は、組合活動家千二百名の指名首切り撤回であった。そして、もしこれをゆるすならば、全産業にわたる第二のレッド・パージ（赤追放）がおこるので、これに反対する要求であった。組合活動の自由をふくむ民主主義擁護の要求であった。わたしたちは三池の勝利のために、職場や地域で、この立場にたって宣伝をやった。ところが、闘争が「三池をつつむ統一闘争の体制」に発展した炭労四月大会での宣伝で、どれだけの変化と発展を示しただろうか。炭労第二十五回大会は、九日間にわたって討議をかさねたが、そこでは闘いのかまえを次のようにきめた。

「今次闘争の基本的欠陥のひとつは、支配階級が権力を動員し、マスコミを有効につかって、全国的な規模による反動的攻撃として三池のたたかいをすすめてきているのに、われわれは三井三池のたたかいを、きわめてせまい戦線で対決しているところである」「情勢が困難であるからたたかいをやめるのではなくて、努力することによって勝利の展望をみずからつくりだすことという道をえらんだのである」

そして、ただたかう道は、闘争の規模を全国的にひろげ、すべての民主勢力の力を結集した、長期柔軟なたたかい、再出発することであった。わたしたちが、この決定を正しく生かす実践を、全国的にひろげていたら、三池闘争の局面はかわっていたであろう。そのためのわたしたちは、いつも闘争の一歩前にいて、情勢の展望を示す宣伝をやるべきであった。たとえば、三池の首切り合理化の責任は、労働者にはないということ。その責任は、政府と独占資本によるエネルギー政策にあるのだから、完全な国家補償を要求すべきであり、さらに政策変更を求めるべきであった。このような要求は、国民運動として、政府にかなり圧力をもっている。わたしたちは炭労大会の「長期柔軟なたたかい」の本質を十分に認識し、国民を組織する武器として機関紙を活用すべきであった。このような欠陥は、日本の労働運動を、宣伝扇動活動せったいの弱さとして、卒直に反省しなければならない。（討議資料「三池の火は燃えつづける」参照）

（三） これからの闘争と宣伝の基本的なすすめ方

これからの宣伝活動の基本方針は、新安保条約を事実上空文化させ、新安保体制を打破していくために、日本の中立化と反合理化のたたかいを柱に、当面の春闘へ向っては積賃上げ闘争に、労働者と国民の考えと世論を作っていくことである。

安保と合理化反対のたたかいは、労働者のなかに二つの側面をつくった。前進の面と後退の面である。前進の面としては、職場にたたかうエネルギーがたくわえられ組合民主主義をかちとる方向があらわれてきた。新らしい要求が無数にでられて組織され、たたかうなかで活動家がふえている。労働組合活動の自由が、職場でひろがった。とくに、安保のたたかいのなかで、労働者は二つの敵がみえるようになり、政治的、思想的目覚が高まった。

後退の面としては、池田内閣の出現をゆるし、新安保体制強行のなかで、すべての反動勢力を結集した攻撃がつよまった。このなかで三池闘争の一事態収拾がおこなわれた。浅沼委員長がファシストの手で暗殺された。分裂主義者の行動がつよまり、組合の分裂、御用化がすすめられている。いわゆる「石よりの労働戦線の統一」が進行し、安保闘争の統一行動の成果を、抹殺しようとするうごきがあらわれてきた。

このような統一と分裂の方向のなかで、わたしたちは安保と三池の総括をすすめかおとなって、労働組合と団体の正しい位置づけをすることから出じめなければならない。そこからみちびかれる結論は、敵を明確にし、これとたたかう一致した要求のなかで、統一行動をつよめ、統一戦線を結成すること、そのための宣伝にある。

わたしたちをめぐる世界情勢は、ひじょうに有利で明るい。

1、社会主義世界体制の国際的影響力の急激な成長

2、アジア・アフリカ、ラテンアメリカなど民族解放運動の圧力による、植民地体制のいちだるしい崩壊の過程

3、アメリカに代表される資本主義世界体制の退廃

4、そして、世界の舞台では、「戦争勢力（帝国主義）にたいする平和勢力（社会主義国と資本主義・植民地後属国諸国の平和、独立、民主の力）の優位が、ますます明らかになってきた。

5、資本主義国の階級闘争の激化

このような世界情勢のはげしい変化のなかで、池田内閣と独占資本が、アメリカのしりおしでどんな政策をとっても、安保をたたかった労働者と国民は、これを粉砕する力を、内部にもっているのである。

(1) 安保破棄、日本の中立化のために

日本の中立化は、再体制の平和的共存と、平和勢力が驚嘆勢力を圧倒している時代の中立であり、大国も関心をもたざるを得ない保障された中立である。この運動と宣伝の目標は、新安保の破棄と、日本の完全中立をめざしていくものである。

1、アメリカの軍事基地の撤去、アメリカ軍事基地の撤退。
2、沖縄のアメリカ軍事基地の撤去と、日本への返還。
3、自衛隊増強反対、核ミサイル化阻止、自衛隊の応募反対、新自衛のミサイル基地反対。
4、ソ連・中国との不可侵条約または不戦条約の締結。これを前提とする日ソ平和条約の締結、日中国交回復。
5、憲法と民主主義擁護。

また、この目的を達成するために、アジア、アフリカ諸国民との連帯行動をつよめるが、とくに日本、南朝鮮、台湾、ベトナムのアメリカ軍事基地の撤去、アメリカ軍隊撤退要求の共同闘争を発展させる。

この基本方向の上に立って、平和共存と軍縮を促進し、階級間の力関係を変化させて、日本の政治と民衆の運命を転換させるための行動と宣伝活動をおこなう。このためにマスコミ工作はにわかに活発になった。五四年四月に、日経連、経済同友会、日本商工会議所などの代表によって作られた「マスコミ対策委員会」は、五八年の警職法闘争でベールをぬいで公然化したが、安保闘争後はロコツな干渉と圧迫をやりはじめた。六〇年七月二十九日に、マスコミ委とマスコミの首脳が懇談したが、席上、四団体がわは「安保決定は左規していた。マスコミ首脳陣の健全な良識に期待する」とシリをたいた。その結果、新聞労連と日本ジャーナリスト会議にホコ先をむけ、新聞経営者の合理化攻撃と手調をあわせてとに産経、毎日、共同通信の労働者に攻撃をかけてきた。

すべての経営で、管理者教育、新入社員教育に力をいれているが、基幹産業では、労働者を三田村労研、職場防衛隊が改称したもの）に送りこんで、反共、反総評、生産性向上運動協力、職場闘争否定の思想を教育している。合理化攻撃をうらはら形で登場した人間関係管理（ヒューマン・リレーションズ）は、組合幹部をふくんでいを安保体制に賛成させる組合関係管理（レーバー・リレーションズ）の方向へむけようとするうごきがみえてきた。

わたしたちの思想闘争、イデオロギー闘争はこんにち特別の意義をもっている。資本家がたちは、社会主義の成功と、労働者の階級的自覚に対抗して、労働者をいつまでも資本家の思想のなかに、精神的トリコにしておこうと、ヤッキになってくるからである。わたしたちは、思想的におくれた多くの仲間たちを、資本家の精神的トリコから解放し、わたしたちの内部にある、非科学的で実際にあわない思想と、たたかわなければならない。

合理化に反対し、思想攻撃とたたかう方向と、宣伝は五百九億円、前年同期にくらべて五〇％も増加するばく大な利潤をあげている。なかでも、自動車、電気機器、機械、化学繊維が高い利益をあげた。

独占支配のもとでの第五業の生産の拡大は、池田内閣の「所得倍増計画」のように、国民生活の改善や、「完全雇用」をもたらすものではない。労働者階級は、新安保体制による生産の急速に拡大のなかで、はげしい合理化攻勢にさらされている。自動車産業では、トランスファー・マシンの使用によって、工業機械の持ち台は一台から十台にふえた。鉄鋼産業では、ストリップ・ミルが旧式圧延機械にかわったため、一人当り生産高は月八トンから四・二トンにふえている。自動化された新鋭機械の採用によって、合理化職場の労働者の筋肉労働は軽減された。しかし精神の高度の緊張を必要とする、新らしい労働強化がおしつけられている。

労働時間は延長され、五四年の平均一九五・九時間から五九年の二〇四・七時間にふえている。「労働者調査」合理化された職場では、手待ち時間、休憩、仕度時間の切りつめ、交替要員の不足による連続勤務がふたりまえになっている。

合理化によって、雇用はふえたが、常傭労働者よりも臨時工、社外工、パートタイムの採用に力をいれている。「人べらし」は、炭鉱のように大量首切りの形をとるが、多くのばあい、大規模な配転、必要人員の制限、女子不採用などの形をとっている。また、新らしく採用する労働者は、低賃金でけがしい労働にたえる男女中卒、高卒に集中している。新鋭機械の採用とともに、若い労働者層が、「もうがる職場」の中心的役目をしはじめている。この反面、熟練労働者が、格下げ配転され、賃下げをおしつけられている。

工業だけでなく、政府と独占資本による農村にたいする収奪もまた破壊的である。こんにち、農村の階層分化は急速にすすみ、五九年は六十一万人が農村をはなれ、二十一万人が新しく兼業をはじめた。池田の「農業基本政策」は、現在六〇〇万戸の農民のうち、一・五―二町歩以上の農民を三〇万戸程度に育成する。他方四反歩未満のプロレタリア的農民を二〇万戸程度に育成する。資本主義的経営にたいして、低賃金労働を確保しようとする、冷酷な内容である。これは、一方ではアメリカの余剰農産物の対日進出をふせい、一方では豊富な低賃金労働力を、米日独占に提供する道である。

しかし、こうした労働者、農民、中小企業にたいする攻撃にくわえて、貿易自由化をテコとして、「斜陽産業」と「成長産業」がハッキリとあらわれ、池田のいう「産業構造の高度化」が、破壊的な形ですすめられている。

「成長産業」として、米日独占の資本と技術提携の上に、石油精製、化繊、合繊、石油化学の進出がすすみ、外貨合弁による新会社の設立がふえている。また、電機、自動車、ベアリングなどでは、アメリカ会社の下請化がすすみ、外債導集や外貨様式の発行等、電力、鉄鋼、開銀、電公社などですすめられている。このような、国鉄では第二次合理化の貨金ろうみだすために、昭和四十年度から毎年一万五千人の労働者を首切ったことでの、戦後最高の運賃値上げを計画している。

合理化は、労働者政治的、経済的攻撃をかけて肉体を破壊するだけでなく、思想攻撃をかけて、労働者の精神的破壊をねらっている。資本家たちの思想攻撃、社会主義、第二次世界大戦後はげしくなった。なぜなら、社会主義世界体制がうちたてられ、それが事実によって日本の労働者に変化をあたえ、資本主義をよけしたくかうようになったからである。攻撃のようどころは、反ソ反共思想であり、労資協調、階級協調である。この使いふるされた公式に、新しいベールをかぶせたのが「生産性向上」

「組織国家」「人間関係」である。かれらは、新しく職場へはいる若い労働者のために、教育基本法を改悪し、軍国主義の復活と、日米独占に準拠する反動教育体制をうちたてようとしている。池田内閣成立いらい独占資本のマスコット工作はにわかに活発になった。五四年四月に、日経連、経済同友会、日本商工会議所などの代表によって「マスコミ対策委員会」は、五八年の警職法闘争でベールをぬいで公然化したが、安保闘争後はロコツな干渉と圧迫をやりはじめた。六〇年七月二十九日に、マスコミ委とマスコミの首脳が懇談したが、席上、四団体がわは「安保決定は左規していた。マスコミ首脳陣の健全な良識に期待する」とシリをたいた。その結果、新聞労連と日本ジャーナリスト会議にホコ先をむけ、新聞経営者の合理化攻撃と手調をあわせてとに産経、毎日、共同通信の労働者に攻撃をかけてきた。

(2) 合理化に反対し思想攻撃とたたかうために

日米資本主義は、合理化による労働者の搾取と国民からの収奪によって、工業生産を、ここ十年間に戦前（一九三四年―三六年平均）の三倍にのばした。大蔵省の「法人企業統計速報」によれば、資本金一億円以上の法人百八十社の、六〇年一月―三月期の営業利益金は千

次の通りである。

1、合理化を基本的にみとめた上での賃金、時間短縮、労働条件の改善、教育の要求ではなく、合理化にたいする積極的、基本的要求までは統一行動の組織と宣伝、すなわち、経済、社会、政治の各分野にわたる統一要求を組むための宣伝に中心をおくことである。

2、一企業、一産業のたたかいを基礎に、すべての労働者と労働組合の、地域的、全国的統一行動へ発展するたたかいを組むこと、そのために、職場の労働者のエネルギーをおしみなく投みあげて力にし、さらに未組織労働者をふくめてたたかうように、規模をひろげること。

3、その具体的な宣伝として、すべての活動家が三池に学び、三池の教訓を自分のものとして生かそう。三池闘争は、そのなかでの宣伝活動を創造させている。

4、池田内閣の合理化政策、日米経済協力体制そのものを変更させ、つぶすために、全国民的な規模の闘争を組織し、宣伝しなければならない。政権変更のたたかいは、職場のエネルギーを、政治に向ってたたかわせる正しい指導性と、そのための民主勢力の統一、統一行動と統一戦線の結成としては可能である。職場のエネルギーを「政策変更」のベルでつつんで、国会内だけで処理しようとするやり方は、労働者階級解放のたたかいとは無縁のものである。わたしたちは、独占資本が、労働者をはじめ、農民、漁民、市民など多くの国民を手ぜいにしている経済構造のなかに、すべての労働者がたたかえば必要である。そこから、国民生活向上のための社会保障、独占価格と税制改革、日中貿易促進などの貿易構造の改革など問題になるのである。

5、日教組の仲間たちは、教育研究集会をつうじて、平和と民主主義と真実を守るために、十年間たたかっている。自治労、全電通の仲間たちも、それぞれ民主主義と、国民生活を守るために、研究活動をすすめて、集団主義のなかで自分たちの思想を作っている。また組合としての教育文化活動、自発的な学習活動はさいきんすばらしく発展した。これを宣伝の面でみるならば、資本家たちの思想攻撃、資本家のイデオロギー問題をそこだけでとらえるのでなく、労働者を無気力にさせている低賃金、政治的無関心を作っているアメリカへの従属――新安保体制というように、綜合的にとらえ、これをうちやぶる労働者の力を積極的にひきだし、組織し、高めるという場で、活動しなければならない。

（討議資料「石油産業の合理化について」「鉄鋼産業の合理化」「病院ストの背景と展望」参照）

(3) 賃金闘争と教宣活動改善のために

労働者の事業の柱は、平和賃上げと教宣活動の改善を提起したのは、これが日本の労働運動の質を高め、統一を創造させる基本的問題であり、同時教宣活動として、もっともすみやかに改善を必要とする部面だからである。

合理化がはじまってから、さいきん五年間の統計をしらべてみても、生産は倍になり、設備投資は三倍半にもなっているのに、賃金は二〇％しかあがっていない。しかも、時金をふくめた賃金のふえかたは、一時金が大きくふくれた、不安定なふえかたである。さらに労働生産性は四六％もあがり、賃金のあがりかた、雇用ののびかたが少いので、賃金コスト（賃金指数と雇用指数の積を生産指数でわったもの）は、下る一方である。さいきんの物価の値上りは世界一といわれ、家計へのハネカエリは、四人家族で三千円になっている。四月に予定される国鉄、私鉄運賃、郵便料金など独占価格の値上りを勘定にいれると、「勝手にしゃァがれ」、やぶれかぶれの腹だたしささえおぼえる。

大幅賃上げは、労働者と家族のだれもがのぞんでいる。労働者は賃上げによって、生活を守り、労働条件の物質的土台を維持、向上させるだけでなく、国民の購売力を高めるものだ。だから、労働者の購買力を結集し、国民とかたく結合すれば、文句なしに賃上げが実現できる。わたしたちは、いままでの賃金闘争と、教宣活動を反省し、職場にたたかう力をどう作るか、そのための教宣は何かなどについて、考えてみたい。

まず、賃金闘争の結果をはばんでいたカベが何であったかを考えてみると、第一は、企業を中心とした考え方である。第二は、要求を職場から組織するための教宣が不十分だったことである。合理化攻撃でしめあげられている職場には、無数の要求がある。職場の実感をかえていく力は、労働者の統一した行動である。その物質的な統一のカナメが賃金要求である。さらに時間短縮、雇用不安などを予知しながらも、その車両は出ていかなければならない。こういうことをくりかえしているうちに、労働者しょんいやでそういう考えをえつけられてしまう。

労働者は、この車両を点検、修理するための作業基準というものがきめられている。職場の労働者は故障個所の点検、修理とともに、他の悪い個所を発見すれば、それをおおそうとする。ところが上から定められた作業基準は、それを許さない。再び工場にまいもどってくることを予知しながらも、その車両は出ていかなければならない。こういうことをくりかえしているうちに、労働者しょんいやでそういう考えをえつけられてしまう。

労働者は、この車両を点検、修理するための作業基準というものがきめられていて、その基準いがいの作業はできなくなっている。職場の労働者といっしょに、故障個所の点検、修理とともに、他の悪い個所を発見すれば、それをなおそうとする。ところが上からきめられた作業基準は、それを許さない。

労働者は、この車両を点検、修理するための作業基準というものがきめられていて、その基準いがいの作業はできなくなっている。職場の労働者といっしょに、故障個所の点検、修理とともに、他の悪い個所を発見すれば、それをなおそうとする。ところが上からきめられた作業基準は、それを許さない。

国鉄新潟の労働者は、つぎのような経験を語ってくれた。

「国鉄では、車両が工場に入ってくると、この車両を点検、修理するための作業基準というものがきめられている。職場の労働者は故障個所の点検、修理とともに、他の悪い個所を発見すれば、それをなおそうとする。ところが上から定められた作業基準は、それを許さない。再び工場にまいもどってくることを予知しながらも、その車両は出ていかなければならない。こういうことをくりかえしているうちに、労働者しょんいやでそういう考えをえつけられてしまう。

労働者は、この車両を点検、修理するための作業基準というものがきめられていて、その基準いがいの作業はできなくなっている。職場の労働者といっしょに、故障個所の点検、修理とともに、他の悪い個所を発見すれば、それをなおそうとする。ところが上からきめられた作業基準は、それを許さない

おこなわなければならない。したがって、通信員にたいしては、たえず編集方針を明らかにし、通信員が活動しやすいように配慮し、連絡をできるだけ密接にすることである。同時に、「無償有言の任務」から、通信員を守っていかないかぎり、通信員活動を保証することはできない。通信員も、中央からの配慮がいかんにかかわらず、自発的な活動こそ、運動を一歩前進させるという自覚に立ちたいものである。

(4) 多様な宣伝活動

機関紙が「読まれない」「原稿が集まらない」ということから、「機関紙はもう古い、これからは視聴覚宣伝の時代だ」という意見があらわれだしている。視聴覚宣伝活動は、たしかに重要な役割りをもっている。さらに視聴覚にかぎらず、あらゆる宣伝手段を動員し、相互に運用することは、これからますますその重要度をくわえてくるであろう。

安保と三池のたたかいをひろげるために、映画や幻灯がひじょうに大きな役割りをはたしてきたし、ふだん活字になじめない労働者が、かべ新聞や写真で多くの問題を知り、運動の発展をつかんだ例もひじょうに多い。さらに、口による教宣活動もここにのべるまでもない。活動家が、組合員とじっくり合わせた話し合いは、どんな宣伝手段よりも成果をあげているし、職場の雑談から学者の講義にいたるまで、耳から入る知識はひじょうに多い。教育・宣伝活動は、その目的意識をつらぬくために、どういう場合にどの宣伝・手段が適当かを発見め、その相互運用によってさらに大きな成果を発揮することができる。

また、多様な宣伝手段の活用は、組合員の家族とか、未組織労働者、農民、一般市民など他階層への宣伝活動に大きな成果をあげている。

しかし、教育・宣伝の全活動を通じて、その中心の任務を果しうるのは、機関紙活動いがいにはないのである。あらゆる一切の宣伝手段は、この機関紙とともに運用してこそ最大の効果を発揮することができる。

すべての宣伝手段の中的表現が機関紙である。

(5) 共同宣伝、共同デスク活動

宣伝活動は、量が多ければ多いほど効果も多いものである。これは今までの宣伝活動の幾多の実例がしめている。この宣伝の内容が統一されたとき、その成果はさらに大きなものがある。

このような成果をもたらながら、安保闘争のもりあがりのなかで、共同宣伝活動がきわめて不十分であった。大衆行動は、安保粉砕国民共闘会議に大きく結集し、日まして行動は大きくなっていった。こういうときこそ、国民的な共同宣伝組織をつくり、時を刻々とうりかわる情勢を、全国のなまに伝えることは、中央で活動する機関紙・宣伝活動家の任務であり、機関紙協会こそその中心にすわらなければならなかった。

運動の発展とともに、日刊労働新聞の発行もすでに論議がすすめられている。闘争のもりあがりのなかで、その動きを全国のなまに敏速に報道することは中央の責任であり、このうみ重ねを経ずに日刊紙を組織することは困難である。この経験から学び、全国的な共同宣伝の組織について準備をすすめよう。

共同デスク活動は、このような全国的な共同宣伝組織とともに、当面する諸問題のために、随時・随所でひらかれるものである。さらにすすんで、共同デスクの常設化ということも考られる。そのためにジャーナリスト会議との提携も必要である。

三池闘争のなかで、共同新聞の発行がしばしばおこなわれた。同一紙面を各団体の同時に数十万も発行したが、この威力は大きなものがあった。共同パンフレット活動、かべ新聞など宣伝の多様な手段が、三池のたたかいをめぐっておこなわれた。このことの意義をもっと検討してみる必要がある。

(6) 集団体制

神奈川では、この一年、宣伝活動の集団体制を積極的にすすめてきた。とくに全国連神奈川支部では、五九年には傘下二十一分会中七分会が集団化されたが、本年四月には傘下二十一分会に二倍、構成人員からみると、四十名前後から六十七名、百名へ、二年間に宣伝活動家を倍増した。この傾向は全電通だけでなく、加盟団体四十九のうち三十三団体がこの体制をとって成果をあげている。このなかで新しい活動家がふえたが、ほとんどが青年婦人で占める。また、全電通市外電話のように、集団編集のなかに、分化がおこったところがある。すなわち、論説・職場・共闘・文化の四専門部にわかれ、おのおの専任をあきらかにしながら、全体の統一をはかっている。神奈川の一年の経験はひじょうに貴重である。これからの発展の方向は、集団のなかでの仕事の統一から、目標と意志の統一へむかうことである。形式から内容の充実へ、ここへの意識的な指導が必要である。

(7) 配布活動

機関紙、宣伝活動家は、機関紙がどのように読まれ、また活用されているかについてたえず注意をはらう必要がある。機関紙活動はとかくつくるまではひじょうに熱心になりがちだが、その配布についてはあんがいおろそかにされがちである。

中央から、地方の読者の手にはいるまでには、鉄道の

場合には駅までとりにゆき、組合にもちかえってから配布担当者の手に渡り、それから読者に手渡されるまでに一週間以上を経過する場合がかなり多いといわれている。たたかいの武器である機関紙が、一週間も空白な状態におかれるのはそれだけ威力をおとすものである。

三、日本機関紙協会のこれからの活動

これまでのべたように、一九六一年は、日本の労働運動・平和と民主主義運動にとっていままでにない発展と試練の年となるであろう。機関紙・宣伝活動の役割はきわめて大きい。

日本機関紙協会は、日本の機関紙・宣伝活動をつよめ、その飛躍的な発展のために、もっとも効果的に特長を生かして、献身的に活動しなければならない。

協会の任務と役割は、こんにちの情勢ではますます重大である。なぜなら、宣伝を通じての統一行動・統一戦線の拡大と、具体的な奉仕という二面の役割をもっているからである。

思想信条をこえてすべての労働組合民主的諸団体は協力しあうことができる。また協力しあっていかなければならない。このような方向を宣伝活動の面で、徹底もって進められるのは協会の特長である。労働者のなかに根強くのこっているセクト的な傾向や、派閥に反対し、宣伝の国民的な統一と結びつきをはかっていかなければならない。

協会の任務は、ひとことでいえば、「新しい情勢に即応した事業と奉仕の強化」であり、また、それをかちとるための「体制・運営の根本的な改善」である。

では「新しい情勢に即応した事業と奉仕活動」をどう強化するか。

①、全国教宣大学（仮称）を一九六一年七、八月ごろ東京で開校する。

配布は、機関紙活動の仕上げともいうべき大切なことである。機関紙はいつどう配布したらよいか、配布にはどんな注意が必要なのか、この問題は組織ぜんたいで検討されるべきである。配布活動こそ、機関紙を読者ぜんたいと結びつける最前線のたたかいである。

いま各支部ではそれぞれ「教宣学校」をひらき、地域的な経験の交流とともに、教宣活動の理論学習をおこなっているが、さらにその水準を高めるために数日間の予定で教宣大学をひらく。

⑧、**機関紙写真・マンガ・記事コンクールをおこなう。**

機関紙を組合員、家族はもちろん、未組織労働者や、農民、市民にも読ませるものにするためには、内容技術とともに思いきって改革する必要がある。そのため、この三つの全国的コンクールをおこない、交流と質の向上をはかる。

⑨、**共同宣伝の強化**　安保闘争のような歴史的なたたかいのなかでも、共同宣伝はひじょうに不十分だった。安保改定粉砕共闘民会議をはじめ、全国に二千の共闘組織ができたが、このたたかいのなかで、共同宣伝組織をつくることができなかった。三池のばあいも同じである。ことしは協会本部・支部の協力をつよめ、たたかいの発展におくれないよう、共同宣伝活動を組織していく。とくに中央では未加盟の主要労組が多いので、加盟・未加盟にかかわらず、全国民的、全労働者的な立場からとりくむ必要がある。

⑩、**通信員組織の拡大**　「機関紙通信員」などを普及するなかで、通信員活動の意義をひろめ、機関紙の集団編集体制をつよめ、活動家としての通信員を育成する。

⑪、**出版活動の強化**　本部および支部に出版部または出版委員会を作る。本部出版委員会は支部出版委員会の代表も含めて構成する。本部出版委員会は、全国的な教宣活動の資料を出版するとともに、各支部の出版活動の調整および指導と援助をおこなう。

「日本機関紙協会報」は市販もできる形体をととのえ、ページ数を増し、部数をふやす。

「宣伝資料」は月二回刊から旬刊へ発展させ、増ページし、部数をふやす。

⑫、**国際連帯運動の強化**　ソ連、中国、朝鮮をはじめ記者交換、資料交換など交流をつよめる。また国際連帯の宣伝を強化する。

⑬、**個別的な援助・奉仕の改善**

機関紙の交換、機関紙評・編集講座、教宣部長会議への出席、講師の派遣などを活ばつにする。

以上が全国的な協会の事業方針である。そのほか、各支部はそれぞれの力と条件に応じて、事業活動を全般的に強化する。

とくに、非加盟の主要な労組、重要な地域を中心とする中小企業労組への働きかけをつよめていきたい。さらに、労組いがいの団体の教宣活動への対策は根本的にあらためる。

◇　◇

つぎにこの事業を前進させるための「体制・運営の強化」をどうするか。

①、**本部・支部・連絡所の活動の集中交流**

本部の指導性と支部・連絡所の集中性をつよめることによって、協会の活動をかたく、統一的にすすめていく。

②、**理事会中心の運営の強化**

本部の常任理事会の運営の強化、できれば小委員会をつくり（たとえば出版、協会編集委、批評など）諮問的な機関から一歩前進させる。

全国理事会は年二回以上ひらく。

そのほか週刊、全国理事会にかわる支部長・事務局長会議、近接支部の合同理事会などをひらく。

⑤、**協会の組織の拡大**

名古屋連絡所、広島連絡所を支部にしていく。北海道その他支部のない地域の活動の再検討。友好的な関係の非加盟団体への積極的な働らきかけ（目標は積化へ、八六〇団体）。

④、**機関紙通信社、印刷所などとの提携**

協会・通信・印刷所三者の活動は相互に協力しあうなかで発展する。しかし、協会の活動の強化と拡大は通信の普及とその効果的な利用、印刷所の事業の拡大に影響するところが多い。本部・支部とも三者の結びつきを強めていこう。つまりに、労働者教育センター、労働者教育協会、労働調査協議会、日本ジャーナリスト会議など各団体との協力をはかる。

また、機関紙記者会の強化拡大に協力する。

なお、東京支部は支部としての独自活動を活ばつにおこなう体制がないので、再編成する。東京関東の加盟団体は当分の間本部に組結とし、財政も一本化する。ただし、東京支部理事会は東京支部準備または東京地域運営委員会（いずれも仮称）としてその活動を強化する。本部事務局に東京担当をおく。

▽財政について

事業と組織運営の強化・拡大のなかで、財政を確立させる。とくに、事務を正確にし、内外ともに滞納のないように努力する。本部、支部の事務局員の給与を引き上げ、同一規程にもとづいて実施できるよう努力する。

▽事務局について

協会の事業の発展のなかで、事務局のはたす役割は大きい。理事会中心の運営の強化の原則のなかで、事務局全体が理事会と正しい結びつきをつくっていく。

大阪支部では六〇年十一月の支部総会で、理事会構成メンバー十一名を十九名に増員し、そのなかに事務局員二名を選出した。事務局から選出したのは、協会の日常活動にたいして、事務局員だけでなく、理事を送って、責任を負うという理由からであった。つまり、協会の運動の発展としてその方法に改選したのである。

また、本部、支部事務局担当が、たえず信頼を深めるように、努力しなければならない。

追加議案

第三種など郵便料金値上げ反対運動について

政府は郵便審議会の答申にもとずいて、通常国会に現行郵便料金改定案を提出、四月一日から料金の大幅値上げを実施しようとしている。

値上げは池田内閣の独占資本本位の所得倍増計画、高度経済成長策の一環として、通信事業の基盤を国民の負担によって、再編成しようとするものである。この値上げは、国民生活をおびやかすものであり、独占本位の池田内閣の実態を示すものなのであり、わたしたちはこれに絶対反対する。とくに、機関紙、雑誌などの定期刊行物に関係ある第三種郵便物の料金値上げ（一円が四円になり四倍）が六円になる案）は、直接労働組合と民主団体の財政に大きな影響をあたえ、さらに業界紙、一般新聞の読者にとっても負担増になってくる。わたしたちは、今回の値上げが、封書、ハガキを据置くことによって、一般国民には関係のないようにみかけて、じつは大衆的、公共的な性格をもつ定期刊行物の値上げを強行する池田内閣の本質をバクロしつつ、一般物価値上げ反対と結合して、広範な国民的規模の反対運動をおこないたい。

規約改正案

「第二十条　協会に次の役員を置く。理事長一名、副理事長二名、事務局長一名、常任理事若干名、会計監査三名、顧問若干名、参与若干名」

改正＋事務局長一名のあとに「事務局次長一名」を追加する。

会場略図

全国総会会場
文化服装学院熱海寮
熱海市桃山46 TEL熱海 3533 5783

駅から徒歩10分

熱海駅

至東京

至大阪

第一分科会、討議資料

今までの教宣活動とこれからの方向

資本家階級の思想攻撃（P・R）は年ごとにはげしくなり、労資協調思想や企業意識の強化を一そうすすめてきている。また、商業新聞を中心とするマス・コミもろこつに労働者階級を主軸とする民主勢力のたたかいの本質をそらしたり政府・資本家がわの攻勢を本質をごまかしている。これは、資本主義の矛盾が激化する過程からでてくる不安と動揺の結果である。だから、P・R、マス・コミもたいしても、国の内外の労働者階級や平和勢力の力を正しくつかみ、その上で判断したり、対策をたてなければならない。とくに、マス・コミを巨大なものとして考えるのは、たいへん危険である。

三池闘争と安保闘争の統一行動のなかで、労働者階級のはたした役割の位置ずけをしたい。この統一行動のなかで、一定の内容と目標をもった統一宣伝活動がどの程度にすすめられたろうか。また教宣活動は組織内だけに目を向けたものにおわってはいなかったろうか。国民的規模になっていたろうか。国民的規模にもっとも評価された安保闘争の豊富な経験のなかから教訓をひきだし、それを労働者階級の確信と展望にしていく教宣活動が重要になってくる。また、独占資本の合理化政策と高度成長策についても、そこから発揮した労働者階級の職闘力―教宣、組織、財政活動―からも教訓をくみとらなければならない。とくに、三池闘争を前進させた目、中、朝の三国共同声明に示された国際的連帯性は画期的なものであった。

職場の事実から出発した記事の内容は、国際的事実まで発展する。国際的記事は労働者の視野をひろげ、新しい考え方をつくり、自分たちの位置づけをはっきりさせるものである。教宣活動は、教宣部だけの仕事でなく、組合全体でとりくむ任事である。

わたしたちは、このような立場から、戦後十五年間の活動を総括し、長期のたたかいに役立つこれからの方向をさだめていきたい。

現在多くの編集者は「機関紙が伝活動の根本的な課題であり、目的である。しかし、これはいわゆる技術・改善だけの問題であろうか。また教宣活動だけの欠陥であろうか。そこで、機関紙は、何のために、だれによって作られているか、を労組機関紙を中心にしてあらためて考えてみたい。

第一に、どういうことが記事になるのか。記事とはなんだろうか、である。

労働者が働いている職場には、さまざまな事実がおきている。まず資本家、経営者の方針が具体的な事実となって、機械設備や職場環境のうえに、上下の人間関係のなかにあらわれている。他方では労働者の不平・不満があり、また喜びや誇りや、悲しみや怒り、つまり生きた感情がある。

これらのものを、生活の立場から事実として、素直にとらえて表現したものが記事である。そして、これが紙面の中心になるのである。だから、できるだけ多くの事実や感情を紙面に反映しなければならない。ここに機関紙の集団編集―通信員制度―の意義がある。

これらの職場の事実、労働者の感情を基礎に、さらに調査、分析して執行部がわの記事、決議、解説、主張」ができるのである。

この両方からの記事を編集方針にそって、一つの紙面で統一的に表現されることが機関紙づくりのカナメである。「読まれるとか、読まれない」のカナメも、この点をはずしては語れない。

このような活動が系統的につづけられることで、労働者はいつも問題を事実でつかんで、やがては執行部（教宣部）の方針にそってみずからの力で一つの組織に結集し、敵に打撃をあたえる力に転化するのである。機関紙の組織者としての役割はこの点にある。

つぎに、発行した機関紙をうけとめる職場の組織が重要になってくる。つまり配布活動である。紙面の内容が、労働者の考え方のなかで、どう結びつくかは、教宣と話しあいから結びまるが、組織活動が一本のナワのようによりあわっているということである。

参考資料、総評の教宣綱領（案）（協会報十一月号掲載）

第二分科会

討議資料

通信記事と投稿活動

機関紙とは、それを編集する一部の人たちのためにあるものではなく、読者（組合員・会員）全体のために存在しているものである。したがって、機関紙の記事は、より多くの人たちの手によって書かれることがのぞましい。つまり、その記事を執筆する人が多ければ一歩一歩ちかずいていくものであるといっても過言ではない。

機関紙の編集部に通信記事や、投稿原稿を送る活動は、その活動にとって、最も重要なものの一つである。

(一) 通信記事と投稿原稿とのちがい

労組や民主団体の機関紙、また職場新聞などでは、執筆協力者がすくないため、「記事が集まらない」、「たのんでもなかなか書いてくれない」という編集部のなやみがある。

このため「どんな記事でも書いてくれさえすればよい」というきわめて初歩的な現状がある。だが、本部の機関紙をみると、○○人くらい、大きな支部では、一、○○○人以上の支部員を有し、この○○人以上の支部員を発行している支部は、二七支部でそれぞれ毎月一回タブロイド四頁のガリ版を発行している。職場新聞が出始めたのは、昭和二九年頃で、はじめは支部の連絡的なものや、文宣的なものが記事のなかにはかなあった。しかしいつも固い本部紙や中央紙を読んでいる現場の組合員に一番読まれた。身近かな人が書いた記事は、〝あいつはどんなことを書いたかな〟、そんな気で読まれる。

(二) 事実とはなにか

事実とは、それを見たり、聞いたりする人の主観や好みによって変えることはできない。

しかし、その事実の見方の角度によっては、その表現された文章はまったくちがってくる。

つまり、「労働者階級の利益をまもる立場」に立って書かれた文章と、「同じ事実を表現した文章でも根本的に異なってくる。

なぜ、そうなるのか。記事を書く者にとって、この問題は十分討議されなければならない。

(三) 通信員の任務

自分は通信記事を書き、周囲の仲間には投稿原稿を書かせる「通信員」を育て、職場や地域に配置していくことは、当面、とくに重要な活動である。

そのためには、若い、張り切った活動家を、立派な通信員としてより深く、豊かさを林検させていくことが大切となる。

通信員は、たんに、文章をうまく書ける人であってはならない。

自分の周囲の仲間に信頼され、その仲間たちの要求や不満を聞きだし、それと仲間たち相互に話しあわさせ、団結させていく組織者であるとともに、通信員は、ある場合には、大組合の幹部などよりも重要な役割と任務をもつものである。

(四) 五Wと一H

記事の表現方法は割一的なものではない。その発想法や型式は、つぎつぎと新しい創期的なものがうまれてくるし、奇想天外なものがあってもよいはずである。新しい社会をつくる労働者階級が、いままでの商業新聞が使いふるした型式にこだわっている必要は毛頭ない。

しかし、より多くの人たちに、共通の理解をしてもらい、その事実を普遍化していくためには、過去の経験によって築きあげられた一定の約束を知っておかなくてはならない。

5WとIHということは、そのような、一つの使法であり、現在、もっとも適切な記述法であるが、これにこだわりすぎて、かえって事実の真実性をゆがめてしまうようなことは、とくに注意しなければならない。

(五) 組合新聞と労働者の新聞

日本の労働組合の多くは、企業別に組織されているため、その機関紙にも企業主義が根づよい。

国鉄労組の機関紙は、どおしても国鉄の労働者の問題が中心に書かれるし、銀行従組の機関紙は、銀行の職場の中のことばかりに目が向けられてしまいがちである。

しかし、これだけでは、労働者階級としての共通の「ひろば」にはならない。国鉄労組の新聞に銀行の職場記事が書かれることも大切だし、銀従組の機関紙に、炭鉱労働者の生活が書かれることもまたのぞましい。

さらに、国鉄の労働者も、銀行の労働者も共通に読むことのできる統一された「労働者の新聞」が作られることは、日本の労働運動の前進のために、当面、とくに大切な課題となっている。

したがって、通信記事も、こういう、広い観点に立って検討していかなくてはならない。

(六) 取材と集団執筆

有能な活動家や、記事を書くことのうまい人の中には、自分個人の能力だけを頼り、他の人と相談しない傾向がうまれがちである。

記事を書く場合でも、できるだけ多くの人の力を結集していく共同活動をすすめていくことが大切である。共同デスク、集団編集の活動は、さらに検討されなくてはならない。

参考資料「機関紙通信員」（協会発行）

第三分科会

討議資料

職場の活動と職場新聞

職場活動は、労働運動の基礎である。どんなりっぱな方針がうちたてられても、職場での活動がなければ、運動は一歩も前進しない。その職場の活動をささえていくものが職場新聞である。職場新聞の「問題点」はたくさんあるが、今回は、鉄鋼労連日本鋼管川鉄労組の職場新聞活動の実情報告を、討議資料としたい。

川鉄労組の組織のなかは四三支部にわかれ、小さな支部では、二、○○人くらい、大きな支部で○○○人以上の支部員を有し、このなかで現在職場新聞を発行している支部は、二七支部でそれぞれ毎月一回タブロイド四頁のガリ版を発行している。職場新聞が出始めたのは、昭和二九年頃で、はじめは支部の連絡的なものや、文宣的なものが記事のなかにはかなあった。しかしいつも固い本部紙や中央紙を読んでいる現場の組合員に一番読まれた。身近かな人が書いた記事は、〝あいつはどんなことを書いたかな〟、そんな気で読まれる。

これが編集者を勇気づけ、支部の掲示板に原稿募集のポスターをはり張る。すると隣の支部でも〝俺のところも出そう〟と、この六、七年のあいだに二七支部に増えていった。

しかし増えるにつれ悩みもあった。それは、ガラバラな記事で、その支部の自主性がはっきりし、ある支部の記事は本部紙判にうつり、ある支部の記事はいつも主張的なものが多かったりしたことだ。本部の機関紙をしっかり支えぬ、組織の手となり足となって自分たちの身近かな運動の声を反映させ、横のつながりを広めていく基本的な職場新聞に統一するはどうしたらよいかという人も大変なことだった。それには次のことを解決しなければならなかった。①運動を通じて常に活発な支部と、惰眠な支部があること。②支部費で発行し本部が補助を出していないこと。③編集者の思想の問題。④任期が一年間であること。⑤集団編集をとっている支部と、一人で編集をしている支部があること。⑥投稿者が多い支部と、少い支部があること……など。この外にも関連した問題がたくさんあるが、これらをどう解決したらいいかあった。

担当者会議をひらいてもアゴはたきが多く、なかなか統一できない。組織の足をひっぱるようなことは、大組合の幹部などよりも重要な役割と任務をもつものである。

「こんな記事があるがみんなの支部ではどうか」とより上げたり、月の他の職場新聞に同じような悩みがたくさんとり上げられた。しかし組織が大きいと、二七の新聞企部を設い上げるのはよいのだが、その方法にいままで問題があったとも知った。編集も一人のところは四人五人と多くするようにも、そのなかに本部も入っていった。共同デスクでも二七支部のなかには、組織事情として入らないという支部は、あるときは理解してやった。編集者に本部方針にそわないと注意する前に、その記事をもってさせ時間をかけて話し合った。本部紙毎月の職場新聞の寸評をのせる。こうしたなかに職場間では「職場新聞とはたんに意見交換ではない。ほんとうに組織づくりなんだな……」と感じてきた。そうなると編集者をみんなが守ってくれる――経験が長かっただけにいままで生の声がどんどん反映されてきた。

この川鉄労組の職場新聞の経験は、大企業の一つの典型といえよう。この経験とともに、中小企業などの職場新聞のなやみ、問題点を出しあって、職場新聞についての討議をすすめよう。

①共同デスク新聞の発行。②運動方針に職場新聞の方向を明確化する。これらは本部の指導と職制が職場新聞の編集者や投稿者に目を向けはじめた。

活動家には編集はさせないようにする。従って記事を書く人が少なくなり、あってもトク名でそれも自近かな問題の記事ではない。編集者もしかたなしにへんに多面性をもたせ、紙面を固くしている。読む方でも肩がこる。こうなるといよいよ編集者は行きづまってきた。〝変われるような記事で」などはじめのとうは楽だった」などと会議のなかでは〝ガチ〟られる。この知は川鉄職場新聞が〝一番行きづまっていた状態だった。

しかし本部も支部も、これをどうりりぬけるか、を会議のたびに話し合った。そしてそのなかからリクツはぬきにして、またはじめも「職場新聞きりぬきらん」を作って植極的に記事を吸い上げるところに仕上げた。そして本部紙が長かっただけにいままで生の声がもりけて植極的に記事を吸い上げた。昨年の春には泡上地区というところに食堂がなく、その地区の職場新聞に〝食堂が早くほしい〟という人が多くなった。

第四分科会　討議資料

多種多様な宣伝手段とその活用

（カベ新聞、幻灯、8ミリ映画、その他）

「視聴覚は近代的な教宣活動の手段だ」とか、「新聞はもう古い手段になってしまった」という声をきく。はたしてそうだろうか。

労働者階級は、自分たちの力だけでなく、広く国民の力を統一して、平和な社会を作っていくために、何を使ってどう教宣活動を進めていったらよいのか。この分科会はこういう立場から、多角的で総合的な教宣活動について討議してみたい。

わたしたちをとりまく世界は、交通が発達するにつれてますますせまくなってきている。交通はすでに宇宙的規模で発展している。それだけに言と通って、いながらにして、各種の手段で多様ものを観察する機会が多くなった。また、教育も普及し社会制度もさまざまな形で発展している。したがって資本家階級はPR・HR、視聴覚手段マス・コミなど、あらゆる手段で、労働者を自分たちの精神的トリコにしようとしてくる。

しかし、現象的にはわたしたちに大きくのしかかってきているようでも、そのことが、かれらの矛盾と弱さのあらわれである。

このような情況のなかで、わたしたちの教宣活動はどうあるべきか。教宣は単純なものから複雑なものへと進んでいる。新聞が万能で、〝新聞記者は無冠の帝王〟といわれた時代もあった。いまでは、そんなことをいう人はいない。つぎに教宣活動の手段をあげてみよう。

○**印刷によるもの**＝機関紙、雑誌ビラ、号外、パンフ、リーフレット、書籍。

○**眼に訴えるもの**＝映画、幻灯、写真、マンガ、ポスター、壁しんぶん、広告、掲示板。

○**行動による媒体**＝大会、職場会議、座談会、デモ、対談、討論会、オルグ、学習会。

○**形式によるもの**＝手紙、落書、ルポ、小説、詩、俳句、川柳。

○**耳によるもの**＝レコード、テープレコーダー有線放送。

以上のように多種多様である。

また機関紙といってもタブロイド、ブランケット、B五版などにわかれ映画といっても、劇映画、ニュース映画、短編、長編などにわかれている。

わたしたちは、これらたくさんの教宣手段を再検討して、そこに一本のみちびきの糸をみいだされねばならない。総評の「教宣綱領」もそういう企図のもとに草案され討議に付されているのである。

では、これらの多種な手段はなにを基本にして、どう駆使したらよいか。その基本は、あくまで労働者の要求を基礎に、それぞれの教宣手段を駆使しなければならないということである。

大衆に実践させ、実践をつうして、理論的認識に到達させ、さらにふたたび実践にかえっていく教宣は、要求を基礎に、多種多様な教宣手段をもちいなければならない。わたしたちの認識は、感性的認識から理性的認識に発展するものである。だから、それぞれの手段は、感性に訴えるものを無視することはできない。したがって、映画、幻灯、テープレコーダー、口頭、などによることはたいせつである。だが、要求と隔離のちがいによって、教宣手段も変化するということを考慮しなければならない。

「視聴覚」が万能であるとして映画屋になってみたり、あるいは幻灯屋になったりするきらいはないかろうか。はなはだしくは機関紙作りまでが他の媒体との連携を考えずに発行して、機関紙屋になっている面もないとはいえない。たとえば、大会などの記事のばあい、いつどこで、なにお、というように真正面からだけ書くくせはなかったろうか。大会の様子をもっとも生き生きと表現する形式はなにか。マンガを駆使することもよい。写真を用いることもよい。ルポ形式や対談で、手紙形式で、小説風に、あるいは論説で、いろいろの形式を駆使していただこうか。

いままでの教宣活動は、どちらかというと、マンネリのきらいがあったとおもう。機関紙はたしかに労働組合の鏡である。しかし、そのものズバリを表現する必要を強調するのあまり、他の教宣手段を軽視していなかったか。機関紙を中心に、それをおぎなう教宣手段を重要視する必要がある。とくに労働者が他階層にたいする教宣の場合、それが社会的な内容であればあるほど、絶対に必要である。安保、三池の映画のはたした役割は、ある時期では、機関紙のそれよりも大であったといえよう。

わたしたちは、対内的な教宣の場合、組合員は多様な層にわかれ要求も多様であるということ、だからそれぞれの層にたいする教宣を考えなければならないことに注意したい。そして機関紙は、組合員全体の要求にふまえたものでない、全組織の各層の要求の集中的表現であるという自覚をもって、作られなければいけない。

参考資料「壁しんぶんの作り方」
（協会発行）

了

一九六一年五月三日

第八回支部総会召請状

日本機械紙板会九州支部
支部長　坂本　学

組合長	
副組合長	
書記長	
書記	
給與部長	
生産部長	
厚生部長	
教宣部長	

メーデー左機に、一段と団結のこととおもいます。

さて、機械紙板会九州支部規約第十条により、つぎのとおり第八回支部総会をひらきますので召請いたします。

こんどの総会は、いつものように教育宣伝学校のあと、ひらかれるもので、三池と安保闘争で力量をたかめた労働者の統一行動と統一宣伝をつよめるため、どうしたらよいのか、方向をきめる意義をもっています。

御多用中とは思いますが、どうか、ふるって御参加下さい。

なお、総会は規約により、委任状を含めての過半数の出席によって成立りますので、もし御欠席の場合は、同封の委任状を郵送下さい。

記

一、日時――一九六一年五月十四日（日）午後一時から

一、会場――福岡市西新町藤崎　福岡県社会教育会館
電話(83)三五八〇番

一、議題

① 至過報告

② 財政報告、会計監査報告

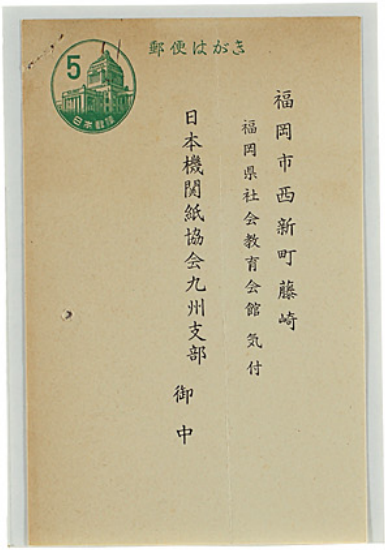
③ 一九六一年度活動方針について

④ 予算審議

⑤ 役員改選

以上

36.5.5 第一文書 受付



郵便はがき

5

日本郵政

福岡市西新町藤崎

福岡県社会教育会館 気付

日本機関紙協会九州支部

御中

委任状

都合により出席できませんので議事一切
を委任いたします

昭和三十六年五月　　日

組合名

日本機関紙協会九州支部
第八回支部総会　御中

結マ

共同デスクの御案内

福岡県労働組合総評議会
日本機関紙労働者会九州支部

連日の御健斗に敬意を表します。
さて、きたる六月四日、福岡県遠賀郡水巻町でおこなわれる「安保体制打破、合理化反対、生活と権利を守る福岡県民大集会」を中心に、いまの合理化の実情をつかみ、斗いをさらにひろげるため、つぎのとおり、共同デスクをおこないますので、どうぞ参加して下さい。
（会場である日炭高松労組は、いま、一万円以上の賃下げ、労働強化、配置転換などの合理化案にたいし、五月十六日から無期限ストで斗争中です。）

記

とき　六月三日（土）午后一時集合
ところ　福岡県遠賀郡水巻町、頃末（コロスエ）
日炭高松労働組合（電話六九番〇二〇三番）
（鹿児島本線、折尾駅にて下車、駅前より若松市営バス三松園行きに乗車、水巻信用金庫前で下車する。）

要領

六月三日（土）午后一時から報告と討議
「いまの合理化の実情について」
夜、居住分会で、分散コンダン会
六月四日（日）　午前十時から、前記県民大集会を共同取材
終了後、情報交換、午后五時、散会の予定

注意

1、三日夜の宿泊は、社宅に分宿を交渉していますが、無期限スト中なので、できるだけ旅館に合宿します。
2、各組合の旗幟を携行して下さい。

一九六一年五月二十六日

昭36.5.27 第89号

結了共同デスクの御案内

福岡県労働組合総評議会
日本機関紙協会九州支部

組合員	書記長	厚生部長	生産部長	給與部長	戦務部長	副組合長

連対に敬意を表します。

さる六月四日、福岡県遠賀郡水巻町でおこなわれる「安保体制打破、合理生活と权利を守る福岡県民大集会」を中心に、いまの合理化の実情をつかむさらにひろげるため、つぎのとおり、共同デスクをおこないますので、加りて下さい。

である日炭高松労組は、いま、一万円以上の賃下げ、労働強化、配置転換の合理化案にたいし、五月十六日から無期限ストで斗争中です。）

記

とき　六月三日（土）午后一時集合

ところ　福岡県遠賀郡水巻町、唄末（コロスエ）
日炭高松労働組合（電話六九番〇二〇三番）
（鹿児島本線、折尾駅にて下車、駅前より若松市営バス三松園行き
に乗車、水巻信用金庫前で下車する。）

要領

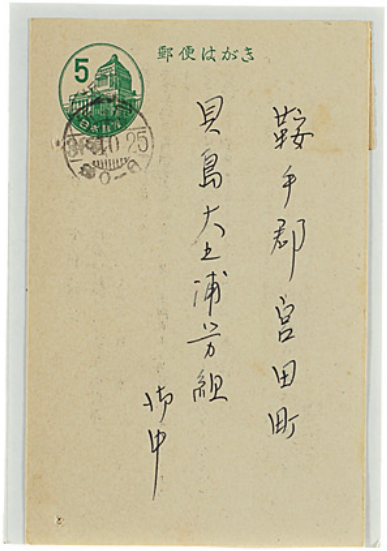
六月三日（土）午后一時から報告と討議
「いまの合理化の実情について」
夜、宿泊分会で、分散コンダン会
六月四日（日）　午前十時から、前記県民大集会を共同取材
終了後、情報交換、午后五時、散会の予定

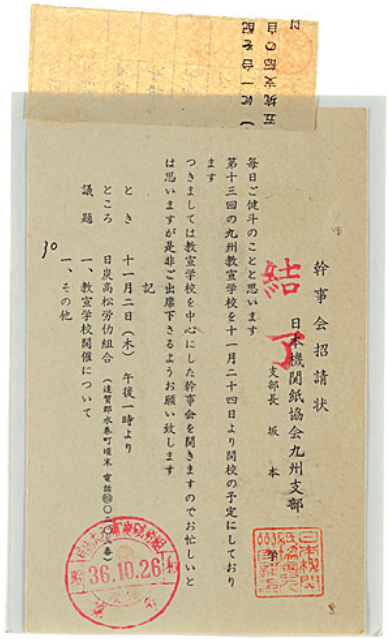
注意

1、三日夜の宿泊は、自宅に分宿を交渉していますが、無期限スト中なので、できれば旅館に合宿します。
2、書組合の親睦を携行して下さい。

一九六一年五月二十六日

36.5.27 第89号


郵便はがき
5
日本郵便
40.25
鞍手郡宮田町
貝島大正浦分社
坂中



幹事会招請状

日本機関紙協会九州支部
支部長　坂　本

毎日ご健斗のことと思います

第十三回の九州教宣学校を十一月二十四日より開校の予定にしております

つきましては教宣学校を中心にした幹事会を開きますのでお忙しいとは思いますが是非ご出席下さるようお願い致します

記

とき　十一月二日（木）　午後一時より

ところ　日炭高松労働組合（福岡郡水巻町頃末　電話㊀〇

議題　一、教宣学校開催について

一、その他

10

36.10.26

五月一日を起算日とする

組合長	副組合長	書記長	戦務部長	給與部長	生産部長	厚生部長	教宣部長

幹事会招請状

結

日本機関紙協会九州支部
支部長　坂　本

ことと思います
州教宣学校を十一月二十四日より開校の予定にしており
教宣学校を中心にした幹事会を開きますのでお忙しいと
是非ご出席下さるようお願い致します

記

十一月二日（木）午後一時より
日炭高松労働組合（遠賀郡水巻町頃末　電話◎○
一、教宣学校開催について
一、その他

36.10.26

郵便はがき
5
日本郵便
鞍手郡宮田町
貝島大之浦方
坪中

拡大幹事会招請状

日に日に秋さがましてきました、ご健勝のこととおもいます。

全国代表者会議および拡大幹事会議もおわりましたので、左記により拡大幹事会をひらき全国総会の対策を討議したいとおもいますので、万難をおかしてでもよりが出席をお願いします。

記

とき　十二月九日（土）十日（日）九日午後一時より

ところ　瓶詰温泉市町紫泉荘（叡山電鉄貴船口駅前）電話

議題

イ、全国理事会報告

ロ、前年度企画

ハ、一年間の教宣活動の総括

ニ、第十三回総会の対策

ホ、事務局体制について

※　会費　一五百円

なお、準備の都合がありますので、出欠を事務局まで連絡下さい。

日本機関紙協会京都支部

36.12.6

888

3/

第十三回総会

拡大幹事会招請状

日に日に寒さがましてきました、ご健勝のこととおもいます。

さて、全国総会の対策を討議したいとおもいますので、出席をお願いします。

記

一、九月九日（土）十日（日）九日午後一時より
二日市町泉泉荘（政府書共清組合宿泊所）電話
幹事会報告
企画
教宣活動の総括
厚生部長
会費　一五百原
会合がありますので、出来る事ム間まで連絡下さ

組合長	
副組合長	
書記長	
財務部長	
給與部長	
生産部長	
厚生部長	
教宣部長	

三、ヤ十三回総会の対策
木、事務局体制について

日本機関紙協会九州支部

36.12.6
588

（一月一日を期して五月末迄の月々）

結了

拡大幹事会案内状

日本労農紙反会九州支部
支部長　坂本

昭31.1.9 第649

あけましておめでとうございます。

年あけとともに、容易ならぬ年だという感じがしますが、こよりも、生活と平和を守るために一反努力しましよう。

さて、新春第一回の支部拡大幹事会を前回の幹事会申合せのとおり、つぎの要領でひらきますから、どうか御出席をおねがいします。

とき　一月一六日（火）午後一時から一七日（水）

ところ　筑紫郡二日市町　紫水荘　（二日市三三六（板坂貞雄宅））

教宣

試題

報告

討議事項

一、第十三回全国総会試案の検討

試案は別便で発送しました労農紙反会報十二月号にあります。

あらかじめ御検討の上、積極的に意見をだして下さい。

二、各組合新年号の相互批判

参加されるとき、新年号を二十部ぐらいもってこなければ、できるだけの部数）を御持参下さい。

三、第九回九州支部総会開催についての対策、日程、起草委員会の構成など

四、（こんごの活動について

なお、全国総会は、一月二五日から三日間、静岡県伊豆、今井浜でひらかれ、同会場で二十四日には、労農紙通信社の全国総会がおこなわれます。

結了

拡大幹事会案内状

日本炭鉱紙労会九州支部
支部長　坂本

総合長	
副組合長	
書記長	
戦務部長	柴
給與部長	
生産部長	
厚生部長	
教宣部長	

昭31.1.9 第649

ておめでとうございます。

ともに、容易ならぬ年だという感じがしますが、こよりも、生活守るために一層努力しましよう。

春オ一回の支部拡大幹事会を前回の幹事会申合せのとおり、つぎひらきますから、どうか御出席をおねがいします。

一月一六日（火）午後一時から一七日（水）

筑紫郡二日市町　紫水荘　別言市三三六（板垣貫治宿泊所）

教宣

試題

報告

討議事項

一、オ十三回全国総会試案の検討

試案は別便で発送しました炭鉱紙労会報十二月号にあります。

あらかじめ御検討の上、積極的に意見を出して下さい。

二、各組合新年号の相互批判

参加されるとき、新年号を二十部ぐらいわければ、できるだけの部数）を御持参下さい。

三、オ九回九州支部総会開催についての対策、日程、起草委員会の構成

四、こんごの活動について

なお、全国総会は、一月二五日から三日間、福岡県伊豆、今井浜でひらかれ、同会場で二十四日には、炭鉱紙通信社の全国総会がおこなわれます。

結了

組合長	副組合長	書記長	戦務部長	給與部長	生産部長	厚生部長	教宣部長

一九六二年一月一日

第十三回全国総会召請状

様

東京都港区芝愛宕町[illegible]
日本機関紙協会
理事長　高垣礼二郎
電話　四三一一五九六〇番
　　五〇一一八六九八番

明けましておめでとうございます。労働運動や平和と民主主義運動で、世界の兄弟との連帯をふかめたわたしたちは、新たな希望をもつて、一九六二年をむかえました。ことしも、安保体制をやぶり、統一行動と統一宣伝をつよめるために、ガンバリましよう。

さて、協会規約十条により、左記のとおり第十三回全国総会をひらきますので、召請いたします。こんどの総会は、統一斗争で力量を高めた労働者階級が中心になつて、国民的規模の統一宣伝をすすめるにはどうしたらよいのかの方向をきめる重要な意義をもつています。いつものように、協会加盟、非加盟をとわず、全国の仲間が集つて「全国機関紙・教宣活動者こん談会」としてひらきます。ふるつてご参加下さるようお願い申上げます。

なお、総会は規約により、委任状をふくめ過半数の出席によつて成立しますので、万一欠席のばあいは、同封委任状を、本部事務局まで郵送下さい。

記

一、日時　一九六二年一月二五日（木）正午開会、二六日（金）　二七日（土）　三日間
一、会場　静岡県・今井浜　松屋ホテル（電話　河津浜　一三　二一四）
　東海道線熱海駅から伊東線にのりかえ、伊東から伊豆急行にのり、河津駅下車。
　会場までバスあり。

一、日程
　＜第一日＞　全体会議（正午開会）
　1、一九六二年の機関紙宣伝活動（案）基調報告
　2、講演　日本機関紙通信社理事長　長島又男氏（予定）
　3、分散会
　　十五、六人が各室にわかれ、講案を中心に討議したり、各自のなやみをだしあつて、経験交流のなかから問題を解決したい。
　＜第二日＞　分散会と分科会
　　午前中は前日にひきつづき分散会
　　午後は分科会（五分科会）
　1、教宣活動の改善と展望
　2、統一宣伝と通信員活動
　3、職場活動と教宣活動
　4、視聴覚など多種多様な宣伝手段
　5、文化活動と教宣活動
　＜第三日＞　全体会議（正午閉会の予定）
　1、まとめ
　2、日本機関紙協会のこれからの事業活動
　3、その他
一、参加費　資料代をふくめて一名四〇〇円、未加盟団体は一名五〇〇円
一、宿泊費　一泊三食付一〇〇〇円
△お願い▽
　1、全国理事会が二十五日（木）午前十時半から会場でひらかれますので、全国理事はなるべく二十四日夜までにお出下さい。そのばあい、準備の都合上、本部事務局へ連絡して下さい。
　2、各参加団体の活動報告をプリントして交換しましよう。三〇〇部用意して下さい。
　3、会場の今井浜は伊豆国立公園の一部で、伊豆七島を指呼におさめる既い静かな海岸です。

昭37.1.9
第65

委　任　状

都合のため第十三回全国総会に出席できませんので、議事いつさいを議長に一任します。

一九六二年一月　　日

団体名　　㊞

日本機関紙協会
第十三回全国総会議長　殿

組合長	
副組合長	
書記長	
政策部長	
教宣部長	
生産部長	
厚生部長	
教宣部長	

結了 第14回 九州教育宣伝学校のご案内

しの春斗は、政府、日経連、ブルジョア宣伝のはげしい攻撃にもかかわ
これまでになく、はばひろく、長期にたたかっています。
私たちは、平和を守り、生活向上をたたかいとるため、ことしの春斗、および
そのなかでの教宣活動を総括し、こんごの斗争に備え、さしあたっては、参院選
での民主勢力の飛躍的前進をかちとる必要があります。
その一助として、第十四回九州教育宣伝学校を、つぎの要領でひらきますので
積極的な御参加をおねがいします。

一九六二年五月

日本機関紙協会九州支部

教宣

実行委員団体

日炭高松労仂組合
八幡製鉄労仂組合
三菱化成黒崎工場労仂組合
杵島炭鉱労仂組合
宇部興産炭鉱労仂組合

後援団体

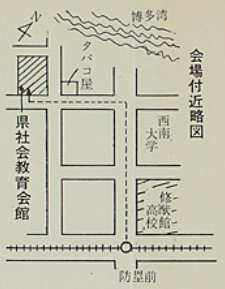
鉄鋼労組連合会九州地協
炭労九州地方本部
全国金属福岡地方本部
電機労連九州地協
全国相互銀行従組連合九州支部
自治労福岡県本部

一、とき　五月十八日（金）午後一時から同二十日（日）正午まで

一、ところ　福岡市西新町藤崎
福岡県社会教育会館
電話㊗三五八〇番

一、参加費　（テキスト代含む）
イ、受講料　三日間　一人八百円
会員団体　一人六百円
ロ、宿泊料　二泊三日六食　一人　壱千円

〈会場〉
博多駅から「姪の浜」行電車により「防塁前」で下車、海に向って徒歩十分



日程

五月十八日（金よう）
一三・〇〇　開校
一四・〇〇　講義　春斗から選挙へ
教宣活動の諸問題
九州支部事務局長　森　一作
一七・〇〇　夕食、入浴
一九・〇〇　部屋別交流会
五月十九日（土よう）
〇八・〇〇　朝食
〇九・〇〇　講義　最近の機関紙活動
全国機関紙コンクールを審査して
本部事務局　福谷保夫
一二・〇〇　中食
一三・〇〇　講義
62年春斗の総括
九州産業労仂科学研究所　天野順二
一七・〇〇　夕食、入浴
一九・〇〇　産業別交流会
五月二十日（日よう）
〇八・〇〇　朝食
〇九・〇〇　全体討議と総括
一一・三〇　閉校式
一二・〇〇　中食、解散

〈注意〉
1、受付は、十八日正午からはじめます。昼食は済してお集り下さい。
2、会場の都合でおことわりすることがありますので申込書で早目に申込んで下さい
3、三日間通してなく、途中から参加する方途中でかえる方など、受付でご相談下さい。

切取線

申込書

第十四回九州教育宣伝学校に参加します

人員　名
男　名
女　名

月　日

組合名　㊞

教宣学校実行委員会　御中

37.5.11

幹事会招請状

日本機関紙協会九州支部

支部長　坂本　孝

日本機関紙協会九州支部第九回支部総会を前に、幹事会をつぎのとおりひらきますので、御出席下さい。

とき　五月十七日（木よう）午後一時より

ところ　福岡市西新町藤崎　社会教育会館

議題

支部総会対策

至誠報告、活動方針の検討、予算決定、その他。

なお、翌十八日からは教育直区等校ですから、幹事の方は、そのまま実行委員として、参加下さい。

11

結了

第九回支部総会召請状

日本機関紙労会九州支部
支部長　坂本　学

組合長	田
副組合長	
書記長	
財政部長	
給與部長	
生産部長	
厚生部長	
教宣部長	

御健勝のこと上おもいます。

さて、機関紙労会九州支部規約第十条により、つぎの上おり第九回支部総会を召請いたしますので、御多用中上は恐いますが、どうか御出席をおねがいします。

なお、総会は規約により委任状を少くめ、過半数の出席により成立しますので、御欠席の場合は、同封の委任状を郵送下さい。

一九六二年五月

記

16

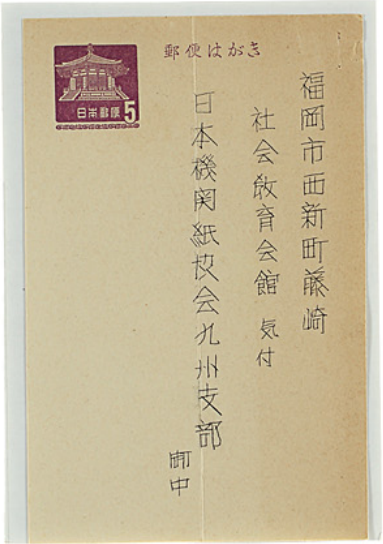
とき　五月二十日（日）午後一時から

ところ　福岡市西新町藤崎　福岡県社会教育会館

議題

1　至過報告
2　決算報告、会計監査報告
3　活動方針について
4　予算審議
5　役員改選

福岡市大濠郵便局受付
昭 37.5.12 和
第892号


郵便はがき
日本郵便 5
福岡市西新町藤崎
社会教育会館 気付
日本機関紙協会九州支部
御中